Light you up
DAIHATSU

01999-B1252

Rocky

取扱説明書
（抜粋版）

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。

本書は安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報を抜粋した取扱説明書です。
基本的な操作は、別冊の「クイックガイド」に記載しています。
さらに詳しい取り扱い情報は、スマートフォンでご覧いただける「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」に記載しています。
お車に乗られる際には、別冊の「クイックガイド」、「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」も併せてお読みください。

▼ダイハツ取扱説明書アプリのご案内

スマートフォンでご覧いただけるアプリをご提供しています。
ビジュアルから各部の使い方がわかるなど便利な機能を搭載しています。

App Store からダウンロード
iPhone 用

Google Play で手に入れよう
Android 用

- アプリケーションは iPhone または Android でご利用いただけます。
- Apple、Apple のロゴ、iPhone は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴは、Google LLC の商標または登録商標です。

▼取扱説明書（詳細版）のご案内

ダイハツ工業株式会社ホームページにて、取扱説明書（詳細版）を電子データ形式で
ご提供しています。
取扱説明書の提供ページで「Rocky」を選択し、閲覧してください。

取扱説明書の提供ページ
https://www.daihatsu.co.jp/service/torisetu/index.htm

なお、取扱説明書（詳細版）の紙書籍をご用意しています。
ご購入を希望される方は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ご愛車のために

お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。

- 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
- 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
- ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

本書の内容について

- お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
- ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	**安全・安心のために**	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	**計器の見方**	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	**各部の操作**	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	**運転**	運転に必要な操作やアドバイス
5	**室内装備・機能**	室内装備の使い方など
6	**お手入れのしかた**	お車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	**万一の場合には**	故障したときや、緊急時などの対処
8	**車両情報**	お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

知っておいていただきたいこと

不正改造について

●ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

●車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

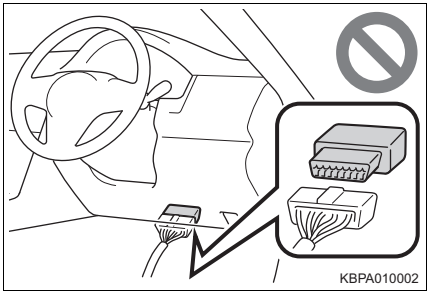
●次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機の取り付け・取り外し
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては P. 4 も参照してください。

●フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリー<補機バッテリー>があがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

●車両の各システムの作動状況

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

●ハイブリッドシステム★

●EFI※ コンピューター

●スマートアシスト

●VSC

●SRS エアバッグ

●シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

アマチュア無線の一部において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※ "EFI" はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

本書の見方

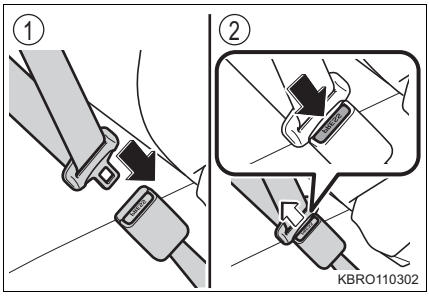
警告 お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3 … 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

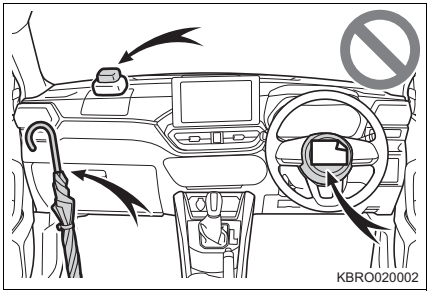
: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

: “し て は い け ま せ ん”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。



知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

ガソリン車／ハイブリッド車の表現の違いについて

ハイブリッド車特有の語句はガソリン車特有の語句の後ろに書かれています。

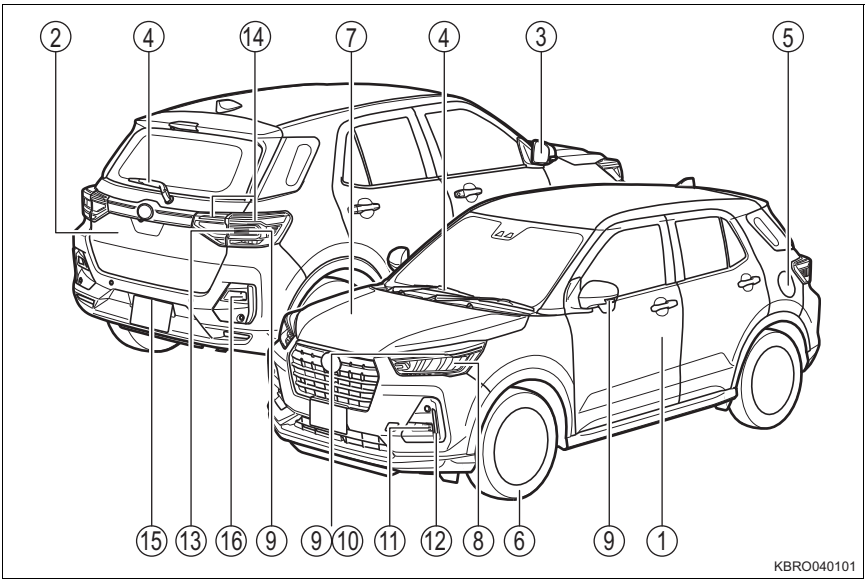
例：エンジンスイッチ※1＜パワースイッチ＞※2 を“ON”にします。

※1 ガソリン車

※2 ハイブリッド車

イラスト目次

外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

① ドア ……**P. 72**

施錠／解錠 ……P. 72

ドアガラスの開閉

キーでの施錠／解錠★ …… P. 293

警告灯★・警告メッセージ★ …… P. 243, 249

② バックドア ……**P. 75**

施錠／解錠 …… P. 75, 66

警告灯★・警告メッセージ★ …… P. 243, 249

③ ドアミラー ……**P. 80**

鏡面の角度調整

ミラーの格納

曇りを取る（ミラーヒーター）★

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

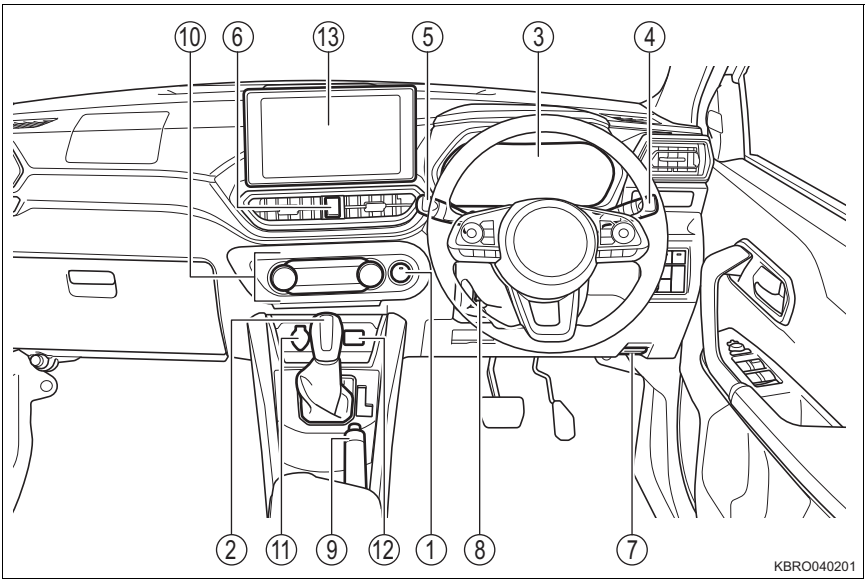
④ **ワイパー** …… **P. 111, 112**
冬季の注意
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★
ワイパーゴムの交換
⑤ **給油口** …… **P. 113**
給油方法
燃料の種類・燃料タンク容量 …… P. 304
⑥ **タイヤ** …… **P. 227**
サイズ・空気圧 …… P. 308
冬用タイヤ・タイヤチェーン …… P. 204
点検・ローテーション …… P. 227
パンク時の対処 …… P. 276
⑦ **ボンネット** …… **P. 225**
開け方
エンジンオイル …… P. 304
オーバーヒート時の対処 …… P. 298

走行にかかわる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 234, ワット数：P. 308）

⑧ **ヘッドランプ** …… **P. 102**
⑨ **方向指示灯** …… **P. 97**
⑩ **車幅灯** …… **P. 102**
⑪ **フロントフォグランプ★** …… **P. 110**
⑫ **LED イルミネーションランプ★** …… **P. 102**
⑬ **後退灯**
シフトポジションを R にする …… P. 93, 94
⑭ **尾灯** …… **P. 102**
⑮ **番号灯** …… **P. 102**
⑯ **リヤフォグランプ★** …… **P. 110**

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インストルメントパネル



① エンジンスイッチ（ガソリン車）……P. 88

エンジンの始動・モード切り替え ……P. 88

エンジンの緊急停止 …… P. 240

エンジンが始動できないときの対処 …… P. 292

警告灯★・警告メッセージ★ …… P. 243, 249

パワースイッチ（ハイブリッド車）……P. 90

ハイブリッドシステムの始動・モード切り替え ……P. **90**

ハイブリッドシステムの緊急停止 …… P. 240

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 …… P. 292

警告メッセージ …… P. 249

② シフトレバー …… P. 93, 94

シフトポジションの切り替え …… P. 93, 94

けん引時の注意 …… P. 242

シフトレバーが動かないときの対処

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

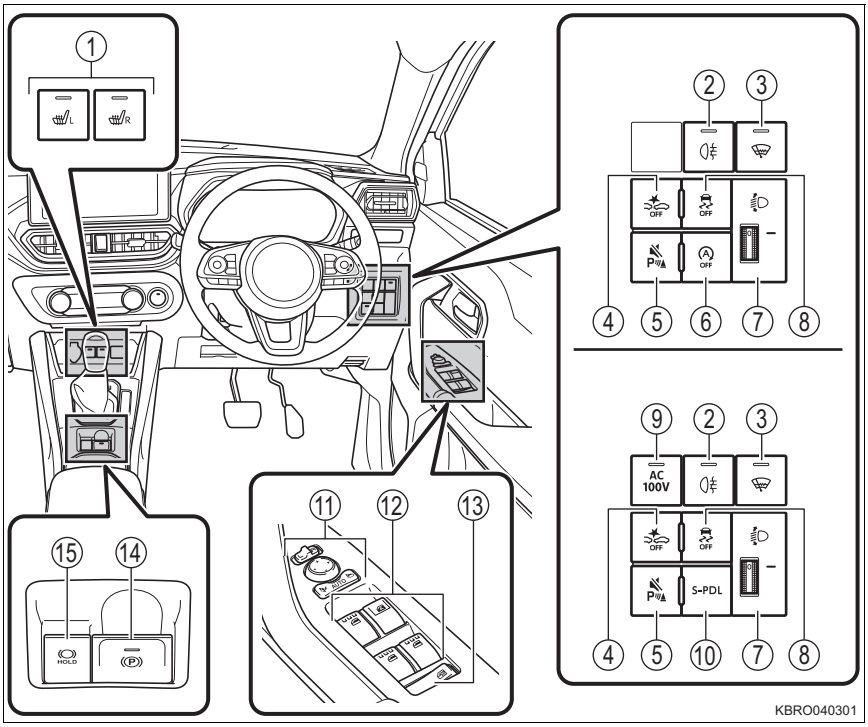
③ メーター ……**P. 55**
見方・明るさの調整 ……P. 59
警告灯／表示灯 ……P. 48
警告灯点灯時の対処 …… P. 243
マルチインフォメーションディスプレイ★ ……**P. 56**
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★ ……**P. 57**
表示内容 …… P. 56, 57
警告メッセージ表示時の対処★ …… P. 249
④ 方向指示レバー ……**P. 97**
ランプスイッチ …… **P. 102**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など …… P. 102
フロントフォグランプ★ …… P. 110
⑤ ワイパー&ウォッシャースイッチ …… **P. 111, 112**
使い方 …… P. 111, 112
ウォッシャー液の補充 …… P. 226
⑥ 非常点滅灯スイッチ
⑦ ボンネット解除レバー
⑧ チルトステアリング ……**P. 79**
⑨ パーキングブレーキ★
かける・解除する
冬季の注意 …… P. 204
警告ブザー・警告メッセージ★ …… P. 54, 262
⑩ エアコン …… **P. 206, 207**
操作方法
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）
ウインドシールドデアイサー★
⑪ アクセサリーソケット
⑫ USB ソケット…… **P. 211**
HDMI 端子★
⑬ オーディオ★※

※オーディオに付属の取扱説明書を参照してください。

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチ類



① シートヒータースイッチ★ …… P. 208

② リヤフォグランプスイッチ★ …… P. 110

③ ウインドシールドデアイサースイッチ★

④ スマートアシスト OFF スイッチ…… P. 117

⑤ コーナーセンサーブザー OFF スイッチ…… P. 177

⑥ eco IDLE OFF スイッチ★ …… P. 163

⑦ 手動光軸調整ダイヤル★ …… P. 104

⑧ VSC・TRC OFF スイッチ …… P. 202

⑨ AC100V スイッチ★ …… P. 212, 216

⑩ S-Pedal スイッチ★ ……P. 95

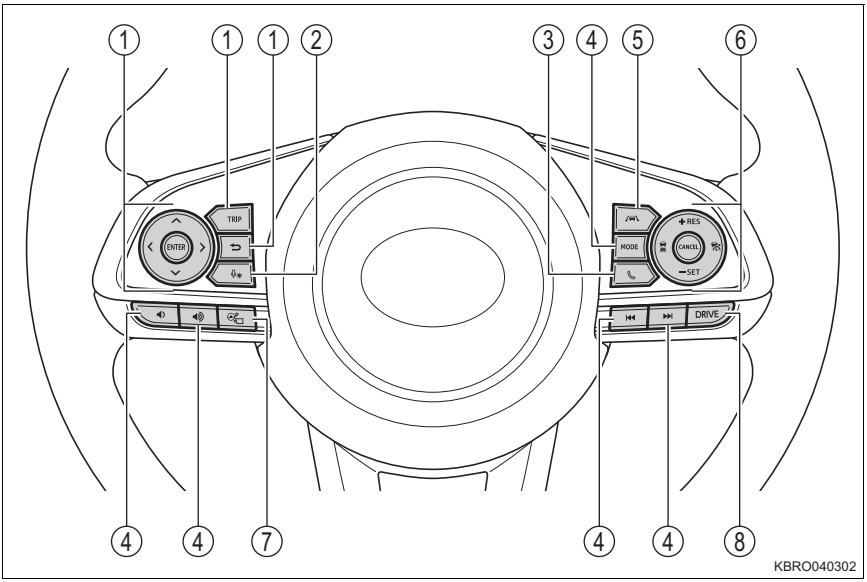
ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⑪ ドアミラースイッチ
⑫ パワーウインドウスイッチ
⑬ ウインドウロックスイッチ ……P. 80
⑭ パーキングブレーキスイッチ★ ……P. 98
かける・解除する ……P. 98
冬季の注意 …… P. 204
警告ブザー・警告メッセージ …… P. 54, 249
⑮ オートブレーキホールドスイッチ★ …… P. 100

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ



ステアリングスイッチの配置は、グレードなどで異なります。

① メーター操作スイッチ★ ……P. 58

② トークスイッチ★※

③ 電話スイッチ★※

④ オーディオ操作スイッチ★※

⑤ LKC スイッチ★ …… P. 160

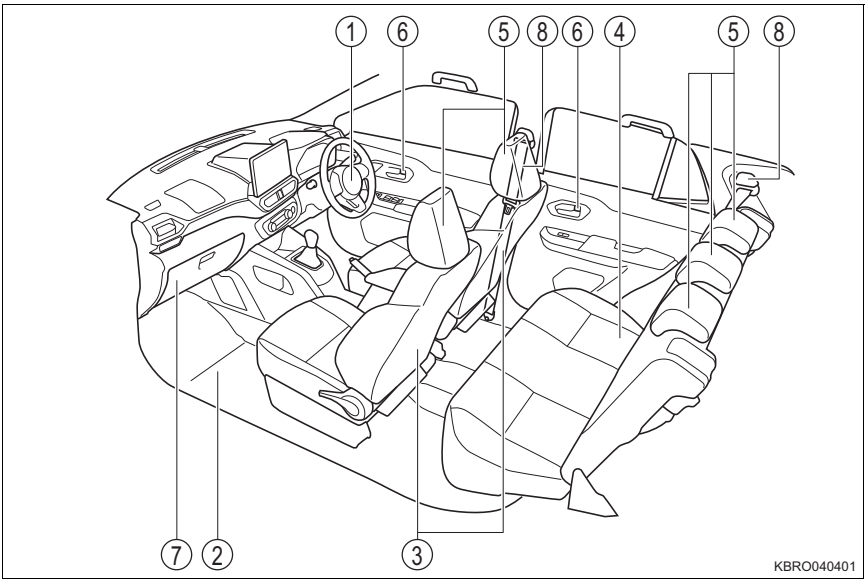
⑥ 全車速追従機能付 ACC 操作スイッチ★ …… P. 148

⑦ カメラ／パーキングアシストスイッチ★ …… P. 186

⑧ ドライブモード切替ステアリングスイッチ★ ……P. 95

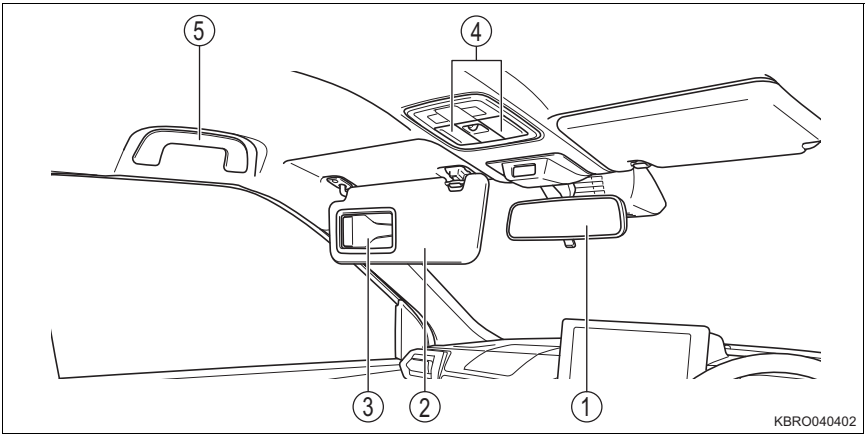
※ 装着されているオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

室内



① SRS エアバッグ……P. 20
② フロアマット……P. 16
③ フロントシート……P. 77
④ リヤシート……P. 77
⑤ ヘッドレスト……P. 78
⑥ ロックレバー
⑦ グローブボックス
⑧ シートベルト……P. 18

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。



① インナーミラー ……P. 79

② サンバイザー※ …… P. 211

③ バニティミラー

④ フロントパーソナルランプ

⑤ 格納式アシストグリップ …… P. 212

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 27)

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に …… 16

安全なドライブのために …… 17

シートベルト …… 18

SRS エアバッグ …… 20

排気ガスに対する注意 …… 24

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは …… 25

チャイルドシート …… 25

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴（ハイブリッド車）…… 38

ハイブリッドシステムの注意（ハイブリッド車）…… 41

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム …… 44

セキュリティアラーム …… 45

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

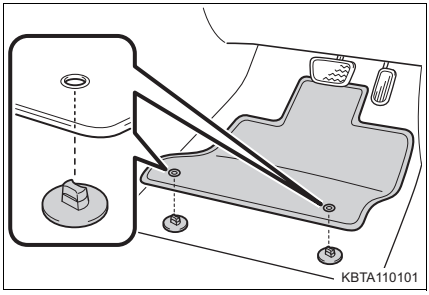
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

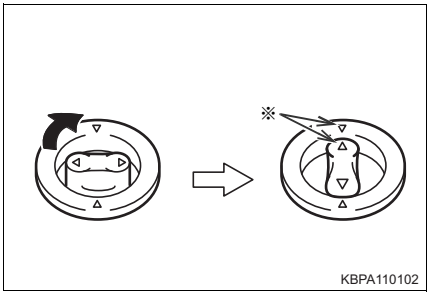
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

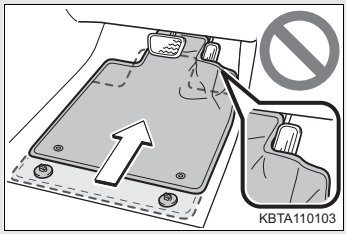
■運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン<ハイブリッドシステム>停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

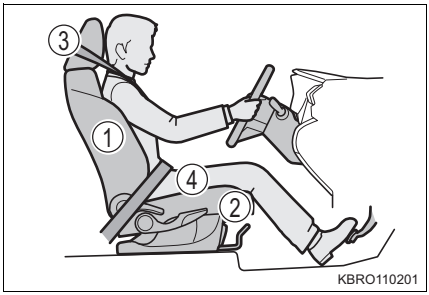


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

①まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
②ペダルをしっかり踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
③ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 78）
④シートベルトを正しく着用する（→ P. 18）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 18）
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 25）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 警告

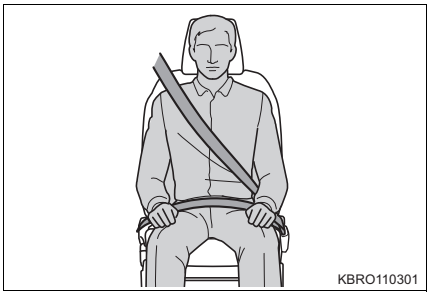
- 他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

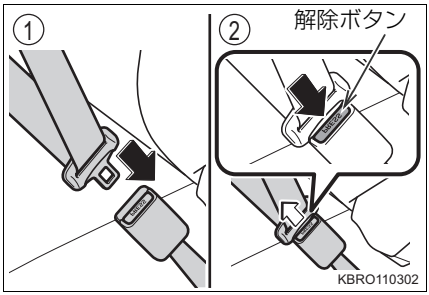
- 肩部ベルトを肩に十分かける
  首にかかったり、肩から外れないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・外し方

①ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに差し込む

②ベルトを解除するには、解除ボタンを押す
ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない

- ●ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- ●シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

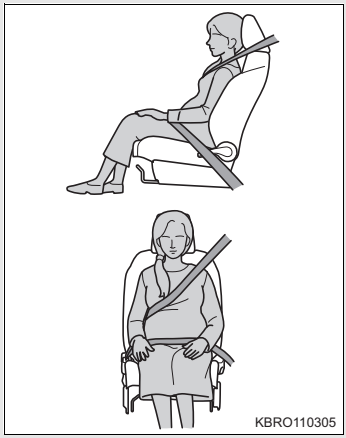
■お子さまのシートベルトの使い方

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- ●シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 25)
- ●シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 18)

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 18)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→ P. 35

⚠ 警告

■ シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて

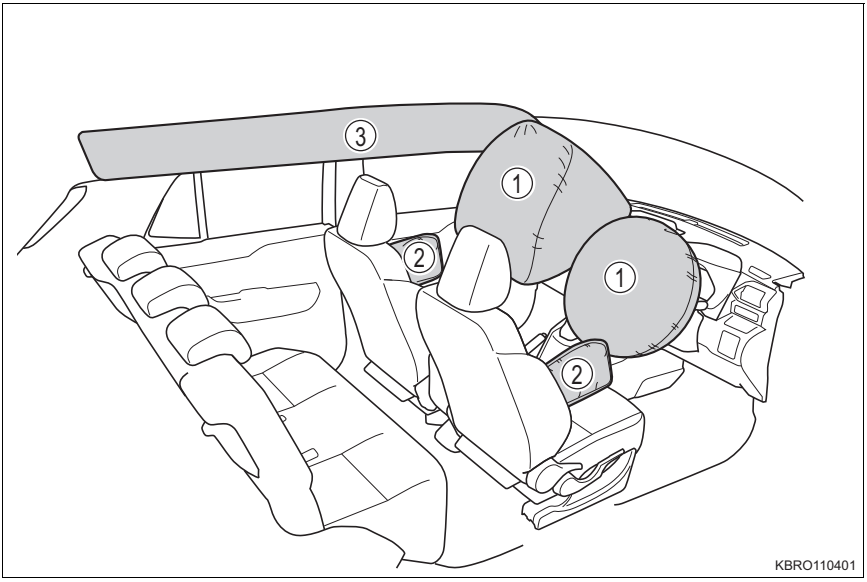
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

②SRS サイドエアバッグ
（前席乗員の胸などへの衝撃を緩和）
③SRS カーテンシールドエアバッグ
（前席と後席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 25）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

KBRO110402

- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

KBRO110403

- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

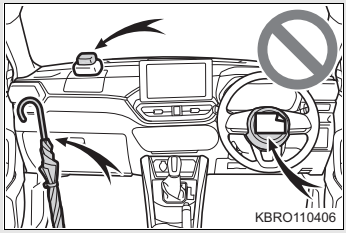
KBRO110404

- 助手席や後席では、ドアに向かってひざをついたり、手足や顔などを出したりしない

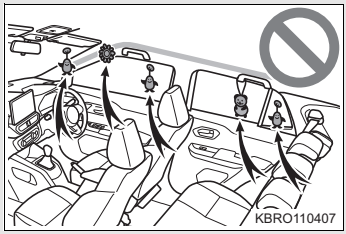
KBRO110405

⚠ 警告

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限シールを除く：→ P. 281）



●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのを妨げ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。

■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

■改造・廃棄について

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取り外し・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動するとき

- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - 前方約 30° 以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき
  - 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

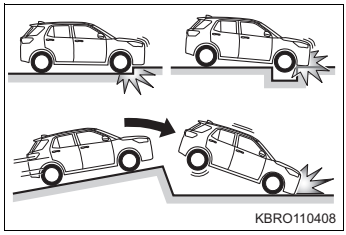
■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 50km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動します。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


KBRO110408

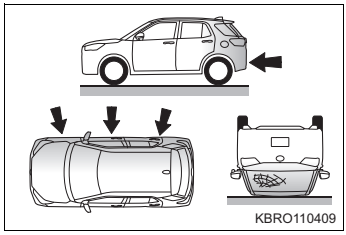
■SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグはエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が“OFF”、“ACC”のときに衝突しても作動しません。

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

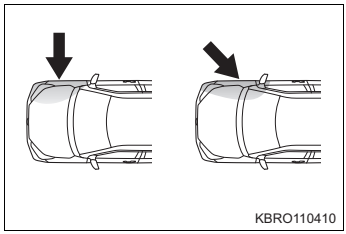

KBRO110409

知識

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

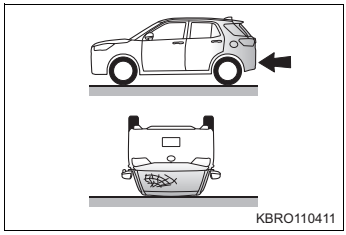
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃


KBRO110410

SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転


KBRO110411

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、ただちにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジン<ハイブリッドシステム>を停止してください。
- 長時間エンジンをかけたまま<ハイブリッドシステムを作動させたまま>にしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所にお車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたまま<ハイブリッドシステムを作動させたまま>にしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

●お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 25）
●運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。
●走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター・ウインドウロックスイッチ（→ P. 80）を使用してください。
●小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・ドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

●お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 25 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。
●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
●ダイハツでは、より安全にお使いいただくために、ダイハツ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
ダイハツ純正チャイルドシートは、ダイハツ車のために作られたチャイルドシートです。ダイハツサービス工場で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

●チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
●お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
●お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
●すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 29）

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN（ECE）R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0：　10kg まで

グループ 0^+：　13kg まで

グループⅠ：　9 ～ 18kg

グループⅡ：　15 ～ 25kg

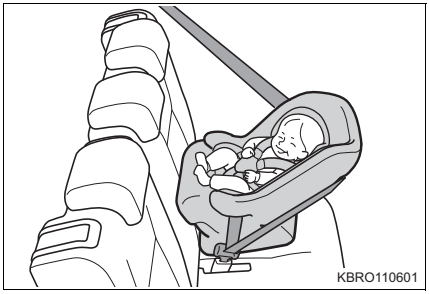
グループⅢ：　22 ～ 36kg

※ UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

▶ベビーシート

UN（ECE）R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

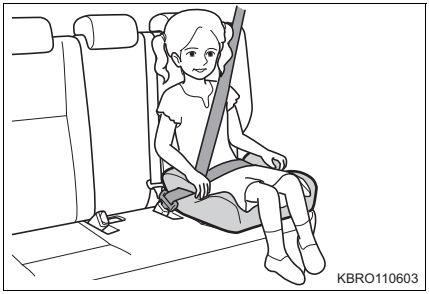


▶チャイルドシート

UN（ECE）R44 基準のグループ 0^+、Ⅰに相当

▶ジュニアシート

UN（ECE）R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ●ダイハツでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- ●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- ●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 29）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

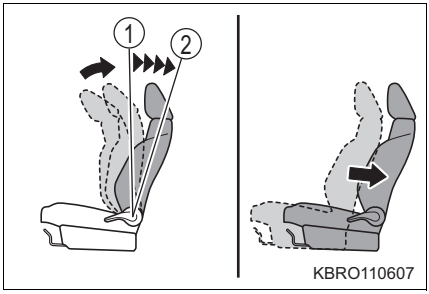
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。

- ●背もたれを一旦前に倒し、1段目の固定位置（①）まで起こし、5段目の固定位置（②）まで調整する
- ●ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外す（→ P. 78）
- ●シートをいちばん後ろに下げる



⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

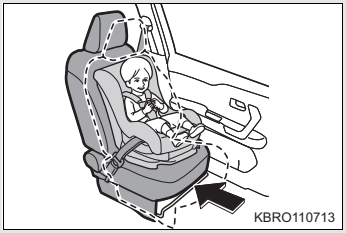
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

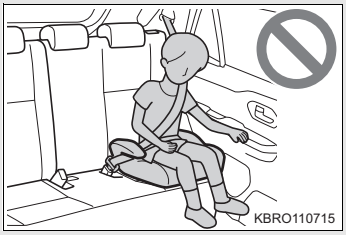
● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

● やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

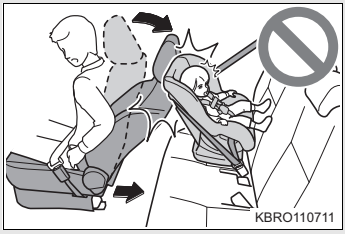


■ チャイルドシートを使用するとき

● チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



● ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
● お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
● 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
● 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 30）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 32）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

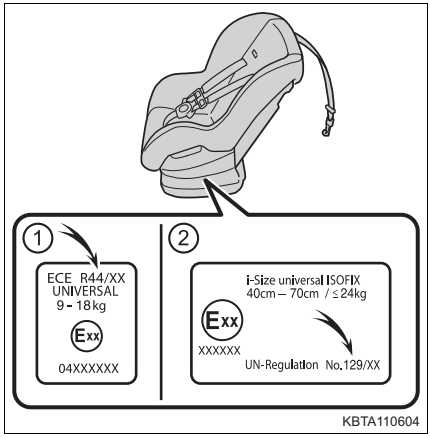
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN（ECE）R129 認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

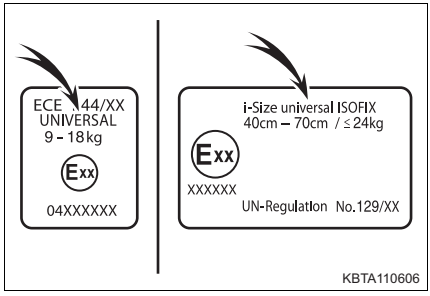
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

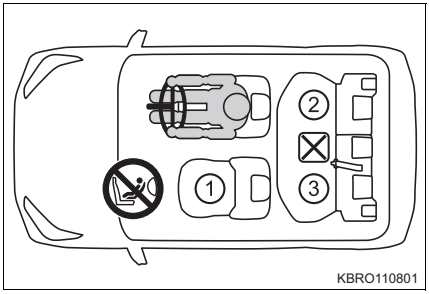
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル
「universal（汎用）」
- セミユニバーサル
「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド
「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック
「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



①※1、2、3	U ※5
②※3、4	U L i-Size ISOFIX
③※3、4	U L i-Size ISOFIX

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 32）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

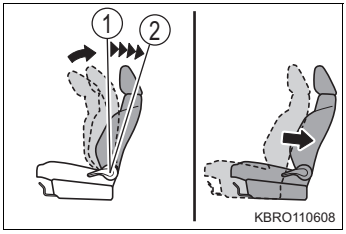
トップテザーアンカーが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

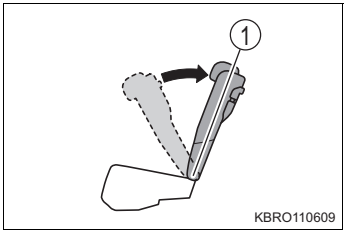
※1 シートをいちばん後ろに下げた状態で取り付けてください。

※2 背もたれを一旦前に倒し、1段目の固定位置（①）まで起こし、5段目の固定位置（②）まで調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。

※4 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こした位置に調整してください。



※5 チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
i-Size 着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適用範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
ダイハツ純正チャイルドシート（i-Size）（ISOFIX 固定専用）	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	○

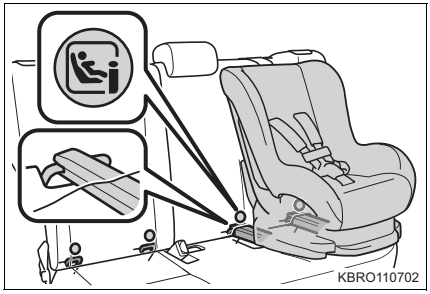
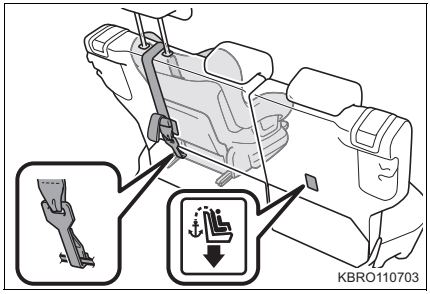
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	KBRO110701	P. 34
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する	 KBRO110702	P. 35
テザーベルトを固定する	 KBRO110703	P. 37

チャイルドシートをシートベルトで固定する

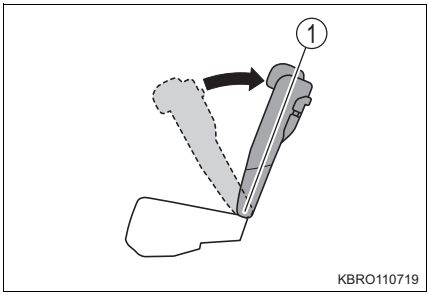
■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 30）

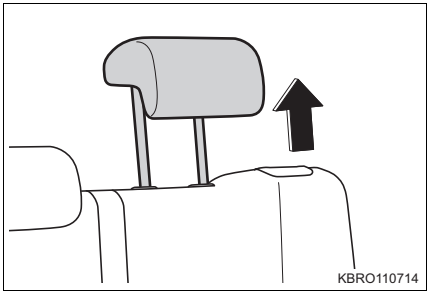
1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する （→ P. 27）

2 背もたれを一旦前に倒し、1段目の固定位置（①）まで起こした位置に調整する



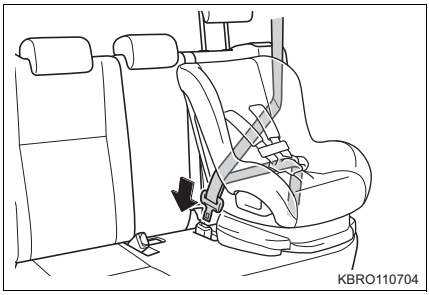
3 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 78）



4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

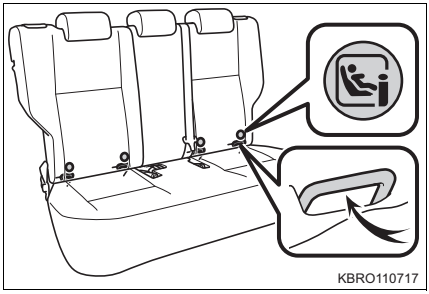
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

このお車はリヤ外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)

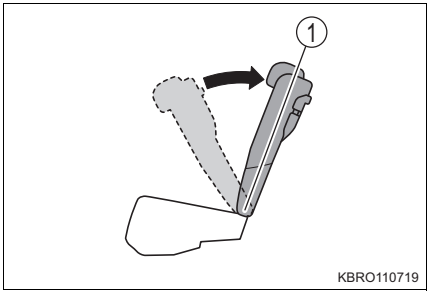

KBRO110717

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 29)

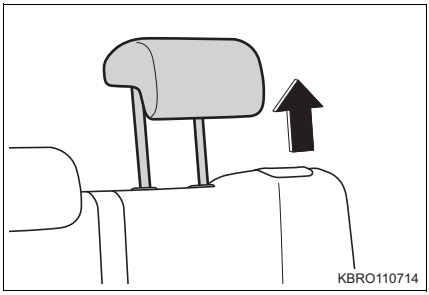
1 背もたれを一旦前に倒し、1段目の固定位置（①）まで起こした位置に調整する



KBRO110719

2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

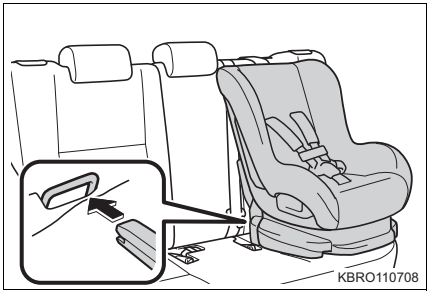
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。(→ P. 78)



3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

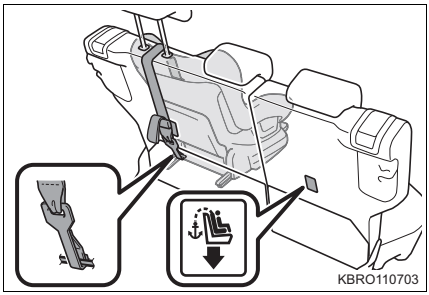
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

このお車はリヤ外側席にトップテザーアンカーが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

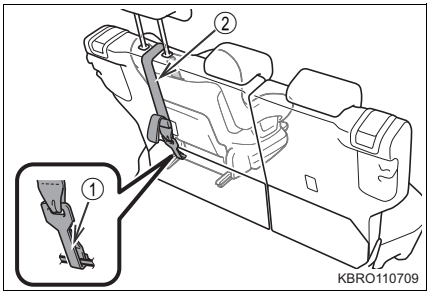
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

① フック

② テザーベルト



2 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■リヤヘッドレストについて

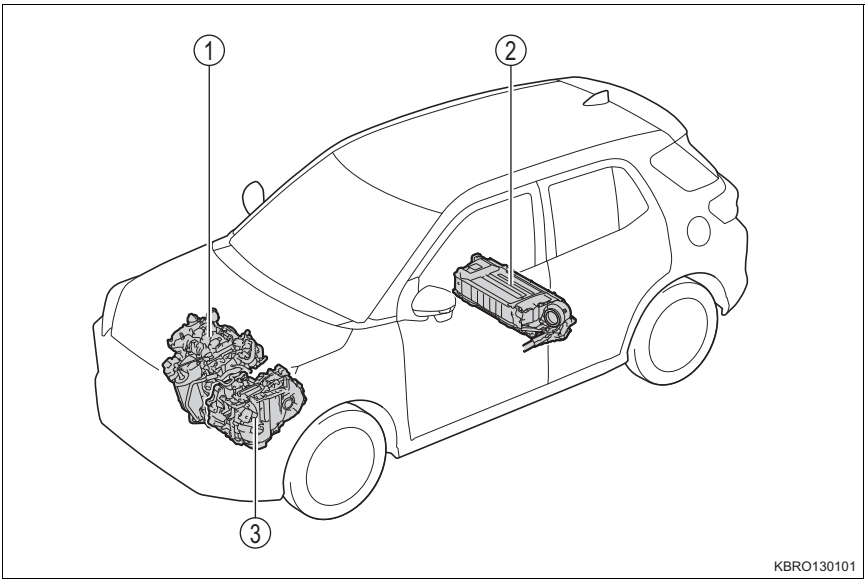
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストの取り外しが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

ハイブリッドシステムの特徴（ハイブリッド車）

ハイブリッドシステムは、ガソリンエンジンで発電用モーターを回転させて発生した電力を駆動用モーターと駆動用電池に供給し、駆動用モーターによる走行、駆動用電池の充電を最適に制御して、動力性能と燃費性能を高い次元で両立したシステムです。

システム構成部品

■ システムの構成部品



① ガソリンエンジン
② 駆動用電池
③ 発電用モーター、駆動用モーター

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。

発進時はガソリンエンジンを停止※ し、駆動用電池の電力を駆動用モーターに供給し発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、駆動用電池の電力のみで走行します。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンで発電用モーターを回転させて発電した電力を駆動用モーターに供給し走行します。

駆動用電池の充電が必要なときは、ガソリンエンジンの出力を上げて駆動用電池を充電します。

■ 加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンの出力が上がり、発生する電力が上がります。その電力を駆動用モーターに供給し、出力を上げて加速します。

さらに加速するときは、駆動用電池からも駆動用モーターに電力を供給し、さらに出力を上げて力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

ガソリンエンジンを停止※ し、タイヤの回転で駆動用モーターを回転させて発電し、駆動用電池を充電します。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

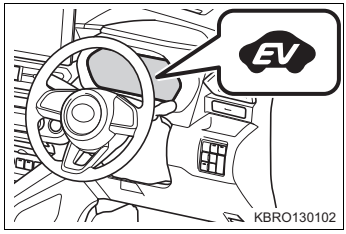
知識

■回生ブレーキについて

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルを戻したとき、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電するとともに減速力を得ることができます。
- ハイブリッドシステムに異常があるときは、回生ブレーキの作動は制限されます。
- ABS や VSC が作動しているときは、回生ブレーキの作動は制限されます。
- 滑りやすい路面では回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。
- 駆動用電池が満充電に近いときや、駆動用電池の温度が高いまたは低いときは、回生ブレーキの効きが弱かったり回生ブレーキが作動しないことがあります。
- 回生ブレーキの効きが弱く、減速力がいつもより弱いと感じたときは、ブレーキペダルを踏み込んでください。
- 回生ブレーキが作動すると、発生する減速度合いに応じて制動灯が点灯し、停車直前には消灯します。停車中はブレーキペダルを踏むことで、制動灯が点灯します。安全のためにも停車中は必ずブレーキペダルを踏んでください。
- 回生ブレーキにより駆動用電池を充電しているときは、パワーメーターはCHGエリアを示します。(→ P. 57)
- 駆動用電池が満充電になった場合は、回生ブレーキで発電した電力を、発電用モーターでガソリンエンジンを回転させることで消費させます。

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジンが停止しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンが始動するとき

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
次のようなとき、ガソリンエンジンが始動する場合があります。

- 駆動用電池の残量が少ないとき
- 駆動用電池が満充電で電池の残量を適正にコントロールしているとき
- 駆動用電池の温度が低いとき
- アクセルペダルを踏み込んだとき
- ブレーキペダルを踏み込んだとき（ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき）
- 長い下り坂を走行しているとき
- エアコンを暖房で使用しているとき
- エンジン冷却水温が低いとき

■バッテリーについて

- お車には駆動用電池と補機バッテリーの 2 種類が搭載されています。
- 駆動用電池は、主に次の機能を作動させるバッテリーです。
  - ハイブリッドシステム
  - エアコン
  - アクセサリーコンセント
  - 非常時給電システム

知識

●補機バッテリーは、主に次の機能を作動させるバッテリーです。

- ライト類
- ハイブリッドシステム、エアコンを除く各システム
- アクセサリーソケットなどの電装品

●補機バッテリーは READY インジケーターが点灯しているときに自動的に充電されます。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3か月に一度、約 30 分間または約 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはダイハツサービス工場にご連絡ください。

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトレバーを P にしてください。

●ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート、ラゲージルーム周辺から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。特に廃車する場合は、ダイハツサービス工場を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h を超えると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

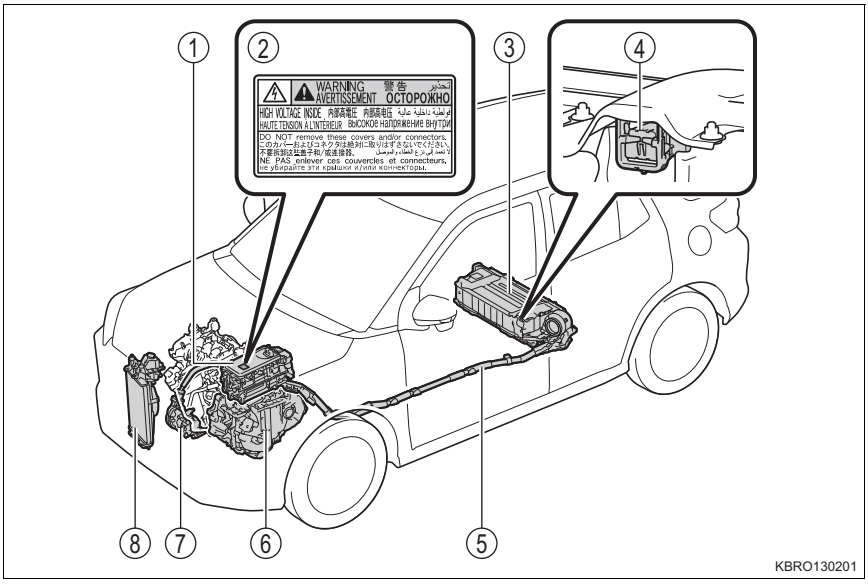
また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

ハイブリッドシステムの注意（ハイブリッド車）

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高電圧ケーブル・発電用モーター・駆動用モーターなどの高電圧部位（最高約 600V）や、ハイブリッドビークルラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼り付けてありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システム構成部品

■ システムの構成部品



①パワーコントロールユニット
②ラベル
③駆動用電池
④サービスプラグ
⑤高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑥発電用モーター、駆動用モーター
⑦エアコンコンプレッサー
⑧ハイブリッドビークルラジエーター

知識

■ガス欠になったとき

- 燃料がなくなると、駆動用電池の残量が残っていても走行不能になるおそれがあります。
- ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯が消灯するまで給油してから再始動してください。
  また、少量の給油では始動できない場合があります。車両が水平状態で約 5L 以上を目安に給油してください。（傾斜により車両が傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

アマチュア無線の一部において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命はお車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合は、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

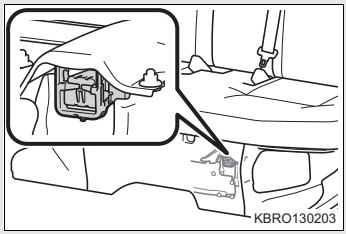
⚠ 警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧ケーブル（オレンジ色）およびそのコネクターに触れないでください。また、取り外し・分解なども絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。高電圧、高温部位などに貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。
  サービスプラグは絶対に触れないでください。サービスプラグは、ダイハツサービス工場での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧ケーブル（オレンジ色）などには、絶対に触れない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対に触れない
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
  駆動用モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。
- 車の下の路面などを確認し、液体の漏れ（エアコンの水以外）が見つかった場合、ハイブリッドシステムを始動しない
  燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険です。
  この場合は、ダイハツサービス工場に状況を連絡するときに併せてお伝えください。
- 液体の付着や漏れがある場合は絶対に触れない
  駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液が漏れている場合は、車両に近づかない
  万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気が発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近づけない
  電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 事故などで車両が破損し、安全であることを確認できない場合は、車両から離れてダイハツサービス工場に連絡する
  ダイハツサービス工場に連絡するときは、ガソリンエンジン車ではなく、ハイブリッド車である旨をご連絡ください。
- 板金･塗装による修理が必要な場合は、必ずダイハツサービス工場に連絡する
  車両が大きく破損･変形しているとき、破損の状態によっては漏電や感電のおそれがあります。

■走行中、床下に強い衝撃を受けたときは

安全な場所に停車し、損傷がないか点検してください。

床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずにただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

■駆動用電池について

- ●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取り外された駆動用電池は事故防止のため、ダイハツサービス工場を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
  - ・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

  特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- ●駆動用電池を取り外さないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターに触れると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、ダイハツサービス工場で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

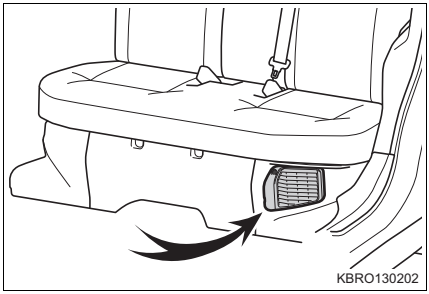
■駆動用電池冷却用の吸入口について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。

誤ってこぼしてしまったときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下（助手席側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。



知識

■駆動用電池冷却用吸入口のフィルター清掃について

吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をおすすめします。フィルターの清掃・交換については、P. 228 を参照してください。

⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

次のことを必ずお守りください。

駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になったり、駆動用電池を損傷したりするおそれがあります。

- ●吸入口をふさぐように荷物を置かない
- ●吸入口は、目詰まりしないように定期的に清掃する
- ●吸入口に水や異物を入れない

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限に抑えます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためダイハツサービス工場へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。警告メッセージは、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

知識

■**警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

再度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はダイハツサービス工場にご連絡ください。

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム

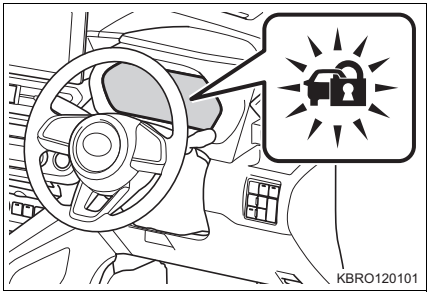
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジン<ハイブリッドシステム>を始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチ<パワースイッチ>を “OFF” にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を “ACC” または “ON” にするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■**メンテナンスについて**

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■**システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他車のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■**イモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取り外しをしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

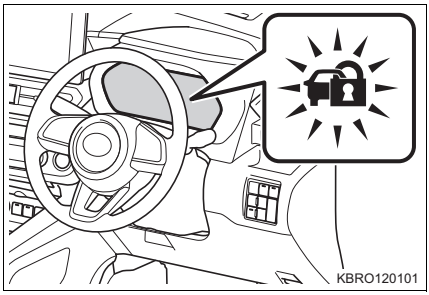
セキュリティアラームとは

セキュリティアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。セキュリティアラームを設定すると、施錠されたドアが、キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠して、開けられたときにセキュリティアラームが作動します。

セキュリティアラームを設定する

すべてのドアを閉め、キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

セキュリティアラームが設定されると表示灯は点灯から点滅に変わります。



セキュリティアラームの設定を解除する

次のいずれかを行ってください。

●キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ON”にする

セキュリティアラームの作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

●ワイヤレスリモコンのロック・アンロックボタンを押す

●キーフリーシステムで施錠・解錠する

●電子カードキーを携帯して乗車する

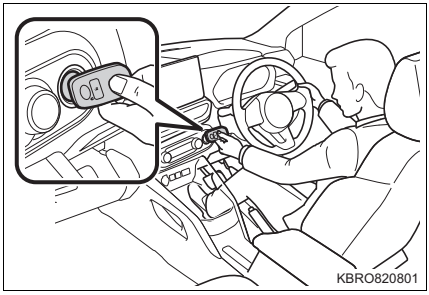
●エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ON”にする

■ 電子カードキーが正常に働かないとき

電池の消耗などで電子カードキーが正常に働かないときは、次の手順でセキュリティアラームの作動を停止してください。

1 ブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチ<パワースイッチ>に接触させる



知識

■ **メンテナンスについて**
セキュリティアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ **ドアを施錠する前の確認**
セキュリティアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ **セキュリティアラームの設定が中断される場合**
セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームの設定が中断されます。
- 運転席ドアを解錠したとき
- ドアを開けたとき
- エンジンスイッチ<パワースイッチ>を "ON" にしたとき

■ **セキュリティ表示灯について**
イモビライザーシステムの表示灯を兼ねているため、セキュリティアラームの設定を解除しても、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を "ACC" にするまで消灯しません。
また、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を "ACC" から "OFF" にすると点滅します。

■ **セキュリティアラームの作動について**
- セキュリティアラームは 2 段階で作動します。1 次作動の間に作動が停止されなかった場合、2 次作動に入ります。
  ▶ 1 次作動
  - セキュリティ表示灯が点滅
  - 室内ブザーが 10 秒間断続的に鳴る

  ▶ 2 次作動
  - セキュリティ表示灯が点滅
  - 非常点滅灯が 30 秒間点滅
  - ホーンが 30 秒間断続的に鳴る
- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再度設定状態になりますが、施錠はされません。お車から離れる際は確実に施錠してください。

■ **セキュリティアラームの作動履歴について**
エンジンスイッチ<パワースイッチ>の操作で、セキュリティアラームが作動したことをブザーで確認することができます。(2 次作動までした場合のみ)
- エンジンスイッチ<パワースイッチ>を "ON" にしたときに、「ピーッピッ」とブザーが鳴ります。
- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ確認することができます。

⚠ 注意

■ **セキュリティアラームを正常に作動させるために**
システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

計器の見方 2

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 48
計器類 …… 55
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 56
TFT カラーマルチ
インフォメーション
ディスプレイ …… 57

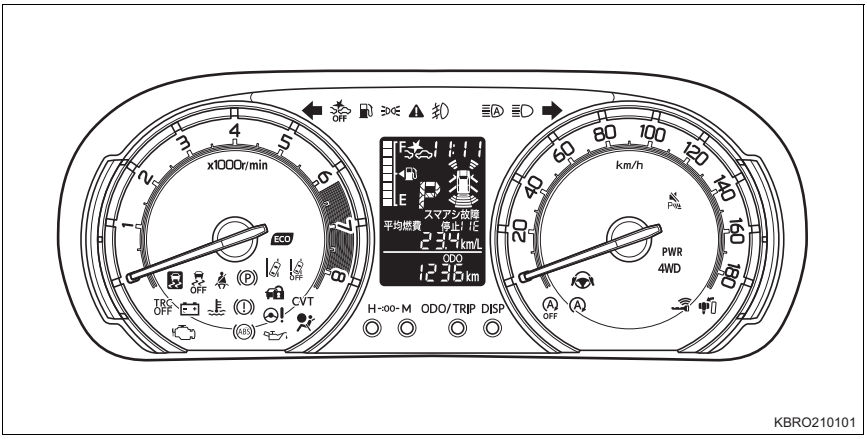
2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯

メーター・インナーミラー上部の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

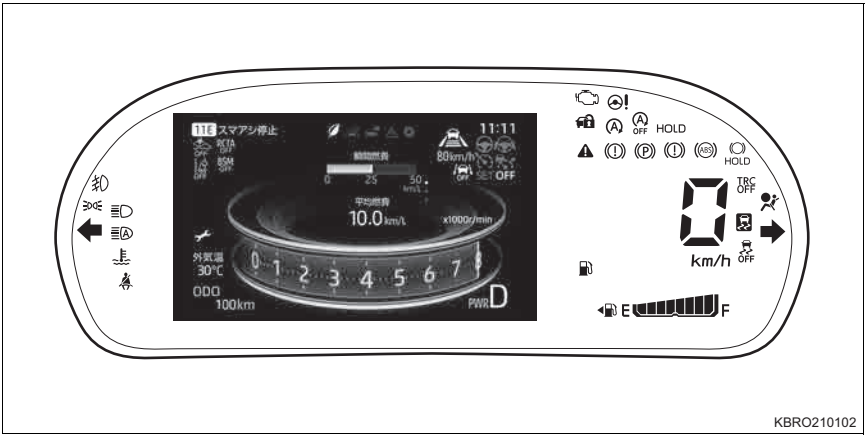
◆ メーター

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



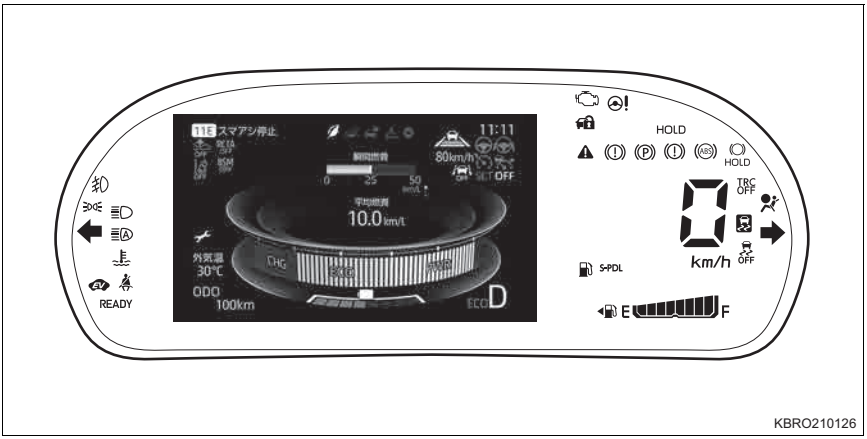
KBRO210101

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車（ガソリン車）



KBRO210102

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車（ハイブリッド車）



KBRO210126

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯（赤色／黄色★）	243
※1		充電警告灯★	243
※1		油圧警告灯★	243
※1		高水温警告灯（赤色）	244
※1		エンジン警告灯	244
※1	CVT	CVT 警告灯★	244
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	244
※1	ABS	ABS 警告灯	244
※1	HOLD	オートブレーキホールド作動表示灯（点滅）★	244
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	244

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
※1、2		キーフリー警告灯★	244
※1		AHB ／ ADB 警告灯（黄色）	244
※1、3		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	245
※1、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	245
※1、5		マスターウォーニング	245
		スマートアシスト故障警告灯★	245
		スマートアシスト停止警告灯	272
※1		ACC 警告灯（黄色）★	245
※1		LKC 警告灯（黄色）★	245
※6		コーナーセンサー表示灯★	245
※1、7		スリップ表示灯	245
※8		eco IDLE OFF 表示灯（点滅）★	246
※1		eco IDLE 表示灯（高速点滅）★	249
※1		4WD 警告灯★	246
※1		BSM OFF 表示灯★（点滅）	246
※1		RCTA OFF 表示灯★（点滅）	246
※1		ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯★	246

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
※1		手放し運転警告灯	247
		半ドア警告灯★	247
		燃料残量警告灯	247
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	247
※9		後席シートベルト締め忘れ警告灯	247
※10		パーキングブレーキ表示灯（点滅）	247

※1 作動確認のためにエンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジン<ハイブリッドシステム>を始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。点滅した場合は電子カードキーが作動範囲外にある、または電子カードキーの電池切れが近い状態であることを示します。（→ P. 248）

※3 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。

※4 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC★を停止にしたときも点灯します。

※5 スマートアシストが作動したときも点灯します。

※6 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。

※7 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

※8 eco IDLE★を非作動にしたときは点灯します。

※9 インナーミラー上部に点灯します。

※10 電動パーキングブレーキ装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

表示灯			参照先
		方向指示表示灯	97
		ハイビーム表示灯	103
		フロントフォグランプ表示灯★	110
※1		低水温表示灯（青色）★	—
		セキュリティ表示灯	44, 45
		尾灯表示灯	102
※2		スリップ表示灯（点滅）	202
※2		VSC OFF 表示灯	202
※2		TRC OFF 表示灯	202
※2		エコドライブインジケーターランプ★	—
※2		eco IDLE 表示灯★	163
※3		eco IDLE OFF 表示灯★	163
※2		BSM OFF 表示灯★	168
※2		RCTA OFF 表示灯★	168
※2、4		ドアミラーインジケーター★	168
※2		スマートアシスト作動灯	118

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
※2、5		スマートアシスト OFF 表示灯	117
※2		車線逸脱警報作動灯	120
		車線認識表示灯★	138, 159
※2		ハンドル操作支援作動灯	158
※2、5		車線逸脱警報 OFF 表示灯	117
		ACC 表示灯（緑色）★	152
※2		クルーズコントロール表示灯★	155
※2		ACC SET 表示灯★	148
		先行車表示灯★	148
		ACC OFF 表示灯★	148
		LKC 表示灯（緑色）★	158, 160
		LKC OFF 表示灯★	159
		AHB ／ ADB 作動灯（緑色）	105, 107
※6		コーナーセンサー表示灯★	175
		READY インジケーター★	90
		EV インジケーター★	39
		S-Pedal モードインジケーター★	95

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
	ECO	エコドライブモードインジケーター★	95
	PWR	パワーモードインジケーター★	—
※7	(P)	パーキングブレーキ表示灯	98
※2	HOLD	オートブレーキホールドスタンバイ表示灯★	100
※2	HOLD	オートブレーキホールド作動表示灯★	100
		コーナーセンサーブザー OFF 表示灯★	177

※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。エンジンの暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 作動確認のためにエンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジン<ハイブリッドシステム>を始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※3 eco IDLE システム★に異常があるときは点滅します。

※4 ドアミラーに表示されます。

※5 スマートアシストに異常があるときは点滅します。

※6 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。

※7 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジン<ハイブリッドシステム>を始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 注意

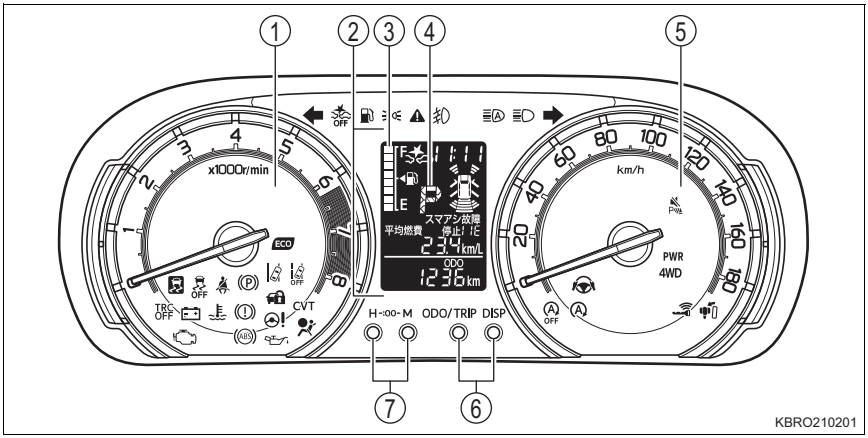
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の代わりに高水温警告灯（→ P. 244）が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 298）

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、警告メッセージ（→ P. 251）も同時に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



①タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

②マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 56)

③燃料計
燃料残量を示します。

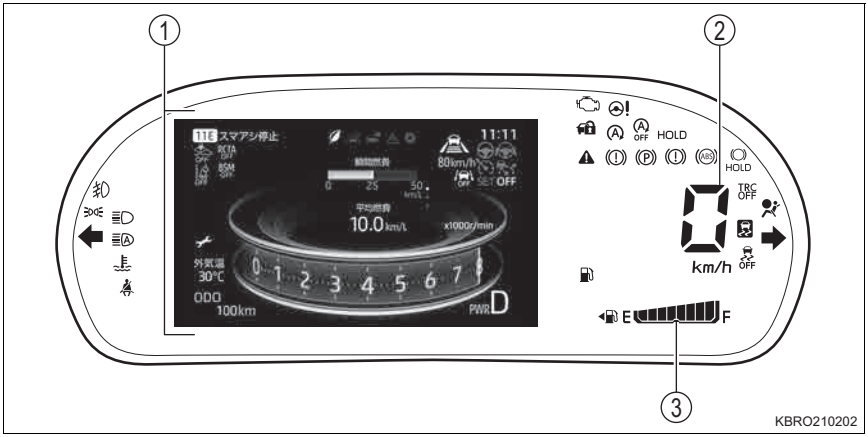
④シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 93)

⑤スピードメーター
車両の走行速度を示します。

⑥表示切り替えスイッチ
マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。

⑦時計調整スイッチ

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



①TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 57)

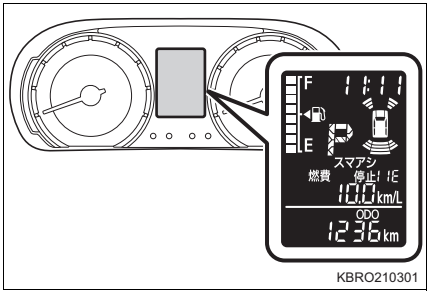
②スピードメーター
車両の走行速度を示します。

③燃料計
燃料残量を示します。

マルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。



KBRO210301

●トリップインフォメーション
表示される項目は次の通りです。
- オドメーター
- トリップメーター A／B
- アイドリングストップ時間
- アイドリングストップ積算時間
- メーター照度調整

●ドライブインフォメーション
表示される項目は次の通りです。
- 瞬間燃費
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 外気温

●燃料計
燃料残量を示します。

●シフトポジション表示

●時計表示

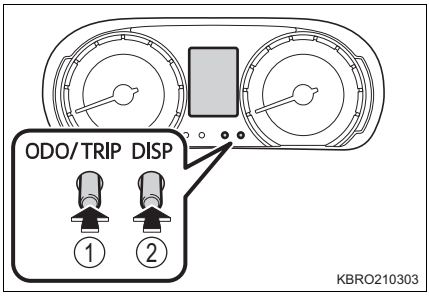
●スマートアシスト機能停止コード表示（→ P. 272）

●コーナーセンサー表示灯（→ P. 175）

表示切り替え

●トリップインフォメーション
表示を切り替えるには、ODO/TRIP スイッチ（①）を押します。

●ドライブインフォメーション
表示を切り替えるには、DISP スイッチ（②）を押します。



KBRO210303

⚠ 警告

■走行中の警告

表示切り替えスイッチ、または時計調整スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

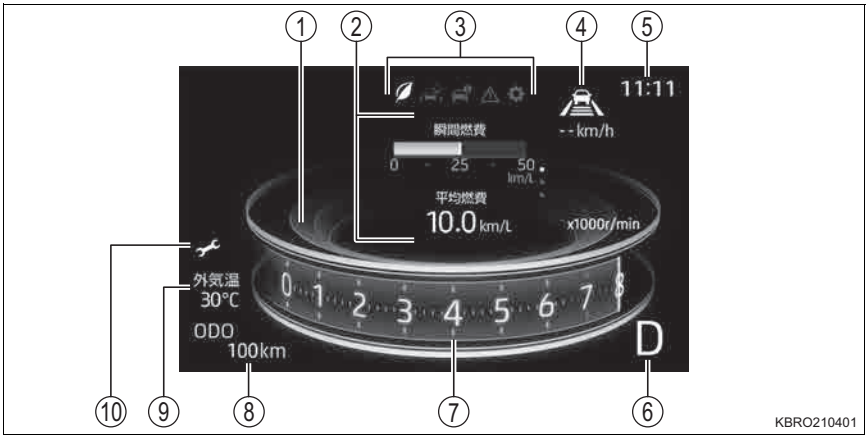
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★

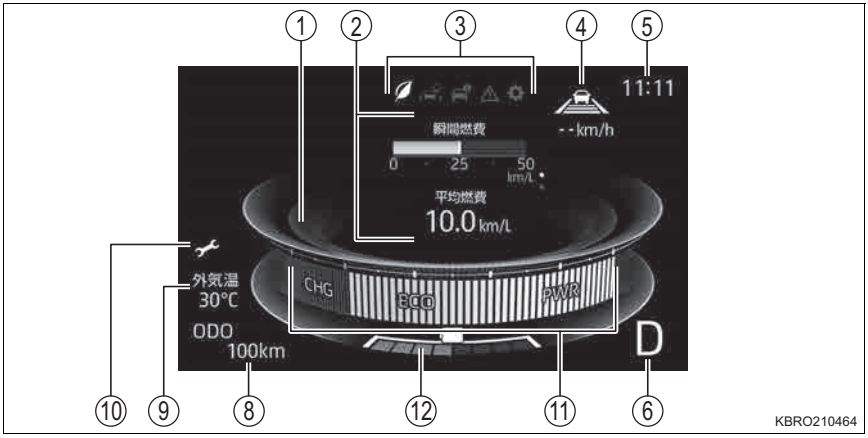
表示内容

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイは、車両や走行に関する様々な情報を表示したり、設定を変更することができます。

▶ガソリン車



▶ハイブリッド車



①エコドライブアシスト照明

▶ガソリン車

環境に配慮した運転の度合を判定して、照明の色が3段階で緑色に変化します。

- パワーモード選択時は、表示の色が黄色に変化します。
- 全車速追従機能付ACC★を使用しているときは、照明の色は変化しません。(→ P. 147)

▶ハイブリッド車

S-Pedal スイッチが ON でドライブモードが"ECO"のとき、緑色に点灯します。(→ P. 95)

②コンテンツ表示

メニューアイコンを切り替えることにより、様々な情報を表示することができます。
また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

③メニューアイコン
アイコンを切り替えてコンテンツを表示させます。

④ミニ運転支援表示（→ P. 148、160）
運転支援表示画面を表示中は表示されません。

⑤時計表示
アナログ時計表示中は、日付が表示されます。

⑥シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。

⑦タコメーター表示★
毎分のエンジン回転数を表示します。

⑧トリップインフォメーション

⑨外気温表示

- 外気温を表示します。
  外気温：-30 ℃～ 60 ℃の間で表示します。
- 外気温が 3 ℃以下になると路面凍結警告を表示します。
  温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

⑩メンテナンスアイコン
お知らせがあるときに点灯します。
点灯しているときは、内容を確認し、メンテナンスを行ったあとは再度設定をしてください。

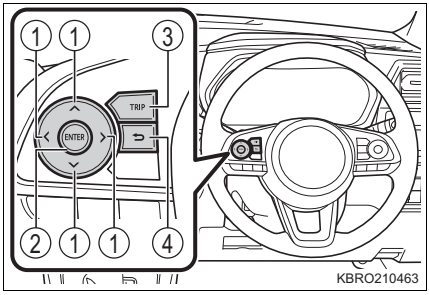
⑪パワーメーター★
走行中の出力（電力）や充電（電力の回収量）の状態を表示します。

- CHG エリア：回生ブレーキにより発生した電力を駆動用電池に充電している状態を示します。
- ECO エリア：一定の速度で走行しているときや加速しているときなど、環境に配慮した走行をしている状態を示します。
- PWR エリア：急加速時など、より多くの電力を消費して走行している状態を示します。

⑫駆動用電池の充電状態表示★
駆動用電池の充電状態を表示します。

表示切り替え

操作スイッチを押して、画面の表示切り替え、設定の変更をします。



①〈〉スイッチ

- メニューを切り替えます。
- コンテンツの切り替え、ページ送り、カーソルを移動

②ENTER スイッチ

- 項目の決定・選択をします。
- 長押しすると、走行情報の項目をリセットします。

③TRIP スイッチ
トリップインフォメーションの表示を切り替えます。

④RETURN スイッチ
ひとつ前の画面に戻ります。
長押しすると、最初の画面に戻ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **メーター照度調整**

メーターの昼照度または夜照度を調整できます。

（初期設定：→ P. 63）

■ **日時**

日時を設定できます。

スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車、純正ナビゲーションシステム装着車：日時の自動補正の ON ／ OFF を設定できます。

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ∧／∨／〈／〉 スイッチを押して設定したい項目を選択し、ENTER スイッチを押す

- 自動補正は ENTER スイッチを押すたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。
- 自動補正を「ON」に設定した場合は、日時の調整はできません。
- 年・時・分は ▲ ▼ が表示されたあと、

  ∧／∨ スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

  設定時刻の 0 秒にリセットされた状態から時計が作動を始めます。
- 12H ／ 24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切り替わります。
- 12H ／ 24H の設定にかかわらず時刻調整時は 24 時間表示になります。

KBRO210430

■ **画面選択**

基本画面の表示を変更することができます。

■ **表示オプション設定**

次の設定を変更することができます。

●エコドライブアシスト照明の ON ／ OFF

●平均燃費の給油時リセットの ON ／ OFF

●給油時のトリップメーター A リセットの ON ／ OFF

●アイドリングストップ時間の表示自動切り替えの ON ／ OFF★

●オープニング画面表示の ON ／ OFF

●エンディング画面表示の設定（エコ、標準、OFF）

●ハンドルポジションモニター（ハンドル位置の表示）の ON ／ OFF

●運転支援表示自動切り替えの ON ／ OFF★

●ターンバイターン表示の ON ／ OFF★

●EV インジケーター点灯の ON ／ OFF★

（初期設定：→ P. 63）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブザー設定

次の設定を変更することができます。

●先行車発進ブザー音量（→ P. 143）

●車線逸脱警報・路側逸脱警報ブザー音量（→ P. 138）

●ターンシグナル（方向指示灯）ブザーの音色

●オープニング音量

●全車速追従機能付 ACC 先行車認識ブザーの ON ／ OFF★（→ P. 147）

●標識認識ブザーの ON ／ OFF★（→ P. 145）

●BSM ブザー音量★（→ P. 168）

●RCTA ブザー音量★（→ P. 168）

（初期設定：→ P. 63）

■ お知らせ日設定

オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定できます。

（初期設定：→ P. 63）

■ スマートアシスト設定

次の設定を変更することができます。

●先行車発進お知らせの ON ／ OFF（→ P. 143）

●先行車発進お知らせのタイミング（→ P. 143）

●衝突警報のタイミング（→ P. 126）

●車線逸脱警報のタイミング（→ P. 138）

●ステアリングアシスト（車線逸脱抑制制御機能、LKC★）の ON ／ OFF（→ P. 138, 158）

●標識認識機能★の ON ／ OFF（→ P. 145）

●ふらつき警報の ON ／ OFF（→ P. 142）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 309）

■ BSM ／ RCTA 設定★

次の設定を変更することができます。

●BSM の ON ／ OFF（→ P. 168）

●RCTA の ON ／ OFF（→ P. 168）

●ミラーインジケーターの輝度（→ P. 168）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 309）

■ ドアロック設定

次の設定を変更することができます。

●車速連動ドアロックの ON ／ OFF
ON に設定すると、シフト連動ドアロックの設定が OFF になります。

●シフト連動ドアロックの ON ／ OFF
ON に設定すると、車速連動ドアロックの設定が OFF になります。

●シフト連動ドアロック解除の ON ／ OFF
ON に設定すると、IG OFF 時（エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞“OFF” 時）ドアロック解除の設定が OFF になります。

●IG OFF時（エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞“OFF” 時）ドアロック解除の ON ／ OFF
ON に設定すると、シフト連動ドアロック解除の設定が OFF になります。

●アンサーバックブザー音量（キーフリーシステム作動の合図）（→ P. 66）

●アンサーバック非常点滅灯の ON ／ OFF（キーフリーシステム作動の合図）（→ P. 66）

●ウェルカムドアロック解除の ON ／ OFF（→ P. 73）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 309）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **ワイパー設定**

次の設定を変更することができます。

●車速連動間欠ワイパーの ON ／ OFF（→ P. 111）

●リバース連動リヤワイパーの ON ／ OFF

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 309）

■ **方向指示灯設定**

ワンタッチターンシグナル（方向指示レバーを途中まで操作したときの方向指示表示灯 3 回点滅）の ON ／ OFF を設定することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 309）

■ **オートエアコン設定★**

オートエアコン使用時の eco IDLE によるアイドリングストップの設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 309）

■ **ウェルカムランプ設定**

次の設定を変更することができます。

●ルームランプ連動（電子カードキーを携帯して車両に近付くと、室内灯が点灯）の ON ／ OFF（→ P. 74）

●テールランプ連動（ドアロック解除時に車幅灯、番号灯、尾灯が点灯）の ON ／ OFF（→ P. 74）

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 309）

■ **メンテナンス設定**

オープニング画面で表示されるエンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの時期を距離で設定できます。

（初期設定：→ P. 63）

1 〈／〉スイッチを押してメニューを ⚙ に切り替える

2 ∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「メンテナンス設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ON ／ OFF を設定する場合は、∧／∨ スイッチを押して各メンテナンス項目の「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す

オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。

▶表示が「OFF」で距離が設定されていない場合は

手順 5 の「次回お知らせまで」の画面が表示されます。（→ P. 62）

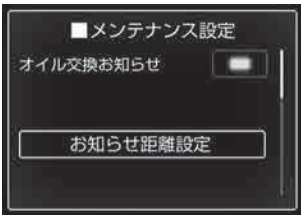
KBRO210452

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶すでに距離が設定されている場合は
ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。

KBRO210452

4 距離を設定、リセットする場合は、∧／∨ スイッチを押して各メンテナンス項目の「お知らせ距離設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、∧／∨ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。



KBRO210453

5 ∧／∨スイッチを押して距離を選択し、ENTER スイッチを押す

- が表示されたあと、∧／∨ スイッチを押して距離を設定し、再度ENTERスイッチを押します。
- すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせまでの距離が表示されています。
- リセットする場合は、∧／∨ スイッチを押してリセットを選択し、ENTER スイッチを押します。

KBRO210454

■ **表示設定初期化**

表示の設定を初期化（出荷時の状態）することができます。

項目		初期設定
明るさ調整	昼間用	レベル 8
	夜間用	レベル 6
日時設定	自動補正	ON
	12H ／ 24H	24H
画面選択		画面 1
表示オプション	エコドライブ照明	ON
	平均燃費給油リセット	OFF
	トリップ A 給油リセット	OFF
	アイドリングストップ自動表示	ON
	オープニング表示	ON
	エンディング切替	標準
	ハンドルポジションモニター	ON
	ACC 表示自動切替	ON
	ターンバイターン表示自動切替	ON
	EV インジケーター	ON
ブザー設定	先行車発進ブザー音量	大
	車線逸脱警報ブザー音量	大
	ターンシグナル音色	トーン 1
	オープニング音量	大
	ACC 先行車認識ブザー	ON
	標識認識ブザー	OFF
	BSM ブザー音量	大
	RCTA ブザー音量	大
お知らせ日設定	設定日 1 ～ 10	未設定
メンテナンス設定	オイル交換お知らせ	OFF
	オイルフィルター交換お知らせ	OFF
	タイヤローテーションお知らせ	OFF

⚠ 警告

■ 走行中の警告

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

→ P. 56

各部の操作 3

3-1. キー
キー …… 66
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム …… 66
ドア（フロントドア、リヤドア）…… 72
バックドア …… 75
3-3. シートの調整
フロントシート …… 77
リヤシート …… 77
ヘッドレスト …… 78
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 79
インナーミラー …… 79
ドアミラー …… 80
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ …… 80

3-1. キー

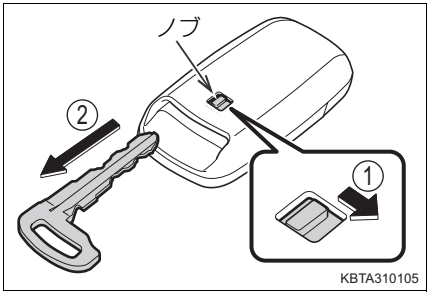
キー

エマージェンシーキーを使うには

① ノブをスライドする

② エマージェンシーキーを取り出す

使用後はもとに戻し、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。(→ P. 293)

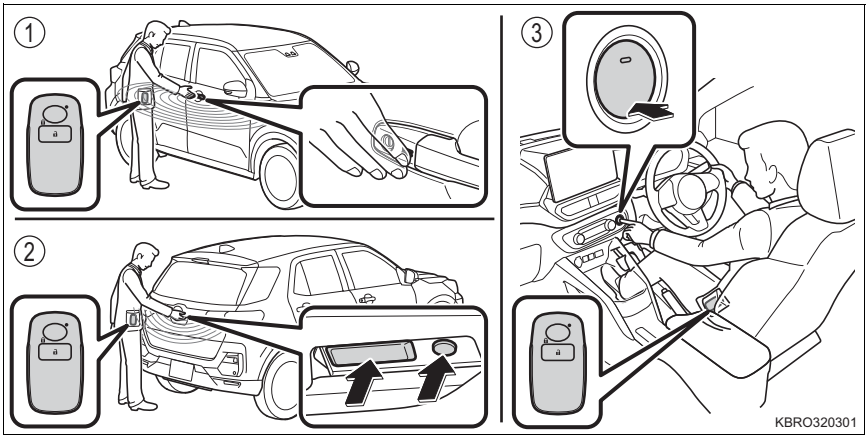


3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

キーフリーシステム

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)



①全ドアを施錠・解錠する(→ P. 72)

②全ドアを施錠・解錠する(→ P. 75)

③エンジン<ハイブリッドシステム>を始動する(→ P. 88, **90**)

知識

■**作動の合図**

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■**カスタマイズ機能**

作動の合図を変更することができます。(カスタマイズ機能一覧：→ P. 309)

■**解錠操作のセキュリティ機能**

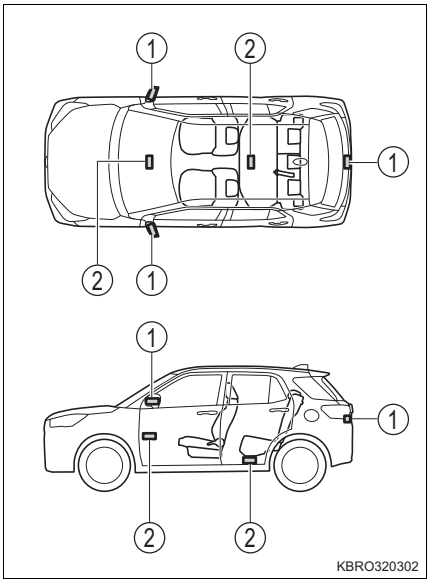
→ P. 73

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ



KBRO320302

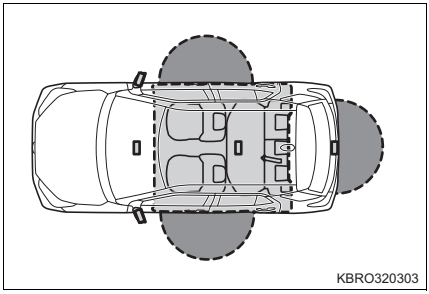
■ 作動範囲（電子カードキーの検知範囲）

● ：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。（電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

◌ ：エンジン＜ハイブリッドシステム＞の始動時またはモード切り替え時

車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。


KBRO320303

知識

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯したり、警告メッセージ★が表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→ P. 243、249）

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”、車外から“ピッピッピッ”と鳴る	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めた	電子カードキーを携帯して乗車してください
車内から“ポーン ポーン ポーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“ACC”にした（“ACC”のときに運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“OFF”にして、ドアを閉めてください
車外から“ピーッ”と鳴る	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“OFF”にして施錠してください
	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	電子カードキーを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチやワイヤレスリモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください
車外から“ピーッ”と鳴って、すべてのドアが解錠した	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
車内から“ピッピッピッ”と鳴る	電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“OFF”にした※	新しい電池に交換してください（→ P. 232）

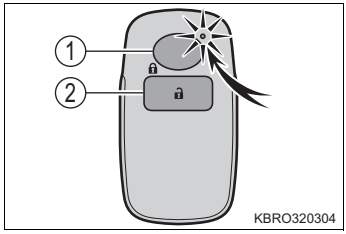
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告音	状況	対処方法
車内から“ポーン ポーン ポーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ON”から“OFF”にした	運転席ドアを閉めてください

※ 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

■電子カードキーの節電モードについて

●節電モードに設定すると、電子カードキーによる電波の受信待機を停止し、電子カードキーの電池の消耗を抑えることができます。
電子カードキーの施錠スイッチ（①）を押しながら、解錠スイッチ（②）を 2 回押し、電子カードキーのインジケーターが 4 回点滅することを確認してください。
節電モード中は、キーフリーシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子カードキーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

●電子カードキーの電池交換直後に節電モードにするときは、約 10 秒経過してから行ってください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信を妨げ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 293）

●電子カードキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子カードキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子カードキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
- 他車の電子カードキーや電波式ワイヤレスリモコン
- パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
- デジタルオーディオプレーヤー
- ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子カードキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子カードキーが作動範囲内（検知範囲内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ドアの施錠・解錠時に電子カードキーがドアガラスやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- エンジン<ハイブリッドシステム>の始動時またはモード切り替え時に電子カードキーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合

知識

- ●電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。(作動範囲：→ P. 67)
- ●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子カードキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子カードキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- ●電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子カードキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
  場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子カードキーがある場合でも、電子カードキーを検知し、解錠されることがあります。
- ●車外でもドアガラスに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジン<ハイブリッドシステム>の始動が可能になる場合があります。
- ●電子カードキーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルにあるスイッチに水がかかると、ドアが施錠・解錠を繰り返すことがあります。その場合は、次のような処置をしてください。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます)
  - ・キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く(盗難に注意してください)
  - ・キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する(→ P. 69)
- ●電子カードキーが作動範囲内にあるとき、フロントドアのリクエストスイッチに衣服が触れるだけでドアが施錠・解錠することがあります。
- ●車室内または車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します)
- ●ドアハンドルにあるスイッチは確実に操作して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチをすばやく操作した場合、施錠・解錠されないことがあります。
- ●ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが操作できない場合があります。操作できない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- ●ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。
- ●手袋を着用してフロントドアのリクエストスイッチを操作したときは、施錠・解錠が遅れたり、施錠・解錠しないことがあります。
- ●周囲の状況により、フロントドアのリクエストスイッチを操作しても施錠・解錠できないときがあります。ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使用して施錠・解錠してください。(→ P. 72, 293)
- ●次のような状況では、電子カードキーの電池の消耗と車両のバッテリーあがり<補機バッテリーあがり>を防止するために節電機能が働き、キーフリーシステムによる施錠・解錠に時間がかかることがあります。
  - ・車両の周辺約 3m 以内に電子カードキーを約 2 分以上放置した
  - ・約 5 日間以上キーフリーシステムを使用しなかった

■施錠時の留意事項

車内に電子カードキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。

■解錠時の留意事項

- ●ドアハンドルにあるスイッチを操作しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻してから再度(バックドアを除く)スイッチを操作し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- ●作動範囲内に他の電子カードキーがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを操作してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- ●盗難防止のため、電子カードキーを車両から約 3m 以上離しておいてください。
- ●あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
  詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

知識

■システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近付け過ぎないようにしてください。

作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。: → P. 73)

■キーフリーシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→ P. 293
- エンジン<ハイブリッドシステム>の始動：→ P. 293

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、電子カードキーは常に電波を受信しているため、使用していない間でも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - 作動範囲が狭くなった
  - 電子カードキーの LED が点灯しない
- 電池残量が少なくなると、エンジン<ハイブリッドシステム>を停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。(→ P. 248, 270)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子カードキーを保管しないでください。
  - TV
  - オーディオ
  - パソコン
  - AC アダプター
  - 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - 電気スタンド
  - 低周波治療器などの医療用電気機器
  - 液晶表示器
  - モーター類
  - 電磁調理器
- 車内、または車両の近くに電子カードキーを置かないでください。電子カードキーと車両が常時通信状態になるため、電池が著しく消耗します。
  常時通信状態になると、電子カードキーのインジケーターが点滅しますので、消灯するまで電子カードキーを車両から離してください。
- 長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→ P. 69)

■ダイハツサービス工場で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 309)

■ダイハツサービス工場でキーフリーシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 72, 293)
- エンジン<ハイブリッドシステム>の始動・エンジンスイッチ<パワースイッチ>モードの切り替え：→ P. 293
- エンジン<ハイブリッドシステム>の停止：→ P. 88, 91

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 67）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

⚠ 注意

- ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

ドア（フロントドア、リヤドア）

ドアの施錠／解錠

キーフリーシステムやワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

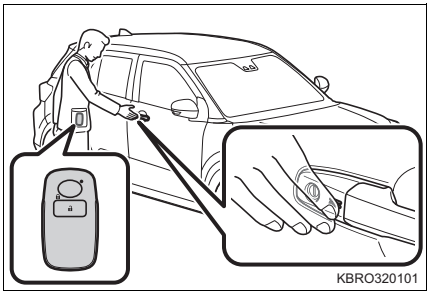
■ キーフリーシステム

電子カードキーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチ（ハンドルのくぼみ部）に触れ全ドアを解錠・施錠する

スイッチに確実に触れてください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。


KBRO320101

▶ウェルカムドアロック解除

電子カードキーを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する（→ P. 73）

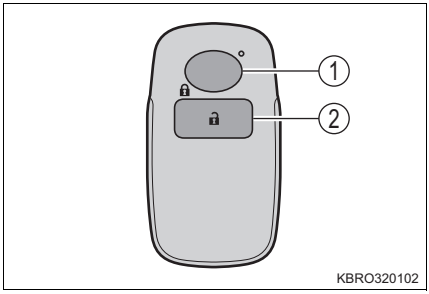
ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

■ ワイヤレス機能

①全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

②全ドアを解錠する



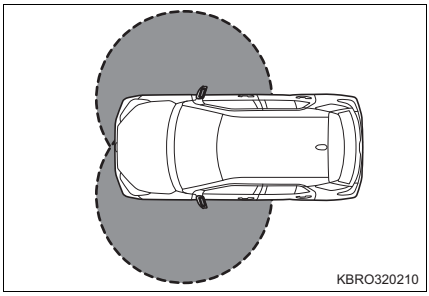
KBRO320102

ウェルカムドアロック解除

電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠します。

■ ウェルカムドアロック解除の解錠範囲

：解錠範囲
ドアミラーから周囲約 1.5m 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します



■ 予約のしかた

1 お車から降り、キーフリーシステムまたはワイヤレス機能で施錠する（予約待機）
2 解錠範囲から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する
予約の有効期間は約 5 日間です。有効期間を過ぎると、予約がキャンセルされます。

知識

■セキュリティアラームがセットされている場合

キーフリーシステムやワイヤレスリモコンを使わずに解錠しドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。作動した場合は、ただちにセキュリティアラームを停止してください。（→ P. 45）

■解錠操作のセキュリティ機能

キーフリーシステムやワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

- 施錠後、30 秒以上経過すると、セキュリティアラームが設定されます。（→ P. 45）

■キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が “ACC” または “ON” のときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。
  - 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたとき
  - すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチ<パワースイッチ>が “ON” のときは作動しません）
- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が “OFF” で車内に電子カードキーがあるときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。
  - 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
  - すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

■ウェルカムドアロック解除の作動について

- ウェルカムドアロック解除でドアを解錠したときは、ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。
- 次のいずれかの場合は、ウェルカムドアロック解除の予約はできません。
  - カスタマイズ機能でキーフリーシステムまたは電子カードキーの室外自動検知機能を非作動にしたとき（→ P. 309）
  - ウェルカムドアロック解除を OFF にしたとき（→ P. 61）
- ドアロック後、解錠範囲を出てから約 5 秒以内に解錠範囲に入ったときは予約が完了せず、ウェルカムドアロック解除は作動しません。
- 電子カードキーが解錠範囲内にあっても、電子カードキーがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。

知識

- ●電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。
- ●予約が完了するまでの間に次の状況になると予約がキャンセルされます。
  - ・ドアを施錠したあと、解錠範囲内に電子カードキーがある状態が約 2 分以上続いたとき
- ●解錠範囲に入りドアが解錠されてから、ドアを開けずに約 15 秒経過すると、ドアが自動的に施錠され予約がキャンセルされます。
- ●予約完了後、車両の近くに電子カードキーがあると意図せずウェルカムドアロック解除が作動する場合があります。

■ウェルカムドアロック解除が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 69）

■ウェルカムドアロック解除使用時の電子カードキーについて

第三者に電子カードキーを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

■ウェルカムランプ設定（テールランプ連動）について

次の方法でドアロックを解除したときに車幅灯・番号灯・尾灯を約 15 秒間点灯させ、ドアロック解除をお知らせすることができます。（→ P. 61）

- ●キーフリーシステムによるドアロック解除（ウェルカムドアロック解除によるドアロック解除を含む）
- ●ワイヤレス機能によるドアロック解除

■ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）について

- ●次の条件をすべて満たしている場合、電子カードキーを携帯して車両に近付いた（ウェルカムドアロック解除の解錠範囲に入った）ときに、室内灯を点灯させることができます。
  - ・電子カードキーの室外自動検知機能の作動（→ P. 309）が有効になっている
  - ・ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）が有効になっている（→ P. 61）
  - ・室内灯のスイッチがドアポジションになっている
- ●室内灯の点灯時間は、イルミネーテッドエントリーシステムの点灯時間に連動します。

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず使用する
- ●すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- ●お子さまを後席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

- ●傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ●ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バックドア

車外からの施錠／解錠

■ キーフリーシステム

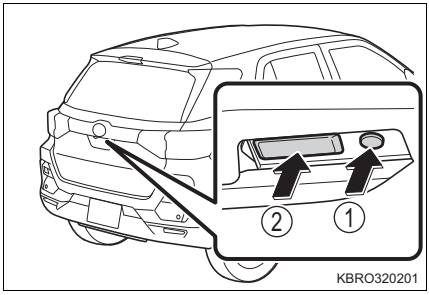
電子カードキーを携帯して操作します。

①全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

②全ドアを解錠する

バックドアが半ドア状態になります。
施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



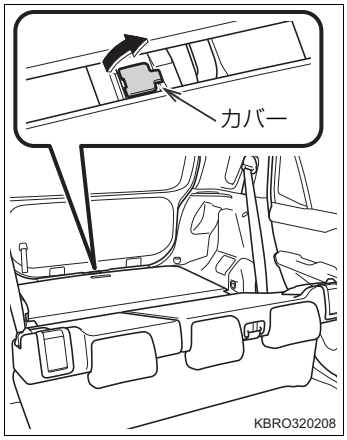
知識

■バックドアが開かなくなったら

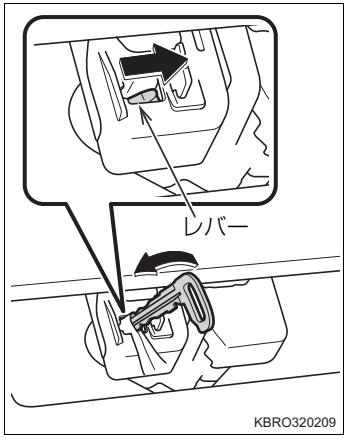
バックドアを内側から開けることができます。

1 リヤシートの背もたれを前に倒す

2 カバーを開ける



3 エマージェンシーキーなどを使ってレバーを矢印の方向に動かす（→ P. 66）
傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

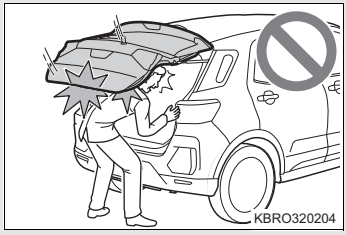
●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。

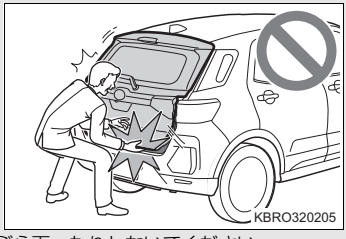
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


KBRO320204

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


KBRO320205

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下ったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

3-3. シートの調整

フロントシート

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- ●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- ●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- ●必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- ●背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- ●背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート調整について

- ●シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- ●必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- ●背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- ●リヤ中央席に座るときは、リヤ左右席の背もたれの角度を同じにしてください。
  正しい姿勢が取れず、事故の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■背もたれを前に倒すときは

- ●走行中にリヤシートを操作しない
- ●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- ●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- ●倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとに戻したあとは

- ●シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する
- ●シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

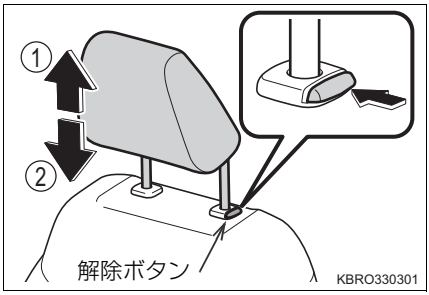
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

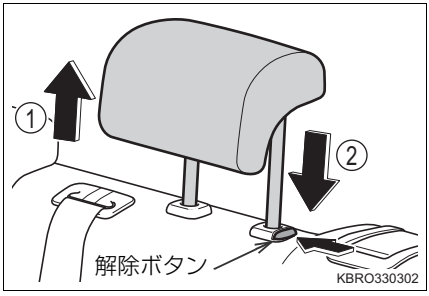


リヤシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

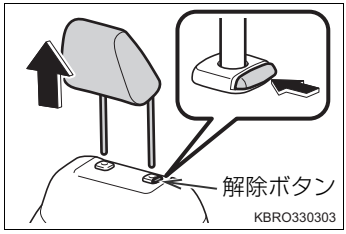


知識

■ヘッドレストを取り外すとき

解除ボタンを押しながら取り外します。

フロントシートのヘッドレストが天井に当たって外すことができないときは、背もたれを倒してください。

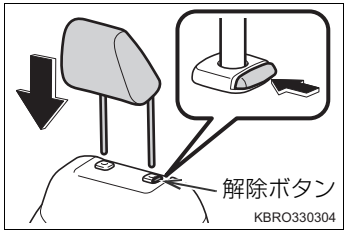


■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

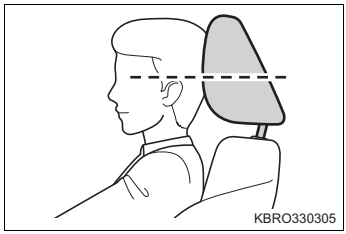
※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



知識

■ **フロントシートヘッドレストの高さについて**

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ **リヤシートヘッドレストの使用について**

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ **ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを前後逆に取り付けない
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストを外したまま走行しない

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル

⚠ 警告

■ **走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

⚠ 警告

■ **走行中の警告**

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ドアミラーを格納したまま走行しない
- ●走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるので触れないでください。

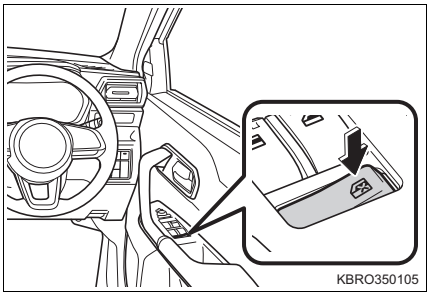
3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

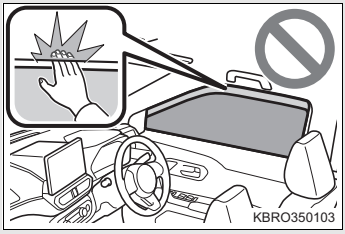
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- ●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 80）

⚠ 警告

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



● お車から離れるときはエンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

● 特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって …… 84
荷物を積むときの注意 …… 87

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（ガソリン車）…… 88
パワー（イグニッション）スイッチ（ハイブリッド車）… 90
CVT 車の運転（ガソリン車）… 93
ハイブリッドトランスミッション車の運転（ハイブリッド車） …… 94
方向指示レバー …… 97
電動パーキングブレーキ …… 98
オートブレーキホールド機能 …… 100

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ …… 102
AHB（オートハイビーム）… 104
ADB（アダプティブドライビングビーム）…… 107
フォグランプスイッチ …… 110
ワイパー & ウォッシャー（フロント） …… 111
ワイパー & ウォッシャー（リヤ） …… 112

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 …… 113

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト …… 114
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）…… 126
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）… 132
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能 … 138
ふらつき警報 …… 142
先行車発進お知らせ機能 … 143
標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）…… 145
全車速追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）…… 147
LKC（レーンキープコントロール）…… 158
アイドリングストップシステム（eco IDLE） … 162
BSM（ブラインドスポットモニター）…… 168
コーナーセンサー …… 175
バックカメラ …… 180
パノラマモニター …… 181
スマートパノラマパーキングアシスト …… 184
運転を補助する装置 …… 201

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 …… 204

運転にあたって

知識

■急発進の抑制および後退速度の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような場合、ドライブスタートコントロールが作動します。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は S★・B★ ポジションを含む）のような通常と異なる操作が行われると、エンジン＜ハイブリッドシステム＞の出力を抑制することがあります。
この場合、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は警告灯が点灯し、（→ P. 246）TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は警告メッセージが表示されます。（→ P. 260）

・後退時の速度が所定以下になるようにエンジン＜ハイブリッドシステム＞の出力を抑制※ します。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 202）させることにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

●ドライブスタートコントロール警告灯（→ P. 246）が点滅（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）、「DSC 故障」の警告メッセージ（→ P. 259）が表示（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車）しているときは、ドライブスタートコントロールが作動しません。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま＜ READY インジケーターが点灯している状態で＞停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください（ブレーキ保持による停車時を除く）。クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は、エンジン停止状態では走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近にお車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止しないでください。走行中にエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 240 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキ＜回生ブレーキ＞を使用して速度を下げてください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 93, 94）

●路面状態や速度に応じて、次のように操作して、エンジンブレーキ＜回生ブレーキ＞を併用してください。

・ガソリン車は、シフトレバーを S にする、またはマニュアルモードにして 1 速ずつシフトダウンする
・ハイブリッド車は、S-Pedal スイッチを “ON” にする（→ P. 95）、または S-Pedal を “OFF” にしてシフトレバーを B にする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- ●急激なエンジンブレーキ＜回生ブレーキ＞がかかる操作は避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- ●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。
- ●オフロード走行をしないでください。
  やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
  また、4WD車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- ●河を渡るなどの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジン＜ハイブリッドシステム＞の破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- ●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■滑りやすい路面を運転するとき

- ●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- ●ガソリン車は、急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化によって、お車が横滑りするなどのおそれがあります。
- ●ハイブリッド車は、急激なアクセル操作、シフトチェンジによる回生ブレーキによって、お車が横滑りするなどのおそれがあります。
- ●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- ●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  ガソリン車はエンジン停止、ハイブリッド車はハイブリッドシステムが故障し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- ●車両が動いている間は、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ●車両が前進している間は、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ●車両が後退している間は、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ●走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジン＜ハイブリッドシステム＞の動力伝達が解除され、エンジンブレーキ＜回生ブレーキ＞が効かなくなります。
- ●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- ●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●お車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中＜ READY インジケーターが点灯しているとき＞は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

⚠ 警告

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
また、ハイブリッド車は、ブレーキペダルを踏まずにアクセルペダル操作のみで車両を停止させ続けると、駆動用モーターが過熱するおそれがあります。停車時にはアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
- ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
- プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、エンジン<ハイブリッドシステム>を停止し、施錠してください。
エンジンがかかっている間< READY インジケーターが点灯している間>は、お車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをＰにした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中<READYインジケーターが点灯しているとき>またはエンジン<ハイブリッドシステム>停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジン<ハイブリッドシステム>を停止してください。

エンジンをかけたまま< READY インジケーターが点灯した状態のまま>仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジン<ハイブリッドシステム>の異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●万一エンジン<ハイブリッドシステム>が停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 警告

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

- ハンドルが取られる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 276、285 を参照してください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

荷物を積むときの注意

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - ふたのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
  急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

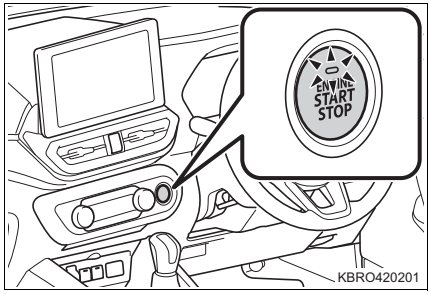
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（ガソリン車）

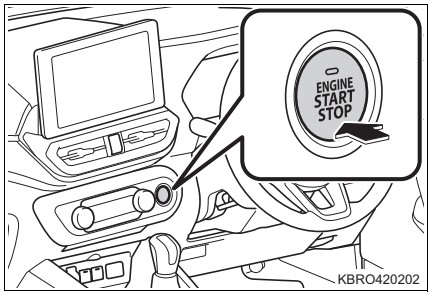
電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチモードを切り替えることができます。

エンジンのかけ方

1 正しい運転姿勢（→ P. 17）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
3 シフトレバーが P にあることを確認する
4 ブレーキペダルをしっかり踏む
エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



5 エンジンスイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、長押しする必要はありません。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。
完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンスイッチのどのモード（→ P. 89）からでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 98）、シフトレバーを P にする
3 エンジンスイッチを押す
4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります）

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

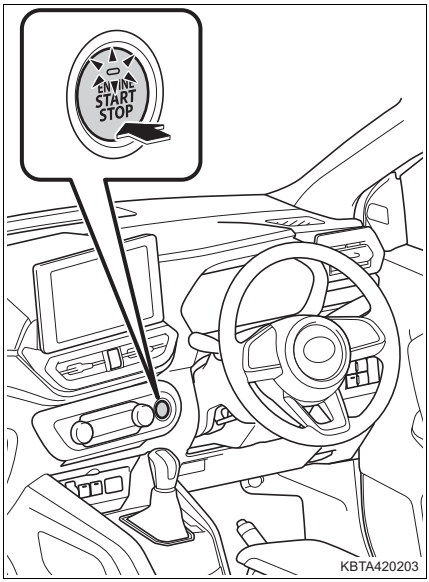
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP以外のときは“ACC”になり、“OFF”になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチモードは “OFF” になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P にする

3 エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 2 回押す

4 エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

知識

■ハンドルロックについて

- エンジンスイッチを “OFF” にしたあとにいずれかのドアを開閉（バックドアを開いたときを除く）すると、ハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。
- バッテリーがあがっている場合はハンドルロックが作動しません。

⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 240)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

パワー（イグニッション）スイッチ（ハイブリッド車）

電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチモードを切り替えることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

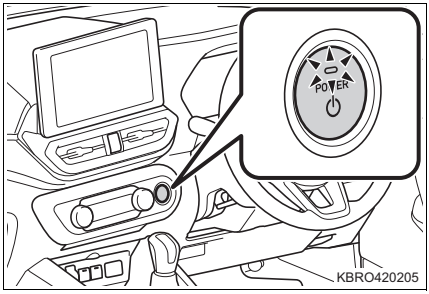
1 正しい運転姿勢（→ P. 17）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P にあることを確認する

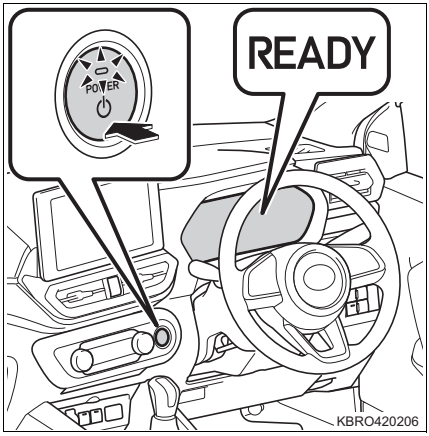
4 ブレーキペダルをしっかり踏む

パワースイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。



5 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、長押しする必要はありません。
READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。
READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
パワースイッチのどのモード（→ P. 91）からでもハイブリッドシステムを始動できます。



6 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 98）、シフトレバーを P にする

3 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、READY インジケーターが消灯します。

4 ブレーキペダルから足を離して、パワースイッチの表示灯が消灯していることを確認する

パワースイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります）

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

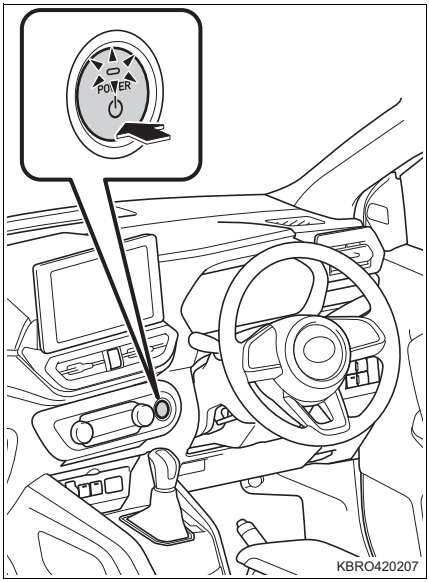
パワースイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

パワースイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP以外のときは“ACC”になり、“OFF”になりません。



KBRO420207

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチモードは “OFF” になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P にする

3 パワースイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、パワースイッチを 2 回押す

4 パワースイッチの表示灯が消灯していることを確認する

知識

■外気温が低いとき

- ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 外気温の影響により駆動用電池の温度が低くなっている場合は、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再始動操作をしてください。

知識

■補機バッテリーがあがったとき

キーフリーシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P. 294 を参照してください。

■ハンドルロックについて

- パワースイッチを“OFF”にしたあとにいずれかのドアを開閉（バックドアを開いたときを除く）すると、ハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。
- 補機バッテリーがあがっている場合はハンドルロックが作動しません。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 268

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

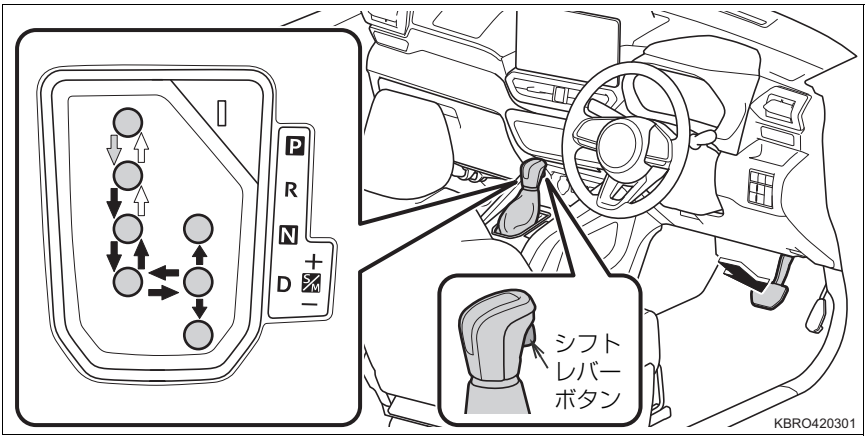
■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを3秒以上長押しするか、素早く3回以上連続で押してください。（→ P. 240）

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチに触れないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

CVT 車の運転（ガソリン車）

シフトレバーの動かし方



⇦ : エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

⇦ : シフトレバーボタンを押して操作します。

⬅ : シフトレバーボタンを押さずに操作します。

⚠ 警告

■滑りやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横滑りやスピンの原因になりますので注意してください。

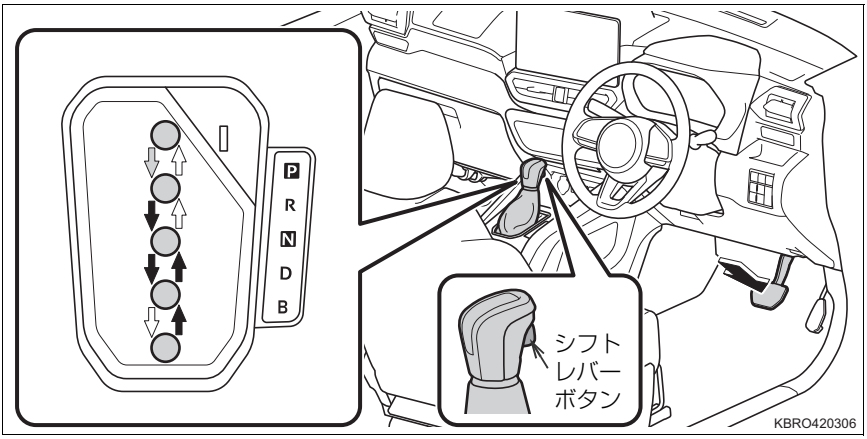
■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハイブリッドトランスミッション車の運転（ハイブリッド車）

シフトレバーの動かし方



⇦ : パワースイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

⇦ : シフトレバーボタンを押して操作します。

⬅ : シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

走行モードの選択

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

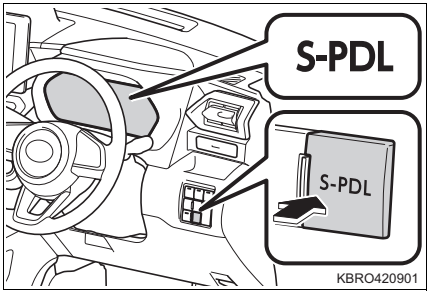
■ 各モードの働き

S-Pedal スイッチ	ドライブモード	シフトポジション	加速度	減速度	特徴
ON※	NORMAL	D	強	強	●アクセルペダル操作のみで楽に速度調整ができる ●回生ブレーキが強くなることで、より多くの電力エネルギーが回収できる
	ECO	D	弱	強	●NORMAL モードのときより、アクセルペダル操作に対する駆動力の発生を緩やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を燃費優先に制御することで、燃費の向上を意識した走行に適している ●回生ブレーキが強くなることで、より多くの電力エネルギーが回収できる
OFF	—	D	中	弱	アクセルペダルから足を離したとき、従来のガソリンエンジン車に近い感覚で減速する
		B	中	中	シフトレバーが D のときより、強い回生ブレーキを得ることができる

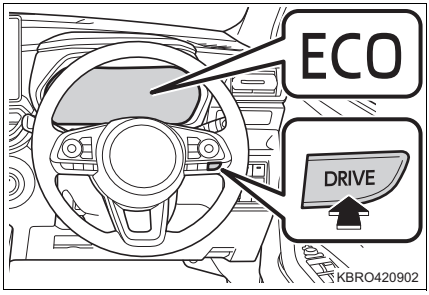
※ S-Pedal スイッチが ON のときは、シフトレバーを B にしても回生ブレーキの効きに変化がないため、シフトレバーを D にして走行してください。

■ 走行モードを選択するには

●パワースイッチが“ON”のとき、S-Pedal スイッチを押すたびに、ON ／ OFF が切り替わります。
ON のときは、S-Pedal 表示灯が点灯します。



●S-Pedal スイッチが ON のとき、ドライブモード切替ステアリングスイッチを押すたびに、ドライブモードの“NORMAL”、“ECO”が切り替わります。
“ECO”のときは、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに“ECO”が表示されます。



知識

■ **S-Pedal スイッチが ON のときは**

- 回生ブレーキによる減速で停車する場合がありますが、ブレーキ力を保持して停車させ続ける機能はないため、停車時はブレーキペダルを必ず踏み込んでください。
- 走行中にアクセルペダルを離すと、S-Pedal スイッチが OFF のときよりも減速度合いが強くなります。
- シフトレバーを B にすると、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「S-PDL 時は D レンジで走行してください」とメッセージが表示されます。

■ **ドライブモードが“ECO”のときのエアコン作動について**

S-Pedal スイッチが ON でドライブモードが “ECO” のときは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- 風量を調整する
- ドライブモードを “NORMAL”、または S-Pedal スイッチを OFF にする

■ **全車速追従機能付 ACC が作動しているときは**

走行モードを選択することができません。

■ **S-Pedal スイッチが OFF のときは**

- ドライブモード切替ステアリングスイッチを押すと、TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイに「S-PEDAL MODE のみ ECO ボタンは使用できます」とメッセージが表示され、ドライブモードは切り替わりません。
- S-Pedal スイッチを OFF にしても、一度パワースイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、S-Pedal スイッチは自動的に ON に戻ります。

⚠ 警告

■ **滑りやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。回生ブレーキの急激な変化が横滑りやスピンの原因になりますので注意してください。

■ **シフトロック解除時の事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

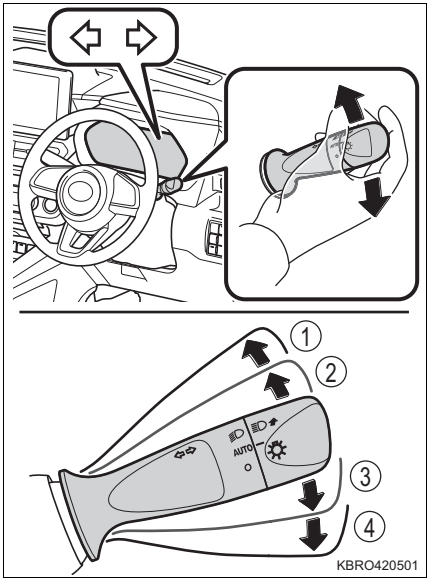
① 左折

② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

電動パーキングブレーキ★

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモード作動中は、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモード作動中でも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

パーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキをかける・解除することができます。

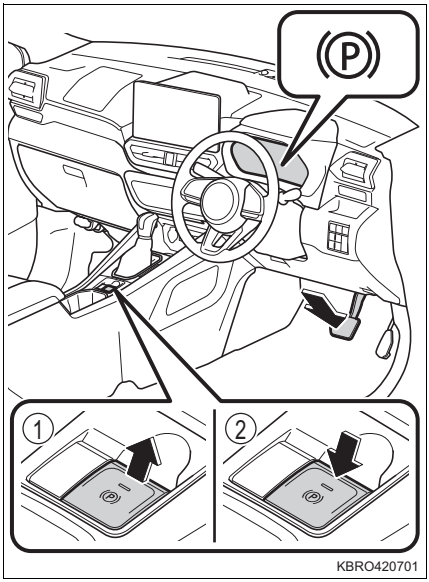
①パーキングブレーキをかける
（スイッチを引く）

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けることで車両を停止させることができます。

②パーキングブレーキを解除する
（スイッチを押す）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら操作してください。
- オートリリース機能（→ P. 99）により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときは、ゆっくり踏んでください。

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が消灯します。



KBRO420701

■ オートモード

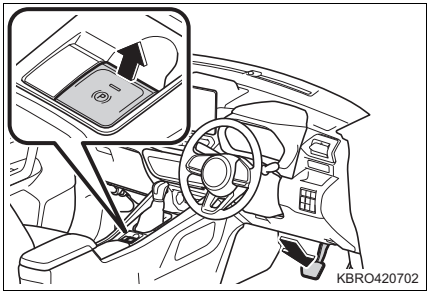
シフトレバーをP以外からPにしたとき、自動でパーキングブレーキをかけることができます。
パーキングブレーキがかかると、パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

パーキングブレーキの解除方法は、マニュアルモード（→ P. 98）を参照してください。

▶オートモードをONにする

停車中にパーキングブレーキがかかった状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ピッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを引き続ける

ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



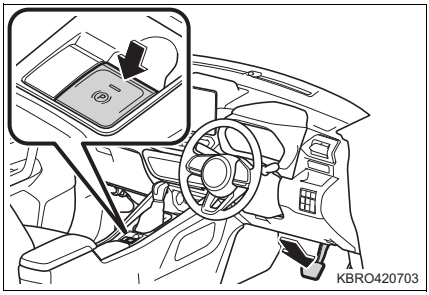
KBRO420702

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶オートモードを OFF にする

停車中にパーキングブレーキが解除された状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが “ピピッ” と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける

ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■パーキングブレーキの作動について

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモードによらず、パーキングブレーキをかけることができます。
- パーキングブレーキが作動（かける・解除する）するとき、ブレーキペダルが動くことがあります。これはパーキングブレーキの作動によるもので異常ではありません。

■パーキングブレーキの解除について

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が “ON” 以外では、パーキングブレーキを解除できません。
- ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すとブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキを踏みながらスイッチを操作してください」と表示されます。

■ オートモードの作動について

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が “ON” 以外では、オートモードによる作動はできません。
- シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- シフトレバーを素早く、またはゆっくり操作すると、オートモードが作動しない場合があります。その場合、手動でパーキングブレーキを操作してください。（→ P. 98）

■オートリリース機能について

次の条件をすべて満たしてアクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが解除されます。

- 運転席のドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- シフトレバーが P・N 以外の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除されない場合は、手動で解除してください。

■パーキングブレーキ表示灯が点滅したとき

- パーキングブレーキ表示灯が点滅したときは、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても点滅が続く場合は、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 短時間にパーキングブレーキの作動を繰り返すと、システム過熱防止のためにパーキングブレーキの作動を制限することがあります。一時的に操作を控えてください。1 分程度でもとの状態に戻ります。

■パーキングブレーキの作動音について

- パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 緊急時にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、エンジンルーム付近から音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 急勾配の坂に停車している状態でパーキングブレーキを作動させた場合、パーキングブレーキ作動灯が点灯してから数分後に作動音（パーキングブレーキ作動）がすることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
  “ON”：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
  “ON” 以外：約 15 秒間点灯します。

知識

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■**パーキングブレーキスイッチが故障したとき**
パーキングブレーキスイッチが故障し、パーキングブレーキが解除できない場合はオートリリース機能（→ P. 99）により解除してください。

■**パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーについて**
パーキングブレーキが解除されないまま走行すると警告ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 262）

■**ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したとき**
→ P. 243

■**バッテリー<補機バッテリー>があがったときは**
パーキングブレーキを作動（かける・解除する）させることはできません。（→ P. 294）

⚠ 警告

■**駐車するとき**
必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。お車が動きだしたり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■**パーキングブレーキスイッチについて**
パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、パーキングブレーキの思わぬ作動につながるおそれがあります。

■**走行時のパーキングブレーキ使用について**
緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。

■**走行前の留意事項**
パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■**故障などでパーキングブレーキが作動しないとき**
システム異常により電動パーキングブレーキが作動しない場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

オートブレーキホールド機能★

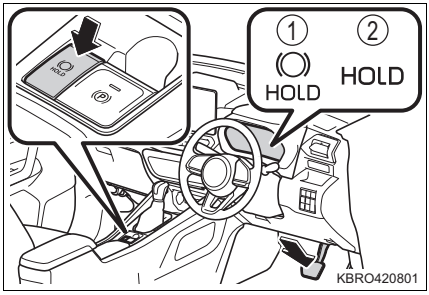
ブレーキペダルを踏んで停車した際、ブレーキペダルから足を離しても、ブレーキを保持するシステムです。
保持中にアクセルペダルを踏むと、ブレーキは解除されます。

システムを作動させるには

1 スイッチを押して、オートブレーキホールド機能を ON にする
オートブレーキホールドスタンバイ表示灯（①）が点灯します。

2 シフトレバーがP·R以外でブレーキペダルを踏んで車両を停止させる
ブレーキがしっかり踏み込まれているとブレーキ保持を開始します。ブレーキ保持中はオートブレーキホールド作動表示灯（②）が点灯します。
次の場合にブレーキ保持は解除されます。

- シフトレバーを P にする
- シフトレバーが R でブレーキペダルを踏む



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと、オートブレーキホールド機能を ON にできます。

- ●運転席ドアが閉まっている
- ●運転席シートベルトを着用している

オートブレーキホールド機能が ON のときに上記条件を満たさなくなると、機能が OFF になり、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は自動的にパーキングブレーキがかかります。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ブレーキ保持について

- ●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかり、制動灯が消灯します。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ●ブレーキ保持中にパーキングブレーキスイッチを引くとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ保持は解除されます。
- ●急勾配の坂でブレーキ保持できない場合、TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブレーキ操作を促します。運転者がブレーキペダルを踏んでブレーキをかけてください。
- ●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、再度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの方法でパーキングブレーキを解除してください。

- ●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作する
  操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→ P. 247)
- ●運転席ドアを閉め、運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

■ダイハツサービス工場で点検が必要なとき

オートブレーキホールド機能の作動条件を満たしているときに、オートブレーキホールドスイッチを押してもオートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■オートブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■警告メッセージについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意を促します。警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作したときは

オートブレーキホールド作動表示灯が点灯しているときに、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作すると、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作してください。

■オートブレーキホールド機能の作動音

オートブレーキホールド作動中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を高めるために作動音が発生する場合があります。

■オートブレーキホールド機能について

- ●エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF” にすると、システムは自動的に OFF になります。
- ●ブレーキ保持中にブレーキペダルを踏むと重く感じることがありますが、異常ではありません。
- ●アイドリングストップの作動条件を満たしているときは、アイドリングストップも作動します。(eco IDLE 装着車)
- ●停車時にブレーキペダルをしっかり踏み込まないと、システムが作動しないことがあります。
- ●カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しして、スマートパノラマパーキングアシストを起動すると、オートブレーキホールド機能が OFF になります。(→ P. 184)

⚠ 警告

■急坂路では

急な坂道ではオートブレーキホールド機能を使用しないでください。オートブレーキホールド機能が作動しない、または作動しても停車を維持できずに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■滑りやすい路面では

タイヤのグリップ限界を超えて停車させることはできません。滑りやすい路面での使用は控えてください。

■安全にお使いいただくために

- オートブレーキホールド機能を過信しないでください。オートブレーキホールド機能は停車時のブレーキ操作を補助する機能です。ブレーキ操作を怠ると不意にお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の交通状況に応じて適切にブレーキ操作を行ってください。
- オートブレーキホールド作動表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。お車が停止状態を保持できず、動き出すおそれがあります。

■駐車するとき

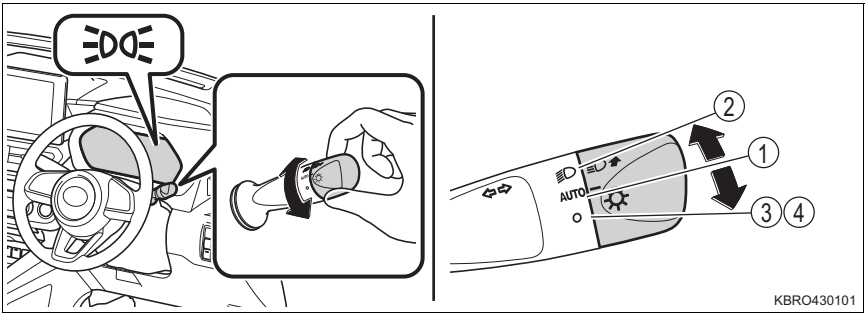
オートブレーキホールド機能は長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にすると、保持が解除されてお車が動き出す場合があります。エンジンスイッチ<パワースイッチ>を操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ

操作のしかた

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき、次のように スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ		
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯	LED イルミネーション ランプ★
①	AUTO	自動点灯・消灯		点灯
②	≣D	点灯※1		
③※2、3	○	消灯	点灯	
④※2、4		消灯		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ACC”または“OFF”のときも点灯します。

※2 スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※3 車速が約 3km/h 以下で自動点灯しているとき

※4 車速が約 3km/h 以下で スイッチを約 1 秒以上操作したとき

■ **ランプ類の再点灯について**

スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

●車速が約 3km/h を超えたとき

●再度 スイッチを ○ の位置に操作したとき

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>を再度“ON”にしたとき

●車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

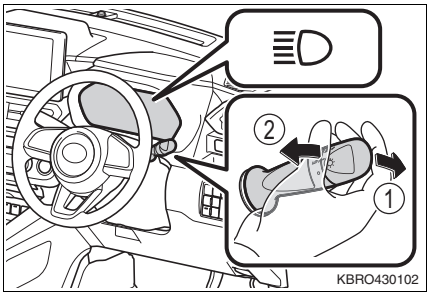
ハイビームにする

①ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。

②レバーを引いている間、ハイビームを点灯

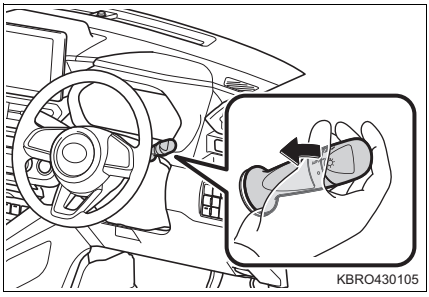
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯します。



ヘッドランプ点灯延長機能（ハイブリッド車）

パワースイッチが“OFF”の状態で、ヘッドランプを約 30 秒間点灯させることができます。

パワースイッチを“OFF”にしたあと、ランプスイッチが **AUTO** の位置で、レバーを手前に引いて離します。



約 30 秒間経過する前に次の操作をすると、ヘッドランプが消灯します。

●パワースイッチを“ON”にしたとき※1

●ランプスイッチを操作したとき※2

●ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき

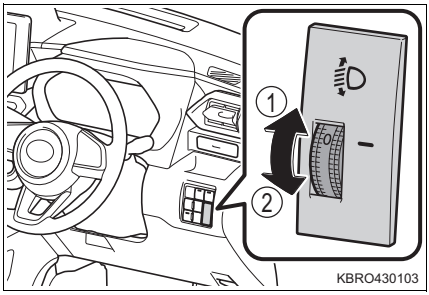
※1 周囲が暗いときは、点灯したままになる場合があります。

※2 ランプスイッチを に操作したときは、点灯したままになります。

手動光軸調整ダイヤル★

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整
② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置		
乗員	荷物	ガソリン車		ハイブリッド車
		2WD 車	4WD 車	
運転者	なし	0	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0	0
全乗員	なし	2	1	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5	2.5	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5	3.5	4

AHB（オートハイビーム）★

AHB は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

AHB を過信しないでください。AHB は運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

■AHB を正しく作動させるために

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

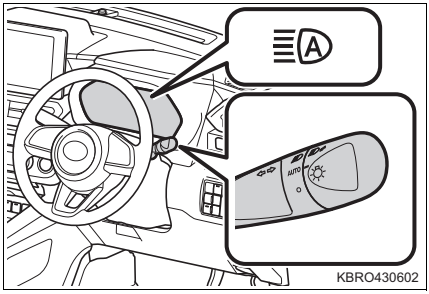
AHB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、AHB が作動し、AHB 作動灯が点灯します。

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき

●ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき

周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ハイビームとロービームの自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

●車速が約 30km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の街灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

●車速が約 20km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車がランプを点灯している

●前方の街灯が明るい

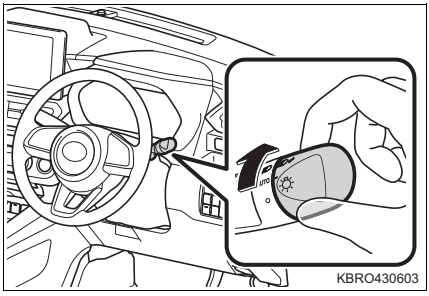
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを にする

AHB 作動灯が消灯します。

AHB に戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します

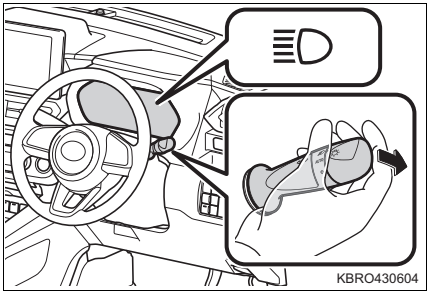


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

AHB作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

AHB に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



知識

■AHB について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。

- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります

●街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。

- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●AHB は車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■**AHB 警告灯が点灯、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★に「オートハイビーム故障」の警告メッセージが表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

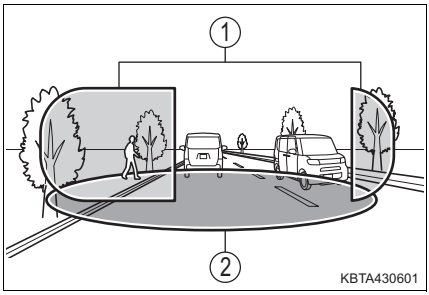
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ADB（アダプティブドライビングビーム）★

ADB は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

●対向車または先行車の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）
対向車または先行車へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

①ハイビームで照らす範囲
②ロービームで照らす範囲



⚠ 警告

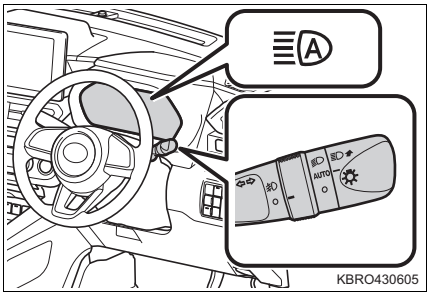
■安全にお使いいただくために
ADB を過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

■ADB を正しく作動させるために
- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

ADB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、ADB が作動し、ADB 作動灯が点灯します。
●エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき
●ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき
周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ヘッドランプ照射範囲の自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

●車速が約 30km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の街灯が暗い

次の条件をすべて満たすと、対向車または先行車の位置に応じて遮光ハイビームに切り替わります。

●車速が約 30km/h 以上

●前方にランプを点灯した車両がある

●車両前方が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームに切り替わります。

●車速が約 20km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車の台数が多い

●前方の街灯が明るい

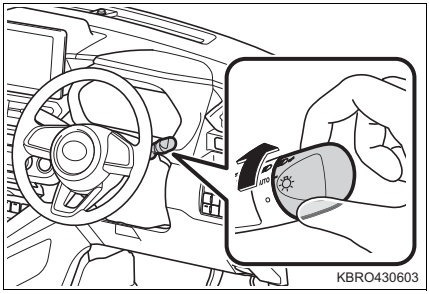
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを にする

ADB 作動灯が消灯します。

ADB に戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します

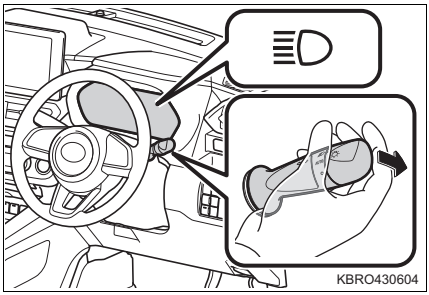


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

ADB作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

ADB に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



サイドビューランプ

ADB 作動灯点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、ロービームが追加点灯し車両進行方向を照射します。

ただし、車速約 35km/h 以上の場合は、サイドビューランプは点灯しません。

●ハンドルを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ロービームを消灯したとき
- ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- ハンドルをまっすぐに戻したとき

●方向指示レバーを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ロービームを消灯したとき
- ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- 方向指示レバーをもとに戻したとき

●シフトレバーが R のとき（左右両側のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ロービームを消灯したとき
- ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- シフトレバーを D・S★・M★・B★にして車速が約 5km/h 以上になったとき

知識

■ADB について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切り替わらない場合があります。

- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合があります。

●街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合や、切り替わらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度や、ロービームへの切り替えのタイミングが変化する場合があります。

- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき

知識

- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■ ADB 警告灯が点灯、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★に「ヘッドランプ光軸異常」、または「ヘッドランプシステム故障」の警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ サイドビューランプ

サイドビューランプは、点灯したまま約 5 分経過すると、自動的に消灯します。

消灯後再度、方向指示レバー、ハンドル操作を行うか、シフトレバーを R にすると点灯します。

停車時に自動的に消灯した場合は、車速約 3km/h で走行すると点灯します。

フォグランプスイッチ★

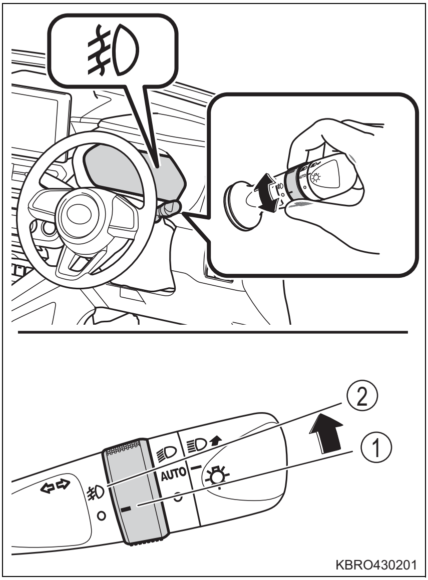
雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

▶ フロントフォグランプ

次のようにフロントフォグランプスイッチを操作すると、フロントフォグランプが点灯・消灯します。

① ○ ：消灯する

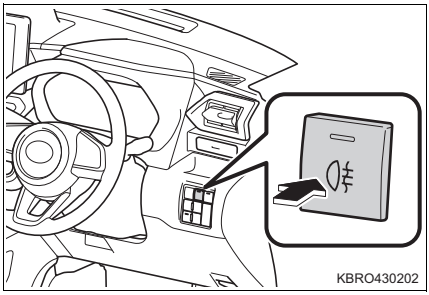
② (フォグランプ記号) ：点灯する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶リヤフォグランプ

リヤフォグランプスイッチを押すと、リヤフォグランプが点灯し、スイッチの作動表示灯が橙色に点灯します。
再度押すと消灯します。


KBRO430202

知識

■**点灯条件**

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：
ヘッドランプまたはフロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■**リヤフォグランプについて**

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

車速感応式間欠ワイパー装着車は を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

① O ：停止

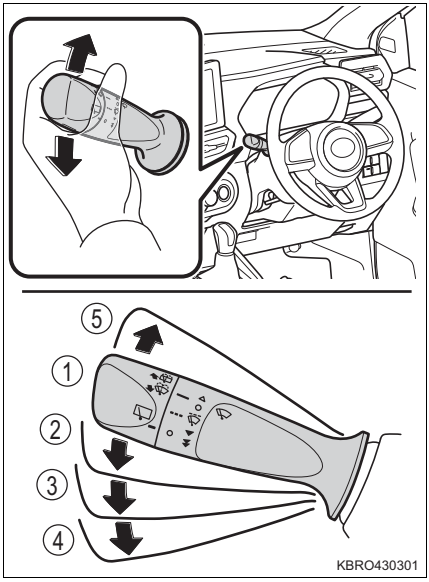
② ：間欠作動

車速感応式間欠ワイパー装着車は車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ ：低速作動

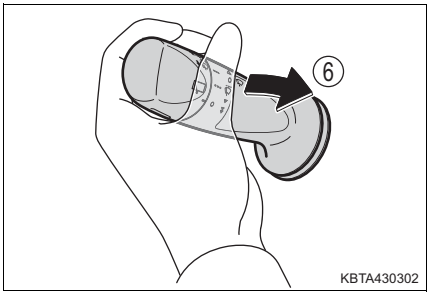
④ ▼▼ ：高速作動

⑤ △ ：一時作動



KBRO430301

⑥ ：ウォッシャー液を出す
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



⚠ 警告

■ウォッシャー使用時の警告
寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

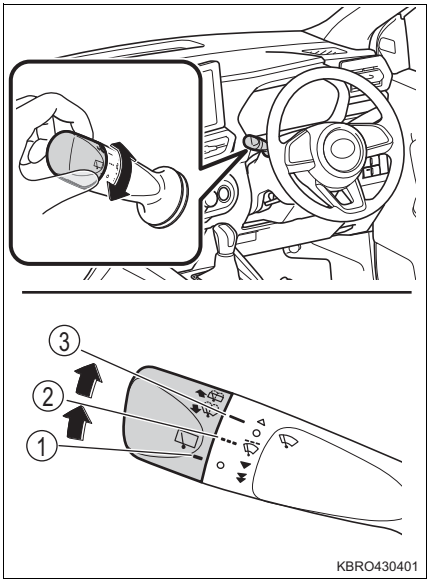
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

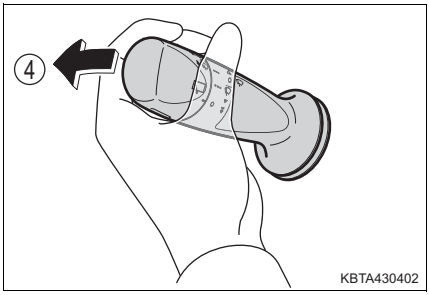
① O ：停止

② ▬▬：約 4 秒間低速作動したあと、間欠作動

③ ▬▬：通常作動



④ ：ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動します。



4-4. 給油のしかた

給油口の開け方

給油する前に

⚠ 警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分に触れて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内に戻ったり、他の人やものに触れないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が吹き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 携帯電話などを使用しないでください。
- 吹きこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
  - 給油口にノズルを確実に挿入する
  - 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

給油口の閉め方

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 126

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 126

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 132

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 138

◆ 車線逸脱抑制制御機能

→ P. 138

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 138

◆ ふらつき警報

→ P. 142

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 143

◆ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

→ P. 145

◆ 全車速追従機能付 ACC★

→ P. 147

◆ LKC★

→ P. 158

◆ AHB★

→ P. 104

◆ ADB★

→ P. 107

⚠ 警告

■スマートアシストについて

●スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

●次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。(→ P. 117)

- タイヤの空気圧が適正でないとき
- スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
- 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
- サスペンションを改造したとき
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 車両を改造・架装したとき
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動してタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

車両データの記録について

スマートアシストには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●ハンドルおよびシフトレバーの操作状況

●車速などの車両情報

●スマートアシストの各機能の作動状況

●先行車や障害物との距離、相対速度などの情報

●ステレオカメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

●お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

●警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

●ダイハツが訴訟で使用する場合

●統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

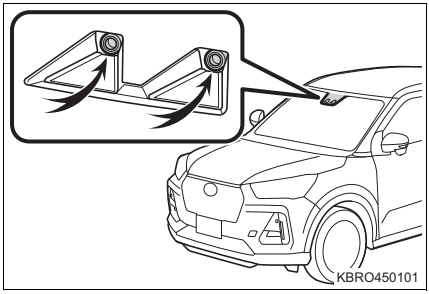
【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

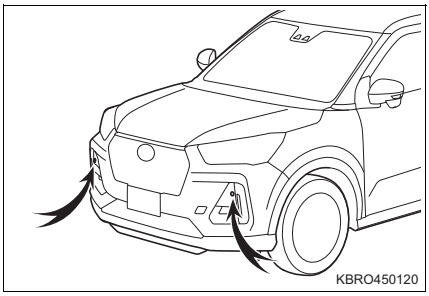


- ●衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- ●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）
- ●車線逸脱警報機能
- ●車線逸脱抑制制御機能
- ●路側逸脱警報機能
- ●ふらつき警報
- ●先行車発進お知らせ機能
- ●標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★
- ●全車速追従機能付 ACC★
- ●LKC★
- ●AHB★
- ●ADB★

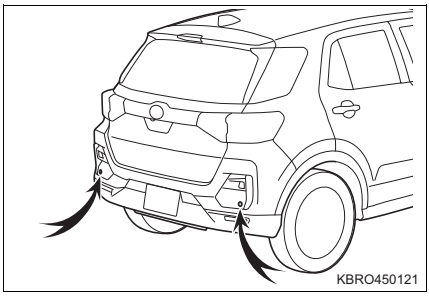
ソナー

ソナーは、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）で必要な情報を認識します。

▶フロントソナー



▶リヤソナー



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシストOFFスイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

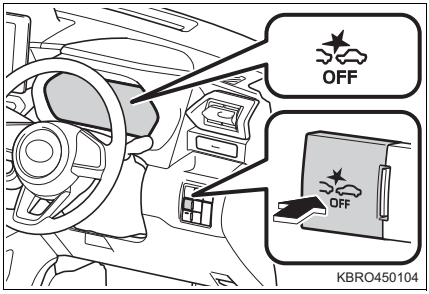
また、マルチインフォメーションディスプレイの設定★または TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定★を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。(→ P. 60)

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能・標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★・全車速追従機能付ACC★を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを２秒以上長押しする

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度 2 秒以上長押しすると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

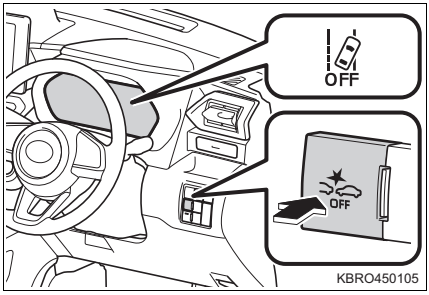


■ 車線逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報・LKC★を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報OFF表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



知識

■ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

- エンジン<ハイブリッドシステム>始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

知識

■スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。(→ P. 272)

状況が改善されれば再度機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジン<ハイブリッドシステム>始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にしてから“ON”にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★
- 全車速追従機能付 ACC★

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC★について

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC の作動可能状態または停止状態は、エンジン<ハイブリッドシステム>を再始動しても維持されます。

■スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピピピピッ”	（点滅）		衝突警報機能が作動
“ピピピピピピ”と鳴り続ける	（点滅） 		衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレーキが作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピッ”と鳴り続ける	（点滅）		衝突回避支援ブレーキ機能の２次ブレーキが作動したあと、車両が停止運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。
“ピピピピピピッ”	（点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける	（点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動するとともにエンジン<ハイブリッドシステム>の出力を抑制
“ピピピピピ”と鳴り続ける	（点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	（点滅）		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動するとともにエンジン<ハイブリッドシステム>の出力を抑制
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点滅） 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピッピピピピッ”	 （点滅）		車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動
—	 （点灯）	※2 （点滅）	車線逸脱抑制制御機能が作動
“ピピピピピッ”	 （点灯）	 ※2 （点滅）	手放し運転をしているとシステムが判断しているとき、車線逸脱抑制制御機能が約３分の間に２回以上作動し、手放し注意が行われた

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピピピピ”と鳴り続ける	 （点灯）	 ※2 （点滅）	手放し注意が行われている状態から、さらに車線逸脱抑制制御機能が作動し、手放し運転警告が行われた
“ピピッピピッ”	 （点灯）		ふらつき警報が作動
“ピピピッ”	 （点滅）		先行車発進お知らせ機能が作動
—		—	AHB★が作動
—		—	ADB★が作動
—※3	—		標識認識機能★が作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
—			全車速追従機能付 ACC★が車間制御モードで作動
—			全車速追従機能付 ACC★が定速制御モードで作動
“ピッ”	—	※4 	全車速追従機能付 ACC★作動時、先行車を認識した、または認識しなくなった
“ピピピピピ”と鳴り続ける	—	 （点滅）	全車速追従機能付 ACC★の接近警報が作動
—	—		全車速追従機能付 ACC★の停車保持が作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピッ”	OFF （点滅）	 （点滅）	全車速追従機能付 ACC★の設定条件を満たさずに－ SET スイッチ、または＋RES スイッチを押したとき
“ピッピッ” と鳴り続ける	OFF （点滅）	 （点滅）	全車速追従機能付 ACC★の停車保持が自動的に解除
“ピピッ”	OFF （点滅）	 （点滅）	作動条件を満たさなくなり、全車速追従機能付 ACC★が解除された

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ※1	作動状態
“ピピッ”	OFF （点滅）	 （点滅）	先行車を認識しなくなり、全車速追従機能付 ACC★が解除された
—		—	LKC★が作動
—			LKC★作動時、手放し運転をしているとシステムが判断し、手放し注意が行われた
“ピピッ” と鳴り続ける			LKC★作動時、手放し注意が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、手放し運転警告が行われた
“ピピピピピ” と鳴り続ける	—	—	LKC★作動時、手放し運転警告が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、LKC★が解除された

※1 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車
※2 全車速追従機能付 ACC 装着車
※3 標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。（→ P. 60 ）
※4 先行車を認識したときは先行車表示灯が点灯し、認識しなくなったときは消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。
  - フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 206, 207）
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。
  - ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないでください。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

■ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ソナーは常にきれいにしてください。
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
  - お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。

⚠ 警告

- ●ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。
- ●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。
- ●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ●ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
- ●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。
- ●バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。
- ●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■汚れ検知機能について

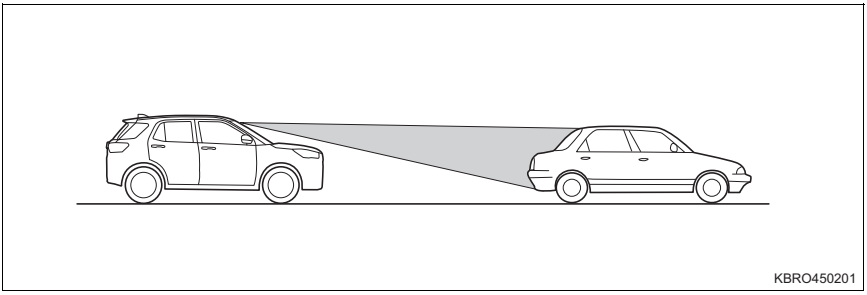
- ●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
  汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両※1、歩行者※2 を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※1 二輪車、自転車を含む

※2 昼間、夜間対応



KBRO450201

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 118）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 118）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 131
- 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 127, 131

●安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

●衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両※ や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。

●緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むと衝突回避支援ブレーキを解除します。

●運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない場合があります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両※ との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 60km/h）を超える場合は作動しません。

●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 18）

※ 二輪車、自転車を含む

■衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

●前方車両※ や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）

●車両の状態（積載量・乗員など）

●路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）

●前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）

●運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき

●エンジン<ハイブリッドシステム>始動直後

●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき

●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき

●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
- ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
- フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき

⚠ 警告

- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両※、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両※ や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道のとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
- 前方車両※ や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両※ や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両※、歩行者に接近したとき
- 前方車両※ の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 自車が車線変更を行い、前方車両※ のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車両※ が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
- 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき
- 二輪車や自転車が斜め、または横向きに走行しているとき
- 歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
- 対向車※ やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両※ の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両※ が傾いているとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- 二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）

⚠ 警告

●タイヤ径が小さい二輪車※ や全長が長い二輪車※ のとき
●歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき
●二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

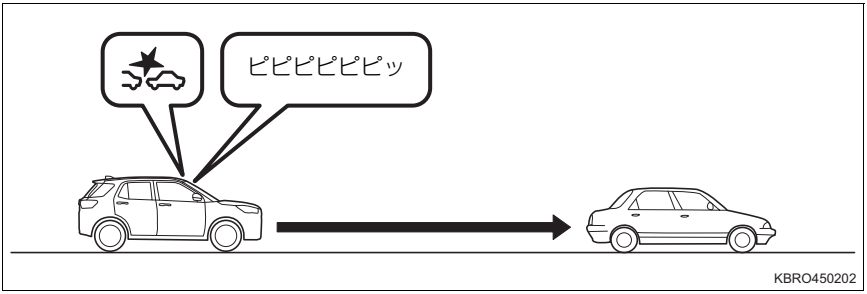
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

1 ～ 4 の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

●システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
●ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
●ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

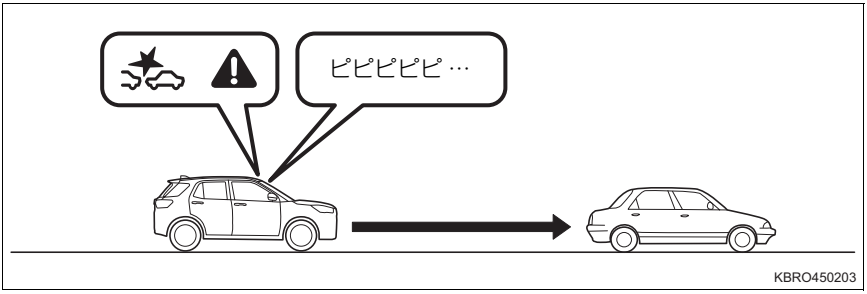
1 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 118）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

2 1 次ブレーキ

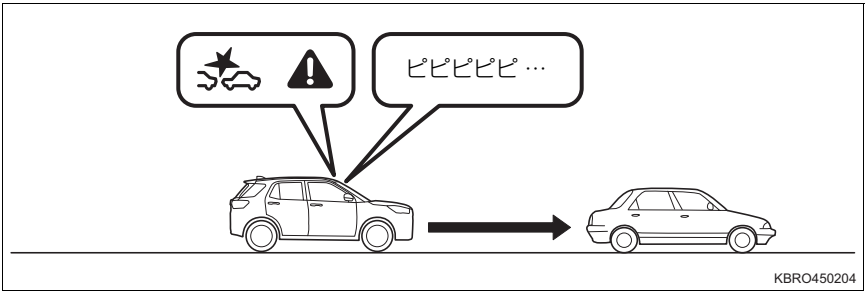


前方車両※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車両※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル・ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

※ 二輪車、自転車を含む

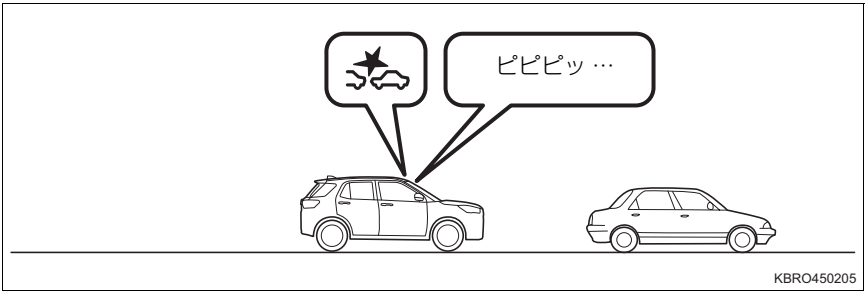
3 2 次ブレーキ



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1 次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

知識

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは歩行者や二輪車・自転車の運転者を認識します。認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が "ON" のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- シフトレバーが P・R 以外のとき

知識

●次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差※1
衝突警報機能	対車両※2	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 4 ～ 60km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両※2	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 4 ～ 60km/h
被害軽減ブレーキアシスト※4	対車両※2	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者※3	約 30 ～ 60km/h

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。
※2 二輪車、自転車を含む
※3 昼間、夜間対応
※4 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

■衝突回避支援ブレーキについて

●状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。
●衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
●衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

●狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
●前方車両※ に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※ の寸前まで接近して停止するとき
●停止車両※ などの横を至近距離で通過するときや対向車両※ が自車に向かって接近するとき
●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
●ステレオカメラの光軸がずれているとき
●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
●路面上に大きなペイントなどがある場合
●カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
●カーブですれ違う対向車両※ があるとき
●駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
●下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
●バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
●複数台の前方車両※ などが重なって見えるような場合
●上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
●縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
●先行車両の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
●水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
●外部から光の差し込みがあるとき

知識

- 車両※ と車両※、車両※ と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車両※ の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両※ のとき
- 横断歩行者が自車正面に差しかかる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

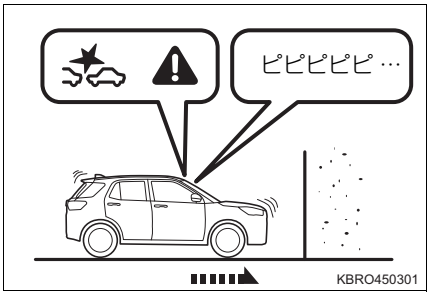
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

ブレーキ制御付誤発進抑制機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 118）による運転者への警報とエンジン<ハイブリッドシステム>の出力の抑制制御に加え、ブレーキ制御を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 前方

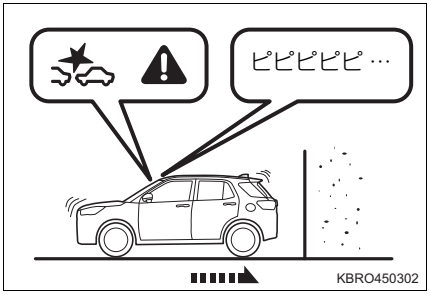
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



⚠ 警告

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能について

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。(→ P. 117)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- エンジン<ハイブリッドシステム>出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。(→ P. 18)

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン<ハイブリッドシステム>始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
  - ステレオカメラの温度が極端に高いとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
  - 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
  - ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
  - 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき

⚠ 警告

- 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
- しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
- 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
- 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に前方に現れたもの
- 車両前方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- 動いているもの
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
- 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

●背の低い障害物

●小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物

●針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物

●急に後方に現れたもの

●車両後方を横切るもの

●人や綿、雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁

⚠ 警告

●凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
●ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

●運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
●路面の状態（勾配・凹凸など）
●車両の状態（積載・乗員など）
●悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
●エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動直後
●荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
●後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
●勾配が急な坂道を走行しているとき
●外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
●下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
●水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
  - 動いているもの
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
  - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
  - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
  - 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
  - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動

■ 警報

車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 118）で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

●後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 118）

■ エンジン＜ハイブリッドシステム＞出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルがすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 118）で運転者に警報するとともに、エンジン＜ハイブリッドシステム＞出力の抑制制御を行います。

●エンジン＜ハイブリッドシステム＞出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約8秒間継続します。
●エンジン＜ハイブリッドシステム＞出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

■ ブレーキ制御

エンジン<ハイブリッドシステム>出力の抑制制御が行われてもそのままアクセルペダルを踏み続け、障害物との衝突が避けられないとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 118）で運転者に警報するとともに、ブレーキ制御を行います。

●ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。

●停止後、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

知識

■ **ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動条件**

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ●エンジン回転中< READY インジケーター点灯中>
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●車速が 0 ～約 10km/h のとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき
- ●メーター内の VSC OFF 表示灯・TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●前方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトレバーが D・S★・M★・B★のとき
  - ・機能停止コード「5E」※1、「6E」、「11E」※2、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- ●後方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
  - ・シフトレバーが R のとき
  - ・機能停止コード「12E」、「14E」、「15E」、「16E」が表示されていないとき
- ●フロントワイパーを“高速”で作動させていないとき※3

※1 機能停止コード「5E」のみが表示されているときは、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※2 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※3 フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

■ **ブレーキ制御について**

- ●ブレーキ制御中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- ●ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■ **衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動する場合**

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動することがあります。

- ●前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- ●路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ●水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ●ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- ●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ●停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車両が自車に向かって接近するとき
- ●車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- ●路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- ●カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- ●カーブですれ違う対向車両があるとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 縦列駐車をするとき
- 前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動することがあります。

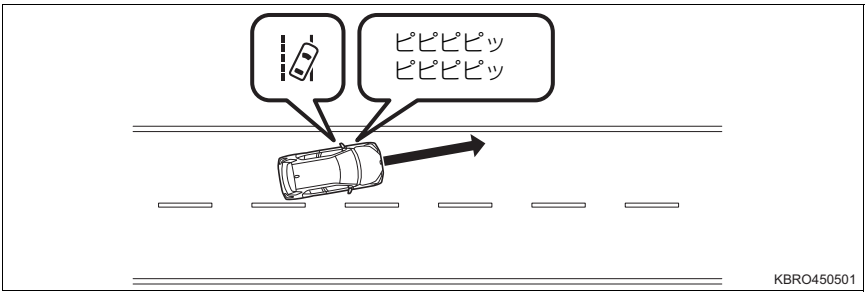
- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- 水しぶき・雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能

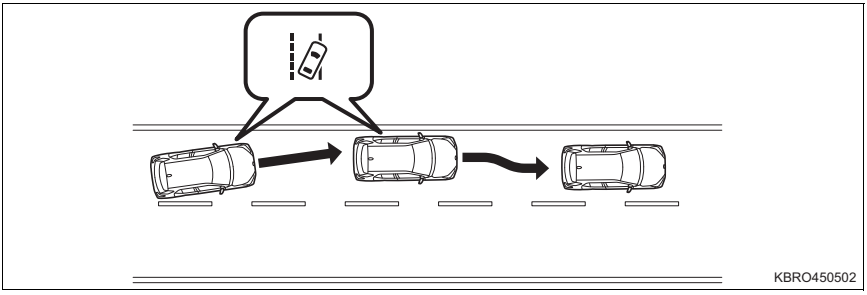
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線または道路※ から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに作動します。
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は車線または道路※ を認識し、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 118）で運転者に注意を促します。
車線逸脱抑制制御機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに作動します。
車線逸脱抑制制御機能は車線を認識し、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援し、メーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 118）で運転者に注意を促します。

※ アスファルトと草・土などの境界

▶車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能

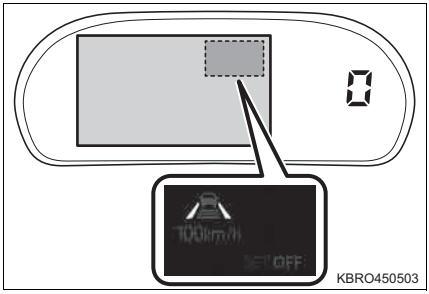


▶車線逸脱抑制制御機能



車線認識表示灯★

●左右の白(黄)線を認識しているとき点灯します。
●車線の逸脱を認識すると､認識している側の表示が点滅します。
●基本画面を切り替えると、表示位置が変わります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能について

- ●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は、車線・道路※ の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能に頼っていると、車線・道路※ の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- ●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

- ●車線または道路※ がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。
- ●車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱抑制制御機能について

- ●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制制御機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制制御機能が作動しなかったり、制御タイミングが運転者の意思と異なるように感じる可能性があります。
- ●車線逸脱抑制制御機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合があります。

- ●車線内を走行していないとき
- ●カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- ●車線／道路の幅が狭いときや広いとき
- ●方向指示レバーを使用しているとき
- ●急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
- ●ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ●ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリーを取り付けているとき

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線または道路※ を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- ●白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- ●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- ●路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- ●トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ●雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- ●木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- ●夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- ●道路の状態（特に次のような場合）
  - ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
  - ・道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
  - ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
  - ・車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき

⚠ 警告

- 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
- 坂道や丘の頂上に近付いているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
- 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- カーブの形状が変化するとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
●アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき
●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
●横風を受けているとき
●周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
●車線変更をした直後
●冬用タイヤなどを装着しているとき
●過度な高速走行をしているとき
●隣車線から車が割り込んできたとき
●路肩に縁石や側壁があるとき
●先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
●夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
●区画線に急に接近する場合
●雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき

※ アスファルトと草・土などの境界

知識

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき

●「スマアシ停止」が表示されていないとき
●「スマアシ故障」が表示されていないとき
●方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
●急なハンドル操作をしていないとき
●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
●システムが左右いずれかの白（黄）線または道路※ を認識しているとき
●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

※ アスファルトと草・土などの境界

■車線逸脱抑制制御機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>が "ON" のとき
●車速が約 60km/h 以上のとき
●ABS、VSC、TRC が作動していないとき
●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動していないとき
●ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動していないとき
●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
●VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
●「スマアシ停止」が表示されていないとき
●「スマアシ故障」が表示されていないとき
●逸脱側の方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 1 秒間は作動しません）
●マルチインフォメーションディスプレイの設定★、または TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定★（→ P. 60）で「車線逸脱抑制」を ON にしているとき
●ブレーキペダルを踏んでいないとき
●一定以上の加減速がないとき
●シフトレバーが D のとき
●急なハンドル操作をしていないとき
●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
●システムが左右の白（黄）線を認識しているとき
●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 140）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞き取りにくい場合があります。

■車線逸脱抑制制御機能について

●車線逸脱抑制制御機能は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能にくらべて早いタイミングで作動します。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時にくらべて早いタイミングで作動します。
●車線逸脱抑制制御機能によるハンドル操作支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
●車線逸脱抑制制御機能が約 7 秒以上続けて作動したときは、ブザーが鳴ります。

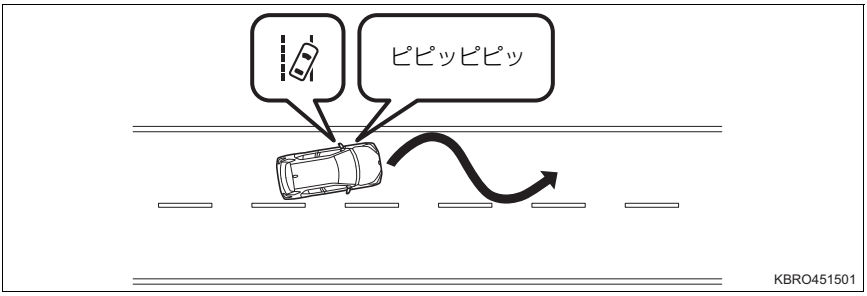
■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断しているときに、車線逸脱抑制制御機能が約 3 分の間に 2 回以上作動したときは、手放し運転警告灯が点灯し、ハンドル保持を促す注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、メッセージが表示されます。
●さらに操作しない状態が続きハンドル操作支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操作支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。
●運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

ふらつき警報

ふらつき警報は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって白（黄）線を認識し、長時間走行中、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイ表示（→ P. 118）で運転者に注意を促します。



⚠ 警告

■ふらつき警報について

- ふらつき警報を過信しないでください。ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものでありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。
- ふらつき警報の作動テストを行わないでください。

知識

■ふらつき警報の作動条件

次のような条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- カスタマイズ機能の設定で「ふらつき警報」を ON にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 5 秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動していないとき
- LKC★が作動していないとき

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 142）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再度作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ふらつき警報について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞き取りにくい場合があります。
- 車線がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、ふらつき警報が作動しない場合があります。
- ふらつき警報は、運転者の操作と車両の動きから総合的にふらつきを判断しています。

■ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき

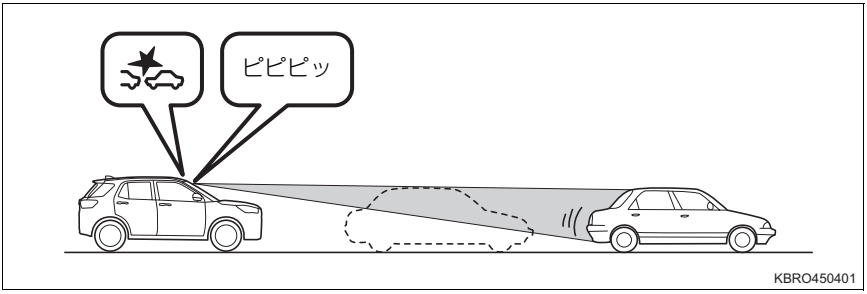
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
  - 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
  - フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
  - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
  - 先行車との車間距離が短いとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 車線変更をした直後
- 過度な高速走行をしているとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 118）で運転者にお知らせします。
先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



⚠ 警告

■先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- シフトレバーが D・S★・M★・B★でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトレバーが N のとき
- シフトレバーが D・S★・M★・B★・N でブレーキ保持により車両が停止しているとき
- 停止してから数秒経過したとき

■先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

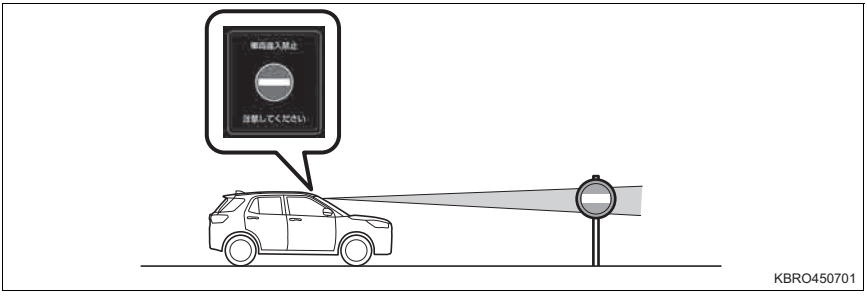
- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止したときに先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって特定の道路標識を認識し、ディスプレイ※に表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。状況によっては、道路標識の表示が正常に作動しない場合があります。

※ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は、スマホ連携ディスプレイオーディオまたは純正ナビゲーションの画面に表示されます。



KBRO450701

⚠ 警告

■標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）をお使いになる前に

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者ご自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）に頼らず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

：最高速度

：車両進入禁止

：一時停止

知識

■標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 次のいずれかの状態のとき
  - TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 60）で、「標識認識機能」を「ON」にしているとき
  - スマホ連携ディスプレイオーディオ※のシステム設定で「標識表示」を ON にしているとき（TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

※ 詳しくはディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき

●車速が次のとき
- 車両進入禁止、一時停止：約 60km/h 以下
- 最高速度：0km/h 以上

●シフトレバーが D・S★・M★・B★のとき

■標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動終了

次の状況になってから一定の時間が経過したときは、標識の表示が消えます。

▶最高速度

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折などにより走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●補助標識（終わり）を認識したとき

●シフトレバーを D・S★・M★・B★以外にしたとき

▶車両進入禁止

●車両進入禁止標識を通過したとき

●シフトレバーを D・S★・M★・B★以外にしたとき

●方向指示レバーを操作したとき

▶一時停止

●一時停止標識を通過したとき

●シフトレバーを D・S★・M★・B★以外にしたとき

■標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では標識を正確に認識できず、標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

●最高速度標識の速度と車速が大きく離れているとき

●標識の手前で減速したときや、右左折前、右左折後

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●認識対象の標識の色、形、数字に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

●補助標識が設置されている場合

●電光標識に数字が表示されていない場合

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状況（特に次のような場合）
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- ステレオカメラが標識を認識する時間が短いとき
- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面またはステレオカメラ付近が覆われているとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に標識に接近するとき
- 屋内の駐車場など暗い場所で標識に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 前方車両の後ろ部分にステッカーが貼ってあるとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●標識の状態（特に次のような場合）
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 標識の向きが変わっているとき
- 標識が破損しているとき
- 標識のまわりが込み入って見つけにくいとき
- 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
- 標識の上や下に、規制や条件などを示す補助標識が設置されているとき
- 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
- 標識が高い位置にあるとき
- 標識が低い位置にあるとき
- 標識が急な上り坂、急な下り坂にあるとき
- 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
- 小さいサイズの標識のとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 電光標識が極端に明るい、または暗いとき
- 側道の標識がステレオカメラの認識範囲内に入ったとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●運転の状況（曲がる・車線変更など）が誤って判断されたとき

●ヘッドランプの汚れなどで照射が弱いときや光軸がずれているとき

■カスタマイズ機能

●標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）を非作動にすることができます。（→ P. 60, 309）

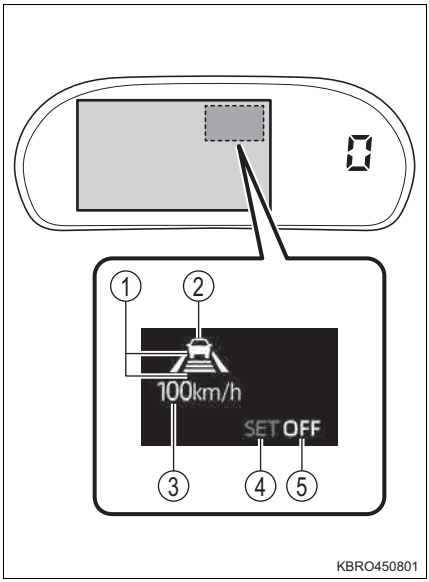
●標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。（→ P. 60, 309）

全車速追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）★

全車速追従機能付 ACC は、アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。
定速制御モードでは、一定の車速で走行を行います。
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

■ **運転支援表示**

基本画面を切り替えると、表示位置が変わります。



① 設定車間

設定された車間距離を表示します。

② 先行車表示灯

車間制御モード作動中に、先行車を認識しているとき表示されます。

次のいずれかのとき点滅します。

- 接近警報（→ P. 154）が作動したとき
- 先行車を認識しなくなり、制御が自動的に解除されたとき

③ 設定車速

設定された車速を表示します。

次のいずれかのとき点滅します。

- 制御が自動的に解除されたとき
- 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件（→ P. 156）を満たさずに− SET スイッチ、または+ RES スイッチを押したとき

④ ACC SET 表示灯

車間制御モード、または定速制御モードが作動しているとき表示されます。

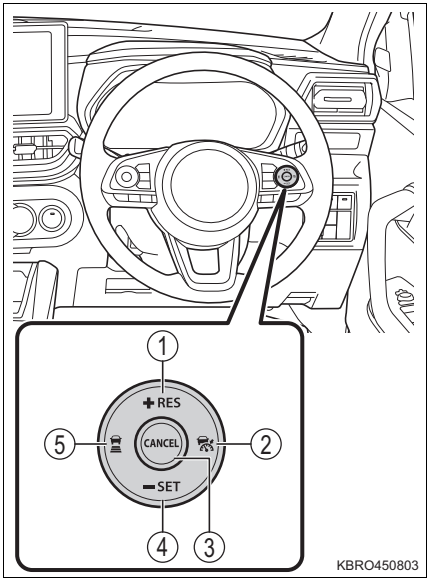
⑤ ACC OFF 表示灯

機能停止により、作動できないとき点灯します。

次のいずれかのとき点滅します。

- 制御が自動的に解除されたとき
- 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件（→ P. 156）を満たさずに− SET スイッチ、または+ RES スイッチを押したとき

■ **操作スイッチ**



① + RES スイッチ

② ACC メインスイッチ

③ キャンセルスイッチ

④ − SET スイッチ

⑤ 設定車間切り替えスイッチ

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- ●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- ●全車速追従機能付 ACC は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
- ●設定車速は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定車速の確認は運転者が行う必要があります。
- ●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●全車速追従機能付 ACC を使わないときは ACC メインスイッチを押してシステムを OFF にしてください。
- ●全車速追従機能付 ACC を使用するときは、車間制御モード、定速制御モードのどちらのモードが選択されているかをメーター内の表示灯で必ず確認してください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見運転やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- ●全車速追従機能付 ACC は、先行車への追突を防止する機能ではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
- ●全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- ●全車速追従機能付 ACC の状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
  - ・先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
  - ・先行車に追従しゆるやかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき
- ●料金所や渋滞などの最後尾で停止中の車両に対しては減速しないことがあります。十分注意してください。
- ●手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
- ●定速制御モードでは、接近警報は作動しません。

■全車速追従機能付 ACC について

- ●路面または壁面の模様・ペイントや前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似ている場合、ブレーキ制御や接近警報が作動する場合があります。
- ●次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
  - ・車両の状態（積載量、乗員など）
  - ・路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - ・車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
  - ・外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - ・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - ・下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - ・水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ●定速制御モードを使用するときは、十分な車間距離を取ってください。
- ●定速制御モードでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。

⚠ 警告

■全車速追従機能付 ACC を使用してはいけない状況

次の状況では、全車速追従機能付 ACC を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●接近警報が頻繁に鳴るとき
- ●歩行者や自転車などが混在している道
- ●交通量の多い道
- ●一般道（自動車専用道路以外）
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- ●頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- ●上り／下り坂で勾配変化が激しい坂
  - ・下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
  - ・急な上り／下り坂では、停車保持できない場合があります。
- ●高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- ●トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- ●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ●道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、車線が極端に近い道
- ●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- ●先行車との位置が横にずれているとき
- ●極端に車間距離が短いとき
- ●自車が車線内で蛇行しているとき
- ●路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- ●夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- ●夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- ●前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、ステレオカメラが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルで加速）してください。

- ●他車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が急ブレーキをかけた場合
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●先行車が背景と似た色合いで区別ができないとき
- ●先行車が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいるとき
- ●先行車が路面の水たまりの付近にいるとき（まわりの風景が水たまりに映り込むなど）
- ●先行車が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- ●先行車と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- ●先行車が次のような車両のとき
  - ・後ろ部分が小さ過ぎる車両（荷物を積んでいないトレーラーなど）
  - ・荷台にあおりがない空荷のトラックなど
  - ・後端から積荷が飛び出している車両など
  - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
  - ・バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
  - ・リヤタイヤから車両後端までが長い車両
  - ・車高が極端に高い車両
  - ・車高の低い車両
  - ・背面が縦縞、檻、タイル柄など、連続する模様になっている車両

⚠ 警告

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
- ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
- フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行または停車しているとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき

●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●夕方、朝方の薄暗いとき

●自車バンパーの近い位置に物体があるとき

●カーブやカーブの出入り口付近、車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき

●白（黄）線がない道路や、白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくい道路を走行するとき

●上り坂から平坦な道または下り坂に変わるとき

●下り坂から平坦な道または上り坂に変わるとき

●分岐・合流路などを走行するとき

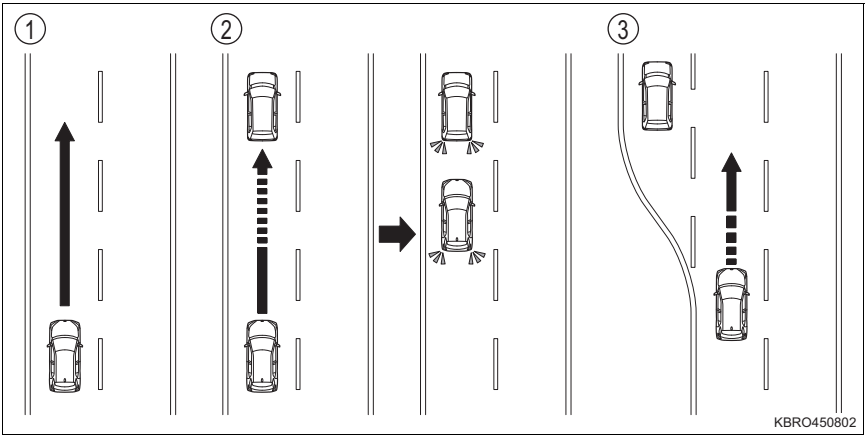
車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、ステレオカメラにより車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

また、設定車間切り替えスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。



①定速走行：先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

約 30km/h 未満では前方に車両がいない場合使用できません。

②減速走行 ― 追従走行：設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。

十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（停車保持）（→ P. 154）。

③加速走行：設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行に戻ります。

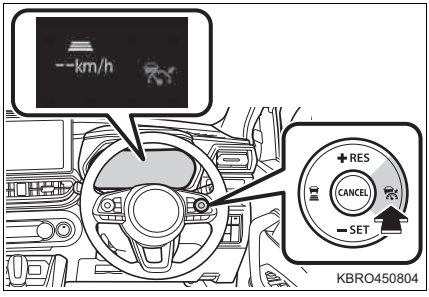
車速を設定する（車間制御モード）

1 ACC メインスイッチを押して、車間制御モードでシステムを ON にする

- ACC 表示灯が点灯します。
- 車間設定が表示されます。
- 設定車速が“－－ km/h”と表示されます。

システムを OFF にするには再度 ACC メインスイッチを押します。

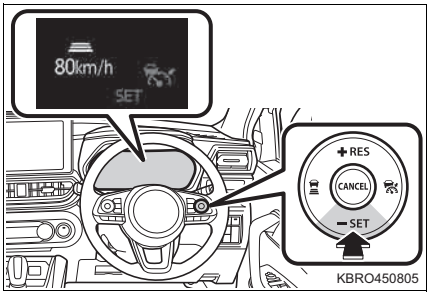
ACC メインスイッチを約 2 秒以上長押しすると定速制御モードでシステムがONになります。(→ P. 155)



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、− SET スイッチを押す

設定車速が表示され、制御を開始します。
スイッチを離したときの車速で設定されます。

- ACC SET 表示灯が点灯します。
- 設定車速は 30km/h から設定できます。



設定車速を変える（車間制御モード）

設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで＋ RES スイッチまたは− SET スイッチを押す

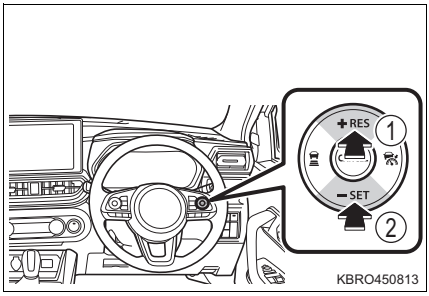
スイッチを操作するごとに設定車速の表示が変わります。

① 速度を上げる（停車保持時を除く）

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間、5km/h きざみで変化

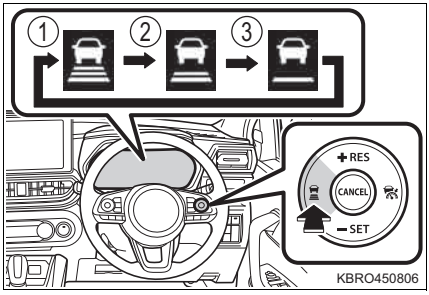
設定車間を切り替える（車間制御モード）

設定車間切り替えスイッチを押すごとに次のように設定車間が切り替わります。

① 長い

② 中間

③ 短い



設定車間切り替えの目安（車間制御モード）

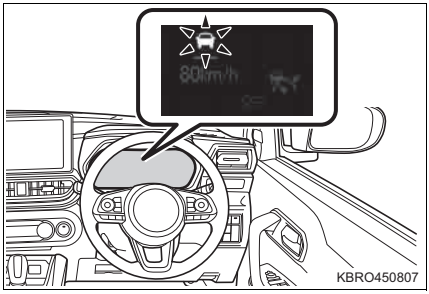
次の目安を参考に車間距離を選択してください。（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、停車保持作動中は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

設定車間選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 25m

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、先行車表示灯の点滅とブザー、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージで運転者に注意を促します。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 接近警報が作動しないとき

次のような場合は接近警報が作動しないことがあります。

- ●先行車と自車の車速が同じか先行車のほうが速いとき
- ●他車が至近距離に割り込んできたとき
- ●先行車が急減速したとき
- ●先行車が極端な低速走行をしているとき
- ●車間制御開始直後
- ●アクセルペダルを踏んだとき
- ●上り坂、下り坂が繰り返されるとき
- ●料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両に近付いたとき

停車保持について（車間制御モード）

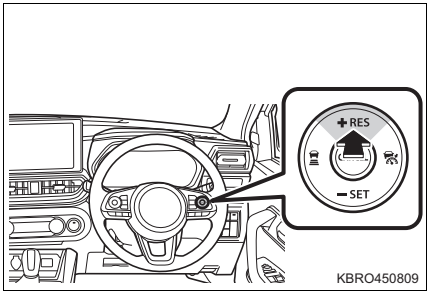
先行車が停止したときは、続いて停止します。

停車保持を最長約 3 分間継続したあと、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。停車保持中にシステムが自動解除されたときに停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。（→ P. 157）

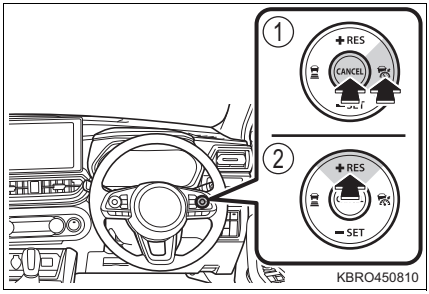
■ 停車保持から追従走行に復帰させるには

先行車の発進後、+ RES スイッチを押すと追従走行に戻ります。

アクセルペダルを踏んでも追従走行に戻ります。



制御を解除する・復帰させる（車間制御モード）



①制御を解除するには、キャンセルスイッチ、または ACC メインスイッチを押す

- ブレーキペダルを踏んだときも解除されます（車間制御モードの停車保持中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）。
- エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にしてエンジン<ハイブリッドシステム>を停止したときも自動的に解除されます。
- オートブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 54）が点灯しているときは、停車保持中に ACC を解除すると、オートブレーキホールド機能が作動します。

②制御を復帰するには、+RES スイッチを押す

■ 復帰できないとき

次の場合は、制御を復帰させることができません。

●先行車を認識していない状態で車速が約 30km/h 未満のとき

●ACC メインスイッチを押してシステムを OFF にしたとき

●システムの自動解除条件（→ P. 157）のいずれかを満たしているとき

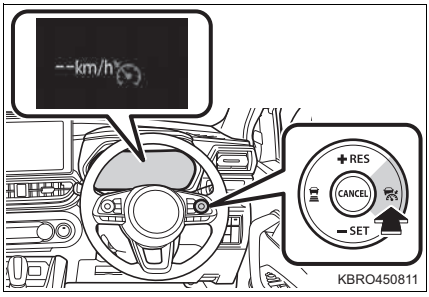
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂を走行しているときは、設定車速を超えて走行することがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。

車速を設定する（定速制御モード）

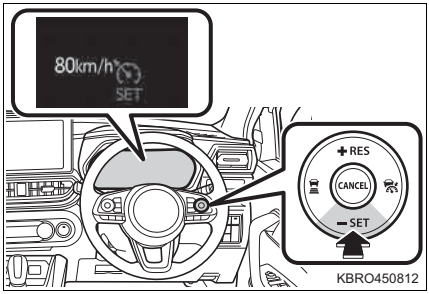


1 ACC メインスイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯し、設定車速が“−− km/h”と表示されます。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

システムを OFF にするには再度 ACC メインスイッチを押します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、− SET スイッチを押す

設定車速が表示され、制御を開始します。

スイッチを離したときの車速で設定されます。

ACC SET 表示灯が点灯します。

設定車速は 30km/h から設定できます。

設定車速を変える（定速制御モード）

設定車速を変えるには、次の方法があります。

●アクセルペダル、またはブレーキペダルを操作する

●操作スイッチを押す

■ アクセルペダル・ブレーキペダル操作で変える

設定車速を上げるには、アクセルペダルを踏み速度を上げ、希望の速度になったら− SET スイッチを押します。

設定車速を下げるには、ブレーキペダルを踏み速度を下げ、希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、− SET スイッチを押します。

ブレーキペダルを踏むと、全車速追従機能付 ACC が解除され、ACC SET 表示灯が消灯します。

スイッチを押したときの車速に設定され、新しく設定車速が表示されます。

■ 操作スイッチで変える

設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで＋ RES スイッチまたは− SET スイッチを押す

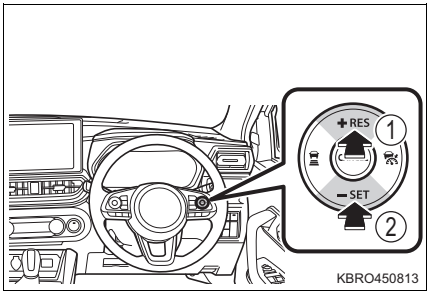
スイッチを操作するごとに設定車速の表示が変わります。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間連続して変化

制御を解除する・復帰させる（定速制御モード）

車間制御モードと同じ方法で解除・復帰ができます。（→ P. 155）

知識

■設定条件について

次の条件をすべて満たしているとき、全車速追従機能付 ACC の制御を開始できます。

- ●車速が 0km/h 以上（先行車がいないときは約 30km/h 以上）のとき（車間制御モード）
- ●車速が約 30km/h 以上のとき（定速制御モード）
- ●エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- ●停車中の場合は、次のすべての条件を満たしているとき
  - ・運転席ドアが閉まっている
  - ・ブレーキペダルを踏んでいる、または、オートブレーキホールド機能で停車している
  - ・運転席シートベルトを着用している
- ●VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●ACC 表示灯が点灯しているとき（車間制御モード）
- ●クルーズコントロール表示灯が点灯しているとき（定速制御モード）
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●ACC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- ●ACC 警告灯が消灯しているとき

- ブレーキペダルを踏んでいないとき（停車中を除く）
- シフトレバーが D のとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- 勾配が急な坂道でないとき
- パーキングブレーキ表示灯が消灯しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯しているとき

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。

加速後、車速が設定速度に戻ります。

ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車速設定後の減速について

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。

- このとき、全車速追従機能付 ACC は解除されます。
- 設定車速が“－－ km/h”と表示され、ACC SET 表示灯が消灯します。
- 設定車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、－ SET スイッチまたは＋ RES スイッチを押します。

■システムの自動解除

次のいずれかのとき、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。

全車速追従機能付 ACC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、－ SET スイッチ、または＋ RES スイッチを押して復帰させてください。条件が解消されても設定できないときは、全車速追従機能付 ACC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 車速が約 25km/h 未満で追従走行中に、先行車を見失ったとき
- 先行車を認識していない状態で、車速が約 25km/h 未満になったとき
- エンジン冷却水温が高過ぎるとき
- 停車保持が作動しているときに、次のいずれかの状態になったとき
  - 運転席ドアが開いたとき
  - 運転席シートベルトを外したとき
  - 全車速追従機能付 ACC により車両が停止したあと、約 3 分経過したとき
  - 先行車を見失ったとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSC または TRC が OFF になったとき
- スマートアシスト OFF スイッチを押してスマートアシストを OFF にしたとき
- ACC OFF 表示灯が点灯したとき
- スマートパノラマパーキングアシスト★を作動させたとき
- VSC または TRC が作動したとき
- パーキングブレーキ表示灯が点滅しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しているとき
- 次のいずれかのとき（このとき、＋ RES スイッチを押しても復帰できません）
  - 先行車を認識していない状態で、車速が設定車速を大きく下回ったとき
  - 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき
  - ACC 警告灯が点灯したとき
  - 勾配が急な坂道のとき
  - 衝突回避支援ブレーキ機能が作動したとき
  - ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動したとき

知識

■全車速追従機能付 ACC について

- 車間制御モードでは、先行車に合わせた車速で制御されるため、+ RES スイッチを押して、先行車の速度以上に設定車速を上げても加速しません。ただし、設定車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速は運転支援表示画面の表示を確認しながら変更してください。
- 車間制御モードを設定中にアクセルペダルを踏んでいるときは、車間制御モードによる接近警報を行わず、ブレーキもかけません。
  ただし、このときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能による警報や緊急ブレーキが作動することがあります。
- 通常、追従走行中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。ただし、車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。
- 定速走行中であっても、周囲の状況や車両の状態によっては、設定車速通りに走行できないことがあります。

■ブレーキ作動について

- ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えが変わったりすることがありますが、異常ではありません。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などでは設定車速を保つため、全車速追従機能付 ACC の制御によりブレーキが作動することがあります。

■カーブ走行中は

設定車速が車速より高いときであっても、加速しない、または減速することがあります。

■定速制御モードでシステムを ON にするとき

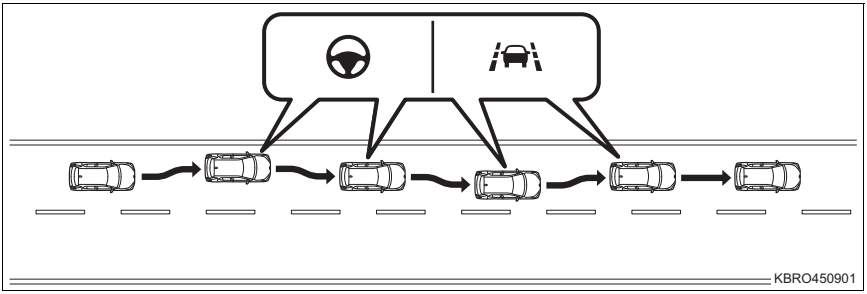
ACC メインスイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にするとき、スイッチを押した直後は、次の状態になり、その後クルーズコントロール表示灯が点灯し、ACC 表示灯および設定車間が消灯します。

- ACC 表示灯が点灯
- 設定車速が“－－ km/h”と表示される
- 設定車間が表示される

LKC（レーンキープコントロール）★

LKC は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、全車速追従機能付 ACC（→ P. 147）と連携して現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部をシステムが支援します。

- LKC 作動中は、メーター内の表示灯、ディスプレイの表示（→ P. 118）で運転者にお知らせします。
- 全車速追従機能付 ACC が作動していないときは、LKC は作動しません。
- 一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、メーターの表示により注意喚起が行われ、機能が解除されます。
- 高速道路や自動車専用道路で使用してください。



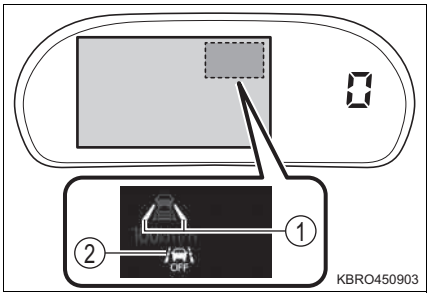
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LKC OFF 表示灯／車線認識表示灯

基本画面を切り替えると、表示位置が変わります。

①車線認識表示灯
左右の白（黄）線を認識しているとき点灯します。

②LKC OFF 表示灯
機能停止により、作動できないとき点灯します。



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- LKC を過信しないでください。LKC は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を LKC に頼っていると、事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩を取ってください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

■LKC を使用してはいけない状況

次の状況では、LKC スイッチを押して LKC を OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 工事区間を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリーを取り付けているとき

■LKC が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、LKC が適切に作動しないことがあります。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
  - 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
  - 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
  - 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
  - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
  - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
  - 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき

⚠ 警告

- 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 急なカーブのある道路を走行するとき
- 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
- ガードレールの影などがあるとき
- 区画線が二重に描かれているとき
- 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
- フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ステレオカメラが高温になったとき

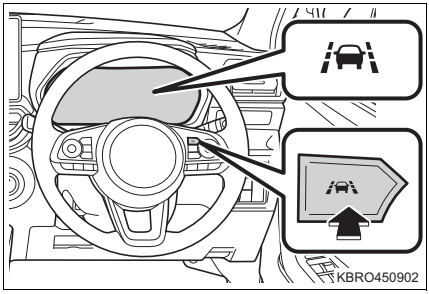
●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイや置き石などがあるとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
●照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
●横風を受けているとき
●周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
●車線変更をした直後
●冬用タイヤなどを装着しているとき
●過度な高速走行をしているとき
●隣車線から車が割り込んできたとき
●路肩に縁石や側壁があるとき
●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
●車線以外の線が路面に描かれているとき

設定のしかた・解除のしかた

■ 設定のしかた

ACCメインスイッチを押して車間制御モードでシステムをONにしているとき、LKCスイッチを押す

LKC 表示灯が点灯します。



車線中央付近を走行中に作動条件（→ P. 161）をすべて満たすと LKC が作動します。
ハンドル操作が支援されているときは、LKC 表示灯、ハンドル操作支援作動灯（→ P. 158）が点灯します。

■ 解除のしかた

LKC を OFF にするには再度 LKC スイッチを押します。
LKC 表示灯が消灯します。

知識

■LKC の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ●車速が約 60km/h 以上のとき
- ●全車速追従機能付 ACC が車間制御モードで作動していて、設定車速が 60km/h 以上のとき
- ●LKC 表示灯が点灯しているとき
- ●ABS、VSC、TRC が作動していないとき
- ●衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- ●ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動していないとき
- ●車線逸脱抑制制御機能が作動していないとき
- ●車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●LKC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ●機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- ●LKC 警告灯が消灯しているとき
- ●方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 1 秒間は作動しません）
- ●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 60）で「ステアリングアシスト」を「ON」にしているとき
- ●ブレーキペダルを踏んでいないとき
- ●一定以上の加減速がないとき
- ●シフトレバーが D のとき
- ●急なハンドル操作をしていないとき
- ●車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ●直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ●システムが左右の白（黄）線を認識しているとき
- ●走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき
- ●手放し運転に対する注意喚起（→ P. 162）が行われていないとき
- ●車線中央付近を走行しているとき

■システムの一時中断

次のいずれかのとき、自動的に LKC が一時的に中断されます。LKC が一時的に中断されたときは、中断されたときの条件が解消されると自動的に復帰します。条件が解消されても復帰できないときは、スマートアシストの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- ●車速が約 60km/h 未満になったとき
- ●全車速追従機能付 ACC の車間制御モードの設定車速が 60km/h 未満になったとき
- ●LKC OFF 表示灯が点灯したとき
- ●機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき
- ●方向指示レバーを操作したとき
- ●ブレーキペダルを踏み、全車速追従機能付 ACC が解除されたとき
- ●シフトレバーを D 以外にし、全車速追従機能付 ACC が解除されたとき
- ●急なハンドル操作をしたとき
- ●左右いずれかの白（黄）線を認識できなくなったとき

●走行している車線の幅が約 3m 未満、または約 4m 以上になったとき
●自車が車線をまたいだとき
●急なカーブのある道路を走行したとき

■システムの自動解除
次のいずれかのとき、自動的に LKC が解除されます。LKC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再度設定操作を行ってください。条件が解消されても設定できないときは、LKC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●ACC メインスイッチを押してシステムを OFF にしたとき
●スマートアシスト OFF スイッチを押して車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能、車線逸脱抑制制御機能、LKC を OFF にしたとき
●VSC または TRC が OFF になったとき
●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 60）で「ステアリングアシスト」を「OFF」にしたとき
●LKC 警告灯が点灯したとき
●手放し運転に対する注意喚起（→ P. 162）が行われてもハンドルを握って操作しなかったとき
●ABS、VSC、TRC が作動したとき
●衝突回避支援ブレーキ機能が作動したとき
●ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動したとき

■LKC について
●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、LKC の作動を感じなかったり、LKC が作動しなかったりすることがあります。
●LKC によるハンドル操作支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
●LKC が作動しているときに、手放し運転をしていて走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき、ブザーが鳴り、車線認識表示灯の両側、および車線逸脱警報作動灯が点滅します。
●LKC が作動しているときに、左右の車線に偏る場合は、システムを停止しダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■手放し運転に対する注意喚起について
次の状況では、手放し運転警告灯（→ P. 247）が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにハンドル保持を促すメッセージが表示され注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●LKC 表示灯が点灯しているときに、手放し運転をしているとシステムが判断したとき
・さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。
・そこからさらに操作しない状態が続くと LKC が解除されます。
・運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。
●車線逸脱抑制制御機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操作支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき（→ P. 141）

■カスタマイズ機能
LKC を非作動にすることができます。（→ P. 60）

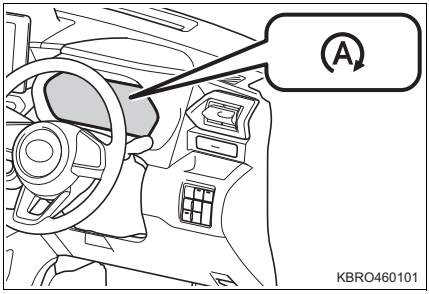
アイドリングストップシステム（eco IDLE）★

赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 9km/h）または停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。
オートブレーキホールド機能★（→ P. 100）作動時も、eco IDLE は作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンが停止する

1 シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯する（→ P. 164）



2 ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前または停車後にエンジンが自動的に停止する

eco IDLE 表示灯は点灯したままです。オートブレーキホールド機能★が ON のときは、停車後ブレーキが保持され、オートブレーキホールド作動表示灯が点灯します。

エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

オートブレーキホールド機能★が ON で停止した場合は、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

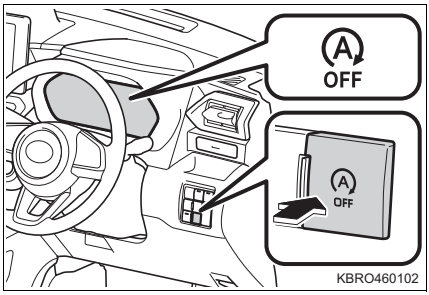
eco IDLE 表示灯とオートブレーキホールド作動表示灯★が消灯します。

eco IDLE を非作動にするには

eco IDLE を非作動にするには eco IDLE OFF スイッチを押す

eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、作動可能状態に戻り、eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。



■ eco IDLE OFF スイッチを押したとき

- eco IDLE によるエンジン停止中、eco IDLE OFF スイッチを押すとエンジンが再始動します。
- eco IDLE が非作動のとき、再度 eco IDLE OFF スイッチを押すと、eco IDLE が作動可能状態に戻りますが、エンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに（eco IDLE が作動可能状態に戻る）、eco IDLE によって、エンジンが停止します。

ヒルスタートシステム

eco IDLE によって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでの間、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■eco IDLE の作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、eco IDLE 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき
  （eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- エンジンが十分温まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
- エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
  （走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません）
- バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 外気温が約 0 ℃以上のとき（メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります）
- シフトレバーが D のとき
- スマートパノラマパーキングアシストが作動していないとき
  （スマートパノラマパーキングアシスト装着車）
-

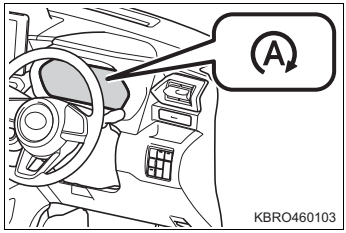
  が OFF のとき（オートエアコン装着車）
- 室内補助ヒーター★が作動していないとき
- 車内温度が快適なとき（マニュアルエアコンの室内補助ヒーター装着車の冷房時、オートエアコン装着車の冷房時）
- システム（eco IDLE・エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・エアコン・パワーステアリング・車両通信）が正常なとき

●次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。

- バッテリーが放電しているとき
- バッテリー交換などにより、バッテリー端子を外したあと
- 冷房初期（オートエアコン装着車）
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイでアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき（→ P. 61）

■eco IDLE 表示灯について

走行中にeco IDLEの作動条件がすべて満たされると、eco IDLE 表示灯が点灯し、停止時に eco IDLE が作動可能状態であることをお知らせします。



■停車前のエンジン停止条件

●eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車前にエンジン停止します。

- 車速が約 9km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- 車幅灯が消灯しているとき
- フロントワイパーが作動していないとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSC が作動していないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- 全車速追従機能付 ACC が作動していないとき（全車速追従機能付 ACC 装着車）
- ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき

●次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ゆるやかに減速しているとき

■停車後のエンジン停止条件

●eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車後にエンジン停止します。

- 停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき（全車速追従機能付 ACC により停止したときを除く（全車速追従機能付 ACC 装着車））
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

●次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道で停車したとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■エンジン停止中の操作について

●右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。

- ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
- ハンドル操作をする
- eco IDLE OFF スイッチを押す（→ P. 163）

●エンジン停止中にシフトレバーを D から N、または S・M にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフトレバーを N にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。

●給油時はシフトレバーを P にし、エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止します。

■エンジンの再始動について

●エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。

- ブレーキペダルから足を離したとき（オートブレーキホールド機能★による停車中は除く）
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- ハンドル操作をしたとき
- シフトレバーを R・P にしたとき
- シフトレバーを N にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
- eco IDLE OFF スイッチを押したとき
- スマートパノラマパーキングアシストを起動したとき（スマートパノラマパーキングアシスト装着車）
- パーキングブレーキを解除したとき（電動パーキングブレーキ装着車）
- 全車速追従機能付 ACC 作動中の eco IDLE によるエンジン停止時に＋ RES スイッチを押す、または先行車が発進したとき（全車速追従機能付 ACC 装着車）
-

を押したとき（オートエアコン装着車）
- 運転席ドアを開けたとき
- 運転席シートベルトを外したとき

知識

●エンジン停止中、次のいずれかのときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（eco IDLE 表示灯は点滅後、消灯します）

- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- 傾斜などで車両が動き出したとき
- 停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき
- 警告灯が点灯（→ P. 243）、警告メッセージ★（→ P. 249）が表示されるなど、各システム（エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・TRC・エアコン・パワーステアリング・スマートパノラマパーキングアシスト★）に異常が発生したとき
- 冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（マニュアルエアコンの室内補助ヒーター装着車、オートエアコン装着車）
- 室内補助ヒーター★が作動したとき
- エンジン停止してから約 3 分経過したとき

●エンジン停止中に eco IDLE システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 257）が表示され、エンジンが自動的に再始動します。

●次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。

- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
- 電装品などの消費電力が大きいとき
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイでアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき（→ P. 61）

●オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。

●エンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■eco IDLE の自動再開

eco IDLE を eco IDLE OFF スイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、eco IDLE は自動的に作動可能状態に戻ります。

■ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。
エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■ヒルスタートシステムについて

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルの踏み応えが変わる
- ブレーキペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する

■オートブレーキホールド機能★作動時の eco IDLE の作動について

eco IDLE によりエンジンが自動的に再始動してもオートブレーキホールド機能によるブレーキ保持は継続します。

■eco IDLE について

eco IDLE は赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■警告ブザーについて

eco IDLE によるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に eco IDLE 表示灯が高速で点滅、および警告メッセージ★（→ P. 249）が表示されます。

●運転席ドアが開いたとき

●運転席シートベルトを外したとき

●ボンネットが開いたとき※

※ ボンネットが開いたときは、警告メッセージ★が表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 257）が表示されたままのときは
スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン始動中に eco IDLE OFF 表示灯が数秒間点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 257）が数秒間表示されたときは
バッテリーの交換時期です。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン停止中のエアコンについて
- エンジン停止中はエアコン（冷房、除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。
- AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。（オートエアコン装着車）

■ エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき
ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。

マニュアルエアコン装着車は A/C を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を に切り替える、

オートエアコン装着車は FRONT を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、eco IDLE OFF スイッチを押し、eco IDLE を非作動にしてください。

■ バッテリーを交換するとき
→ P. 298

■ eco IDLE を正常に作動させるために
- 次のようなときは eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  - 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅する、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★（→ P. 261）が表示されたとき
  - 運転席シートベルトを外しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しない、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★（→ P. 261）が表示されないとき

  ▶ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車
  - 運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
  - 運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

  ▶ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車
  - 運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイに「ドアが開いています」の警告メッセージ★（→ P. 260）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
  - 運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイに「ドアが開いています」の警告メッセージ★（→ P. 260）が表示されない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき
- バッテリーの端子から電化製品の電源を取らないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

⚠ 警告

■eco IDLE が作動しているとき

- eco IDLE によるエンジン停止中（eco IDLE 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（オートブレーキホールド機能★による停車中と全車速追従機能付 ACC★の停車保持中は除く）
  エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン停止中はお車から離れないでください。（eco IDLE 表示灯が点灯している間）
  次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - ブレーキペダルから足を離す（オートブレーキホールド機能による停車中と全車速追従機能付 ACC★の停車保持中は除く）
  - 運転席ドアを開ける
  - 運転席シートベルトを外す
- エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■ヒルスタートシステムについて

- ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめるとお車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときにお車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、ただちに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、お車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、お車が後退することがあります。
  車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していてもお車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターの概要

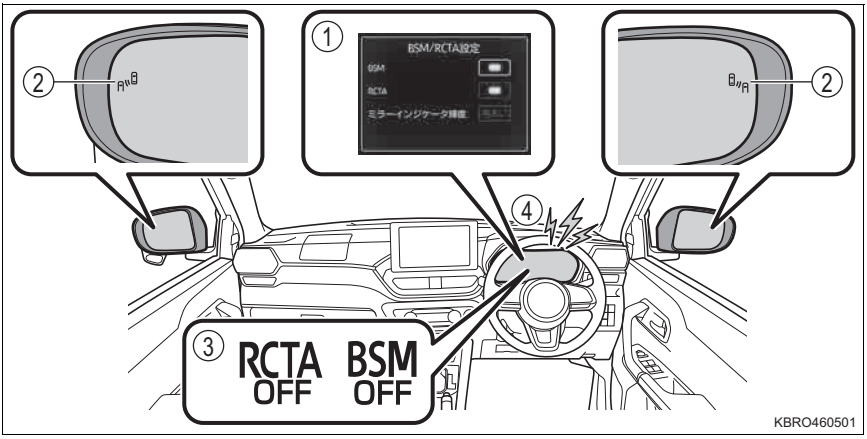
ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

●BSM（ブラインドスポットモニター）機能
　運転者による車線変更時の判断を支援します。

●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
　後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ
BSM 機能または RCTA 機能の ON ／ OFF を切り替えます。

② ドアミラーインジケーター
ドアミラーに取り付けられています。後方からの接近車両を検知すると点灯または点滅します。
BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。
RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ BSM OFF 表示灯／ RCTA OFF 表示灯
BSM 機能を OFF にすると、BSM OFF 表示灯が点灯します。
RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。

④ ブザー
BSM ブザー：
車両を検知した側に方向指示レバーを操作した場合、ブザーが鳴ります。
RCTA ブザー：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

■ BSM 機能を安全にお使いいただくために
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

■ RCTA 機能を安全にお使いいただくために
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認を行う必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

設定のしかた

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの“設定”メニューから、BSM 機能／ RCTA 機能の ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。（→ P. 60）

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

●次のような場合は、ドアミラーインジケーターの点灯／点滅が見えにくいことがあります。

・ 強い日差しのもと
・ ドアミラーに氷や雪が付着しているとき

■ ブザーについて

●大音量のオーディオなど大きな音がする場合、ブザーが聞こえづらくなる場合があります。

■ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「BSM レーダー汚れ 現在使用できません」が表示されたとき

センサー周辺のリヤバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のリヤバンパーに氷・雪・泥などが付着している場合、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

■ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「BSM 機能低下 現在使用できません」が表示されたとき

極めて高温または低温の環境で使用した場合や、バッテリー<補機バッテリー>の電圧が規定より下がっているまたは上がっている場合にシステムの作動を一時的に停止します。長時間表示している場合は、ダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

■ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障 販売店で点検を受けてください」が表示されたとき

センサーの故障や位置、向きのずれなどが考えられます。ダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

BSM および RCTA の設定を変更することができます。（→ P. 60）

■ レーダーセンサーの取り扱いについて

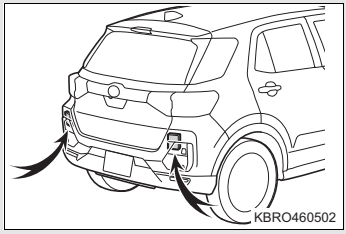
レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内で使用してください。

⚠ 警告

■ レーダーセンサーの取り扱い

●BSMのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。

システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておいてください。

センサー周辺のリヤバンパーに雨、雪、氷、汚れなどが付着している場合、警告表示（→ P. 258）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、雨、雪、氷、汚れなどを落としたあと、BSM機能の作動条件（→ P. 171）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避けてください。

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

●次のような場合には、必ずダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

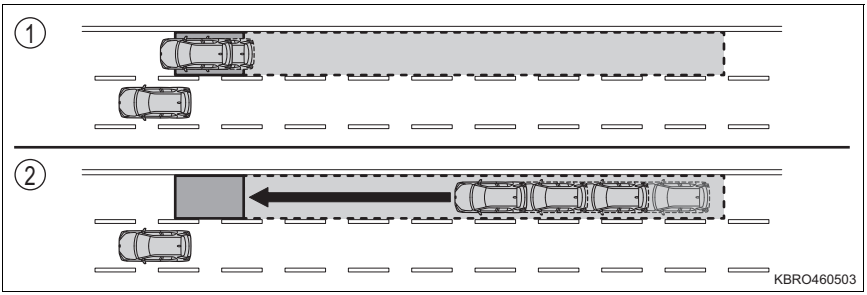
・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

⚠ 警告

- センサーを分解しないでください。
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼ったり、アクセサリー用品を取り付けたりしないでください。
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しないでください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはダイハツ設定色以外への変更は行わないでください。
- リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ダイハツサービス工場にご相談ください。

BSM 機能

BSM機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーインジケーターおよびブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

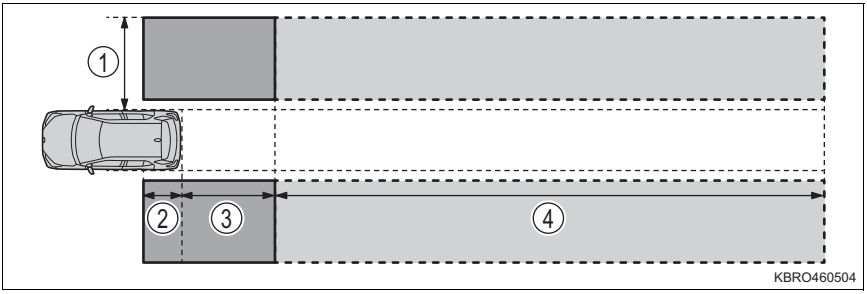


① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



① 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域
車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

② リヤバンパーから約 1m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域
自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 60）で「BSM」を「ON」にしているとき

●シフトレバーが R 以外のとき
●BSM OFF 表示灯が消灯しているとき
●車速が約 16km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき
●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としないことがあります。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など
●対向車
●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
●同じ車線を走行する後続車
●2 つ隣の車線を走行する他車
●自車が大きな速度差で追い越した車両
●隣車線後方の検知範囲にいても、自車に接近してこない車両（接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています。）
●レーダーの電波が反射しにくい形状の車両（車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど）

■BSM 機能が正しく作動しないおそれがある状況

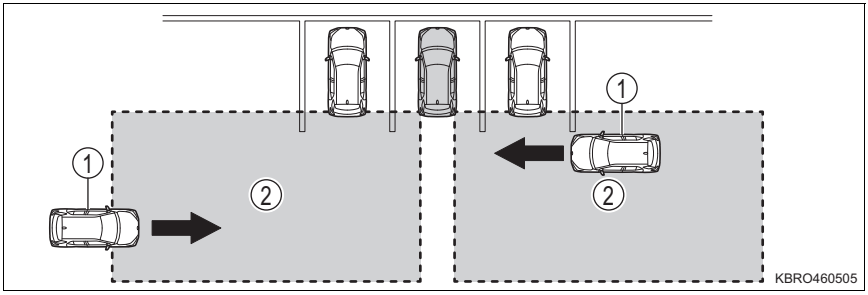
●BSM 機能は、次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大き過ぎるとき
- 自車と他車の速度差に変化があるとき
- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り、下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- 急なカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- 車線の幅が広い、または車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れ過ぎているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差があり過ぎるとき
- BSM 機能または RCTA 機能を ON にした直後
- シフトレバーを R 以外にした直後
- ラゲージルームに非常に重い荷物を載せているとき
- 車両が、2 車線隣の車線から隣車線に車線変更してきたとき

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 車線の幅が狭い、または車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- 急勾配の上り、下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- 急なカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- タイヤがスリップ（空転）しているとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 雨や雪を後方に巻き上げているとき

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

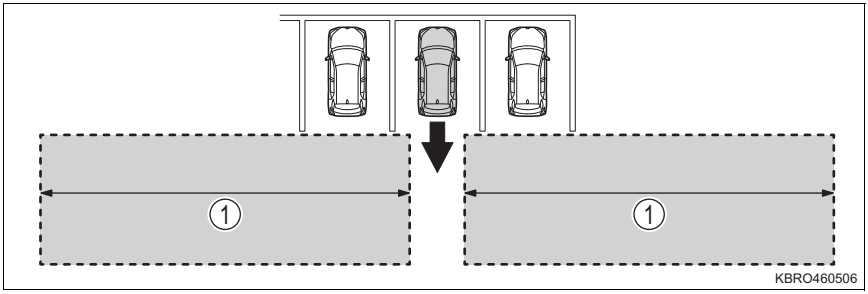


① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

接近車両の速度	① 警報距離（概算）
約 28km/h（速い）	約 20m
約 8km/h（遅い）	約 5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

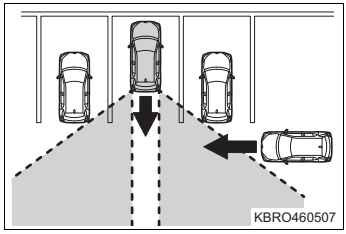
- TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 60）で「RCTA」を「ON」にしているとき
- シフトレバーが R のとき
- RCTA OFF 表示灯が消灯しているとき
- 自車の車速が約8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約8 ～ 28km/h の間のとき

■RCTA 機能が正しく作動しないおそれがある状況

RCTA機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としないことがあります。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両

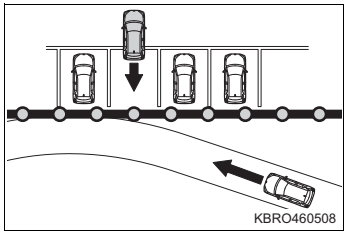


●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
●小型の二輪車・自転車・歩行者など
●自車から遠ざかる車両
●自車の隣の駐車スペースから接近する車両
●高速で接近する車両

■RCTA 機能が正しく作動しないおそれがある状況

●RCTA 機能は、次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきたとき
- 坂道や平滑でない道などに駐車しているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき
- 車両が斜めに駐車されているとき
- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動した直後
- 隣接した駐車車両にレーダーセンサーが装着されており、電波干渉を受けたとき
- 傾斜のある駐車スペースから出るとき
- 隣に大型車両が駐車しているとき
- 速い速度で後退しているとき

●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 自車の横を車両が通過するとき
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 後退している方向に建物や路壁などがあるとき

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

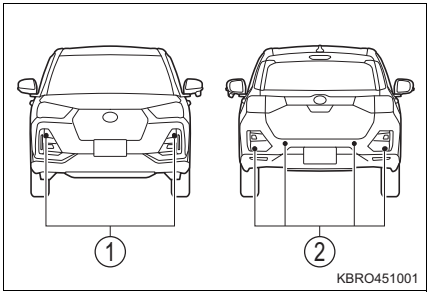
ソナーの位置・種類

① フロントソナー

フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー

リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

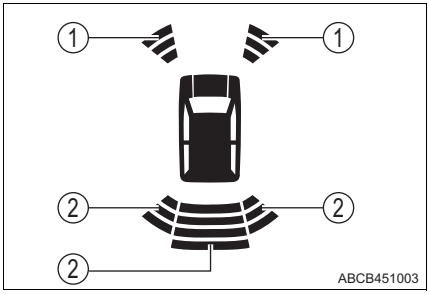


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



距離表示の見方

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせします。

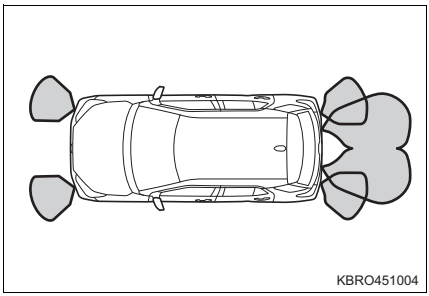
●障害物との距離が短くなると、ブザーおよびディスプレイの表示が次の表の通り変化します。

ブザー	ディスプレイの表示		ソナーと障害物との距離
	マルチインフォメーションディスプレイ装着車	TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車	
ピッ … ピッ … ピッ …（断続音）			約 150 ～ 60cm
ピッピッピッ …（断続音）			約 60 ～ 45cm
ピピピ …（断続音）			約 45 ～ 30cm
ピー（連続音）			約 30cm 以内

●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図の通りです。
ただし、障害物がソナーに近付き過ぎると認識できません。
障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。

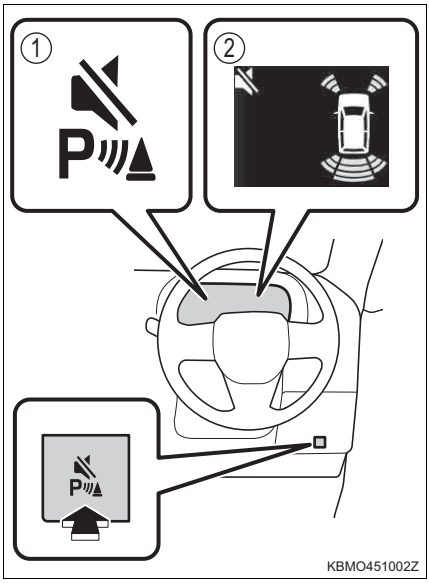


ブザーについて

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザーOFF スイッチを押すと、ブザーが止まります。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車はコーナーセンサーブザーOFF 表示灯が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はブザーOFF を示すアイコンが表示されます。

①TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車

②TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



知識

■作動条件

- フロントコーナーセンサー：
  - エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき
  - シフトレバーがP以外で、車両の速度が約10km/h以下のとき
- リヤコーナーセンサー：
  - エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ON”のとき
  - シフトレバーがRのとき
- 作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ブザーについて

コーナーセンサーブザー OFF スイッチでブザーを止めたあと、次の操作をすると再度ブザーが鳴るようになります。

- コーナーセンサーブザー OFF スイッチを押す
- シフトポジションを切り替える
- 一定以上の車速で走行する
- 一度エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にしてから“ON”にする

■ソナーの認識について

- ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付き過ぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方1か所表示されるか、前方2か所または後方2か所同時に表示されたときは※

- コーナーセンサーの機能が低下しています。

  コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。

知識

- マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、状態により「ソナーセンサー機能低下」、「ソナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

※ 前方 2 か所および後方 1 か所、前方 2 か所および後方 2 か所、後方 3 か所、または 5 か所同時に表示されたときも含みます。

■コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

⚠ 警告

■コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けないでください。
- TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「ソナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）

⚠ 警告

●勾配が急な坂道を走行しているとき

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
- 地面から高い位置に存在する障害物のとき
- 背の低い障害物のとき
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
- 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
- スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
- 障害物の面が車両に対して斜めのとき
- 地面に対して垂直でない壁のとき
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
- 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
- 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
- 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

⚠ 注意

■コーナーセンサーの異常について

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき

●事故などでソナー周辺が変形したとき

●スマートアシストに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→ P. 245, 272）

■洗車時の注意

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

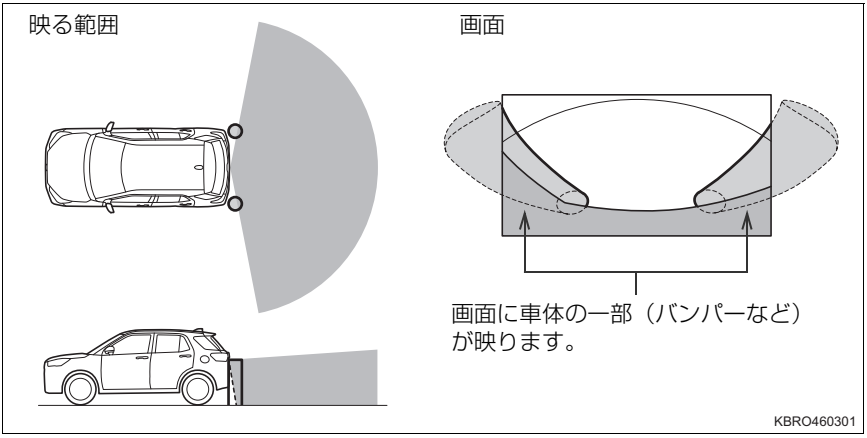
●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。
装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



●車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
●バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
●バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
●後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
●バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

⚠ 警告

■バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
●後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。

- 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
- タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
- バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない路面

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

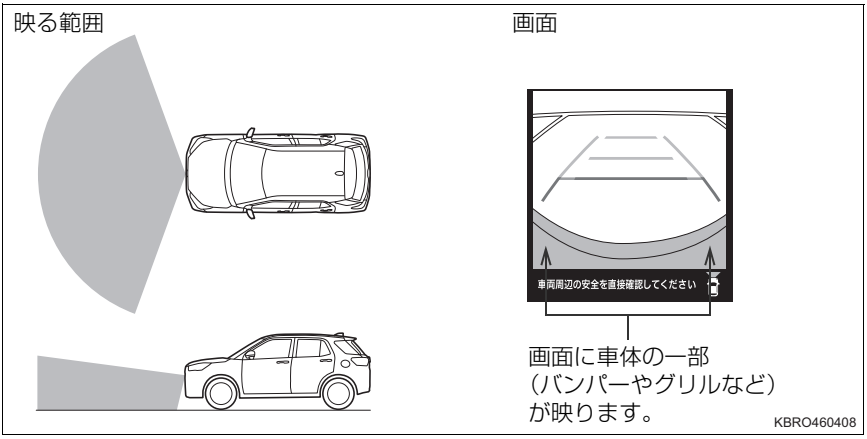
パノラマモニター★

パノラマモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。
画面を左右2分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。また、レフト & ライトサイドビューやレフトサイド & リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。
画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。(→ P. 181)
詳しくはディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。

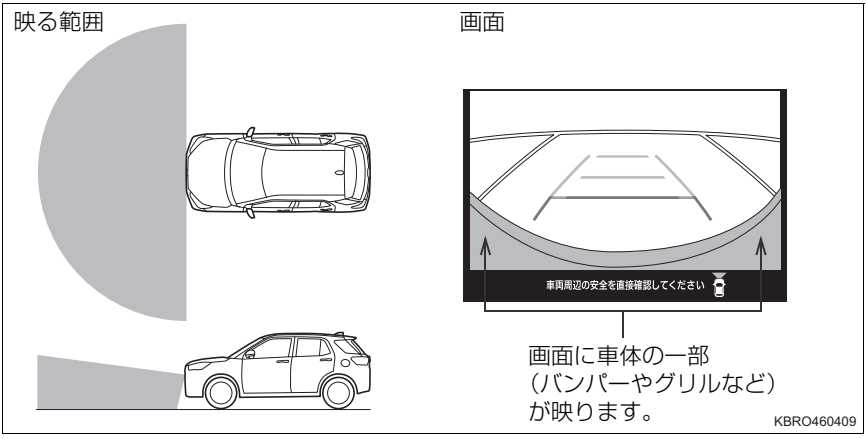
パノラマモニターの注意点について

■ 画面の映る範囲について

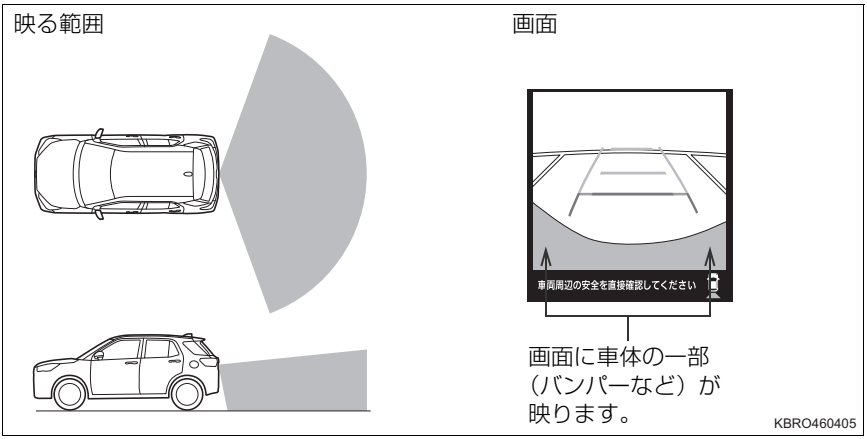
▶フロントビュー



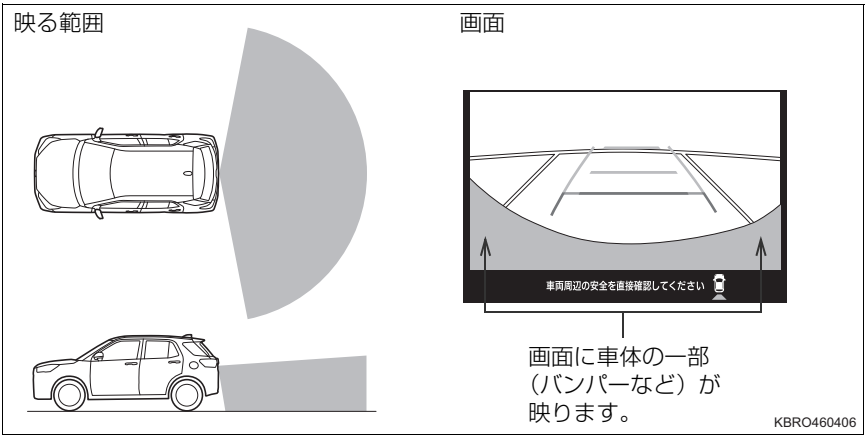
▶フロントワイドビュー



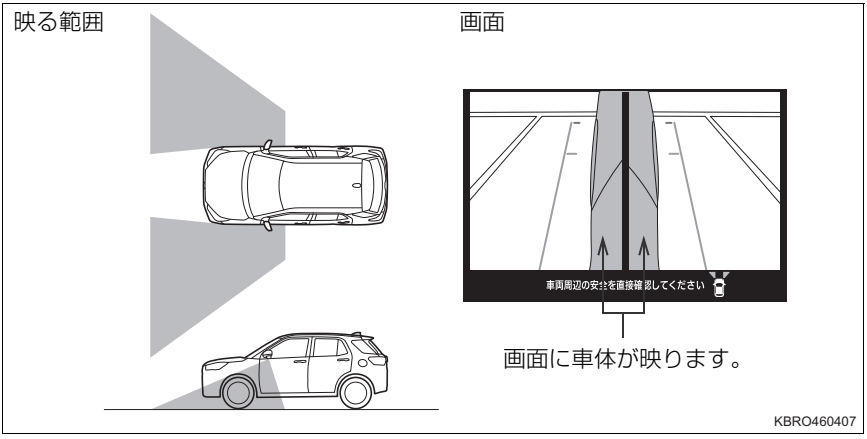
▶リヤビュー



▶リヤワイドビュー

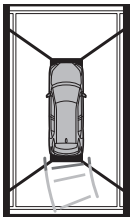


▶サイドビュー



▶トップビュー

画面



KBRO460410

●トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。

●乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。

●パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。

●カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

●パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。

⚠ 警告

■パノラマモニターについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パノラマモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。

●運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。

- 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
- タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
- フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
- 坂道など平坦でない路面
- ドアミラーを格納しているとき

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

スマートパノラマパーキングアシスト★

パノラマモニター★を用いて駐車を補助するシステムです。パノラマモニターの項目の内容も併せてお読みください。(→ P. 181)
ハンドルを自動で操作することにより、設定した目標駐車枠への駐車を補助します。(シフトレバー操作および前進・後退時の速度調整は自動で行いません)

- スマートパノラマパーキングアシストは駐車時のハンドル操作をアシストするものであり、自動駐車システムではありません。周囲の安全確認と、車両のシフトレバー操作、アクセルペダル、ブレーキペダル操作は運転者が行ってください。
- 設定した目標駐車枠に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車枠までの距離などにより、設定した目標駐車枠に到達できない場合があります。

⚠ 警告

■スマートパノラマパーキングアシストについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スマートパノラマパーキングアシストを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながらゆっくり前進、または後退してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムで停車を行いません。目標駐車枠、前進開始枠、後退開始枠では、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムで障害物検知を行いません。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムでシフトレバー操作を行いません。アシストを終了したあとは、必ず運転者自らお車を停止しシフトレバーをPにしてください。
- スマートパノラマパーキングアシストによるアシストが必要なくなったときは、カメラ/パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。システムが作動状態のままだと自動でハンドルが操作され、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 画面だけを見ながら前進、または後退することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあり、お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で前進、または後退してください。
- 駐車枠のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
  - ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。
  - 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ/パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。
  - 緊急時以外は自動で回転しているハンドルを握らないでください。
- 前進、または後退するときは、車速が出過ぎないよう注意しながらブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、ゆっくり前進、または後退してください。
- システムが目標駐車枠まで移動ができないと判断した場合、アシストを中止することがあります。運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ/パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車枠にお車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 障害物などがあり後退開始枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、シフトレバーで進行方向を切り替えてください。システムが経路の再計算を行います。
  - 周囲の状況によって、経路の再計算が行われず、「前進してください」、または「バックしてください」とガイダンスが行われるときは、カメラ/パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止してください。
- 障害物などがあり目標駐車枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んでお車を停止させ、カメラ/パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止し、運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

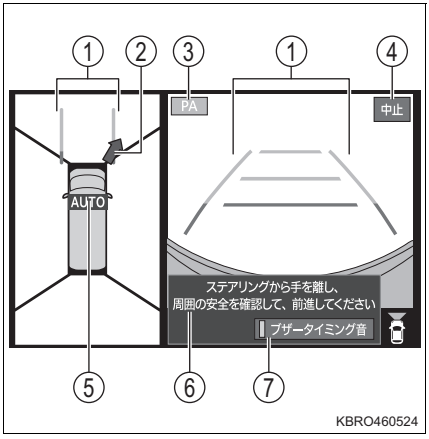
⚠ 警告

●次のような状況では使用しないでください。
- 人や車両などの通行量が多い場所
- 停車および駐車が禁止されている場所
- 車両が入らないほど狭い場所
- 駐車場以外の場所
- 駐車枠が斜めになっている場所
- 通路幅が狭い（約 4.0m 以下）場所
- 穴や溝などがあるような場所
- 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
- 急な勾配のある場所
- 砂地や砂利道などの整備されていない路面
- 雪や凍結などでスリップしやすい路面
- 機械式駐車場や駐車場所に障害物などがある場所
- ダイハツ純正品以外のタイヤを装着しているとき
- スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- けん引フックなどの車両の全長や幅が変化するものを取り付けているとき
- カメラが正常に取り付けられていないとき
- カメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- 画面に映し出されている映像が汚れや太陽光、影などで見にくいとき
- いずれかのドアが確実に閉まっていないとき
- ドアミラーを格納しているとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 周囲の車両が駐車枠からはみ出しているとき
- 駐車動作を行う範囲、駐車枠内、枠線上に障害物があるとき
- 車両を改造・架装したとき

●アシスト中にガイダンスが行われなくなったときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の［中止］を選択してアシストを中止し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■パノラマモニターについて
→ P. 183

アシスト画面について



① 予想進路線

② 進行方向アイコン
停止位置が画面上に表示されていないとき、その方向を示します。

③ PA アイコン
スマートパノラマパーキングアシストが作動しているとき表示されます。

④ 中止アイコン
選択すると、アシストを中止します。

⑤ AUTO アイコン
アシスト中であることを示します

⑥ ガイダンス
システムの作動状態、運転者への操作案内を表示します。表示内容に従って操作を行ってください。

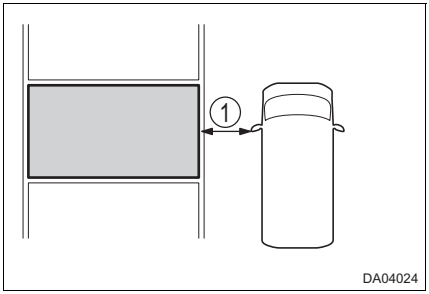
⑦ 停止位置接近ブザー切り替え
選択するごとに、停止位置接近ブザー（→ P. 199）を ON ／ OFF できます。

アシストを開始する

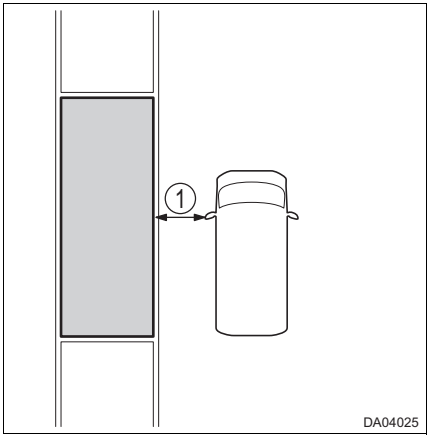
1 駐車枠から約 1m の間隔（①）をあけて、駐車枠の中央が真横に見える位置で並行に停車する

- 手順 4 が終わるまでは、ブレーキペダルを踏み続けてください。
- 画面は並列駐車を例として説明します。

▶並列駐車の場合



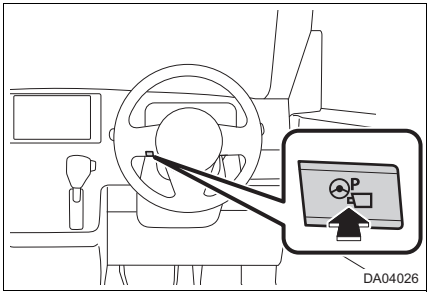
▶縦列駐車の場合



2 カメラ／パーキングアシストスイッチを約２秒以上長押しする

駐車枠が検知されると“駐車枠提案画面”が表示されます。

駐車枠を検知できない場合はアシストを中止します。手順 1 からやり直してください。



3 “駐車枠提案画面”に表示された駐車枠から、お好みの駐車枠で［はい］を選択する

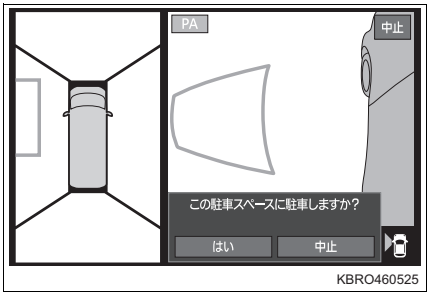
表示された駐車枠が車両を駐車できる十分な広さであり、駐車可能な場所であることを確認してください。

［別スペース］を選択すると、反対側の駐車枠が表示されます。

経路の計算が完了すると、“周囲状況確認画面”が表示されます。

選択した駐車枠により、駐車位置までの経路と前進・後退を繰り返す回数が変わります。

［中止］を選択すると、アシストを中止します。



▶縦列駐車のときは

［狭く］または［広く］を選択することで、駐車枠の大きさを調整することができます。

4 “周囲状況確認画面”に表示された青いエリア内に壁や障害物などがないことを確認して、［はい］を選択する

必ず直接確認してください。

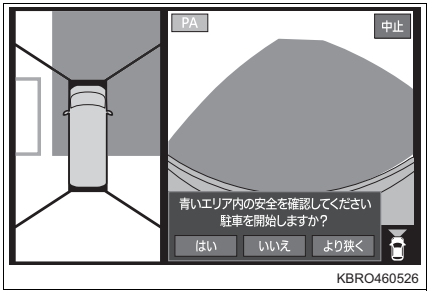
アシストが開始されると、ハンドルが自動的に回転します。［はい］、［いいえ］を選択する前に正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離してください。

- ハンドルは常に握れるようにしておいてください。

［いいえ］を選択すると、アシストを中止します。

▶並列駐車のときは

［より狭く］または［より広く］を選択することで、エリアの大きさを調整することができます。

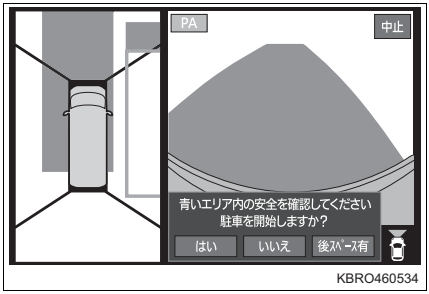


KBRO460526

▶縦列駐車のときは

［前スペース有］、［後スペース有］または［両スペース無］を選択することで、エリアを調整することができます。

［前スペース有］、［後スペース有］または［両スペース無］は、表示されないことがあります。



KBRO460534

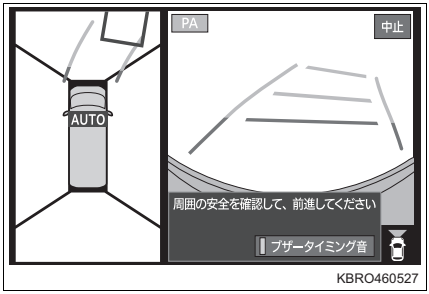
5 ガイダンスに従ってゆっくり前進する

正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離し、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、前進してください。

- 車速が約 6km/h を超えないようにしてください。

ハンドルは自動で動きます。

- ハンドルは常に握れるようにしておいてください。



KBRO460527

6 ガイダンスに従って、停止位置（後退開始枠内）で停止する

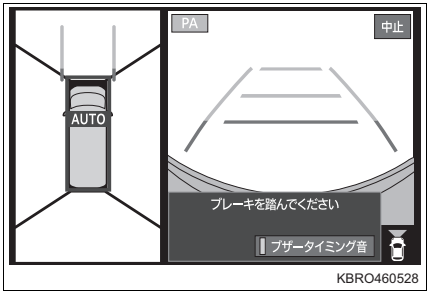
「ブレーキを踏んでください」とガイダンスが行われたら、ブレーキを踏んでください。

停止したとき、停止位置に近付く必要がある場合は、「前進してください」とガイダンスが行われます。

停止位置を通り過ぎたときは、アシストを中止します。

停止位置から離れたところで停止したまま、シフトレバーを D・S★・M★・B★以外にすると、経路の再計算が行われます。

- 経路の再計算が完了すると、アシストを継続します。
- 経路の再計算ができなかったときは、アシストを中止します。



KBRO460528

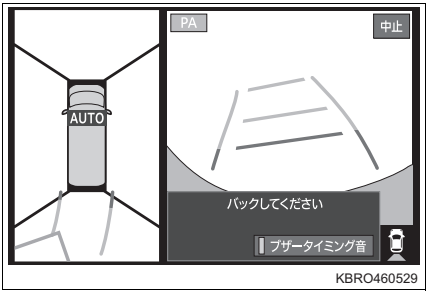
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

7「シフトをRに切り替えてください」とガイダンスが行われたら、シフトレバーをRにする
シフトレバーをRにしないまま約60秒経過すると、アシストを中止します。

8 ガイダンスに従って、ゆっくり後退する
正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離し、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、後退してください。

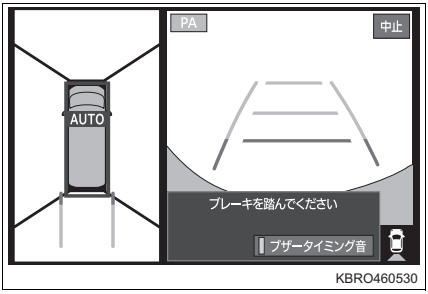
・車速が約6km/hを超えないようにしてください。ハンドルは自動で動きます。

・ハンドルは常に握れるようにしておいてください。目標駐車枠に一度で入りきらない場合は、手順 5 から 9 を繰り返す場合があります。



KBRO460529

9 ガイダンスに従って、停止位置（目標駐車枠内）で停止する
「ブレーキを踏んでください」とガイダンスが行われたら、ブレーキを踏んでください。
停止したとき、停止位置に近付く必要がある場合は、「バックしてください」とガイダンスが行われます。
お車が目標駐車枠内に入ると、アシストを終了します。
お車から降りるときは、シフトレバーがPであることを確認してください。



KBRO460530

スマートパノラマパーキングアシストが起動しない

次の状態のときは、スマートパノラマパーキングアシストが起動しません。

●車両が完全に停止していないとき
●装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムが起動中のとき
●「駐車支援機能が使えません」のメッセージが表示されているとき
●シフトレバーがD・S★・M★・B★以外のとき
●パーキングブレーキがかかっているとき
●ハンドルがまっすぐになっていないとき
●いずれかのドアが確実に閉まっていないとき
●ブレーキペダルを踏んでいないとき
●バッテリー＜補機バッテリー＞脱着直後

アシストを中止する

●駐車枠を検知しているとき（“駐車枠提案画面”表示中）、次のいずれかの状態になると、アシストを中止します。
・車両が動いたとき
・シフトレバーをD・S★・M★・B★以外にしたとき
・ハンドルを操作したとき
・画面の［中止］を選択したとき
・カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししたとき

●アシスト開始前（“周囲状況確認画面”表示中）、次のいずれかの状態になると、アシストを開始できず、アシストを中止します。
・車両が動いたとき
・シフトレバーをD・S★・M★・B★以外にしたとき
・ハンドルを操作したとき
・画面の［中止］を選択したとき
・カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

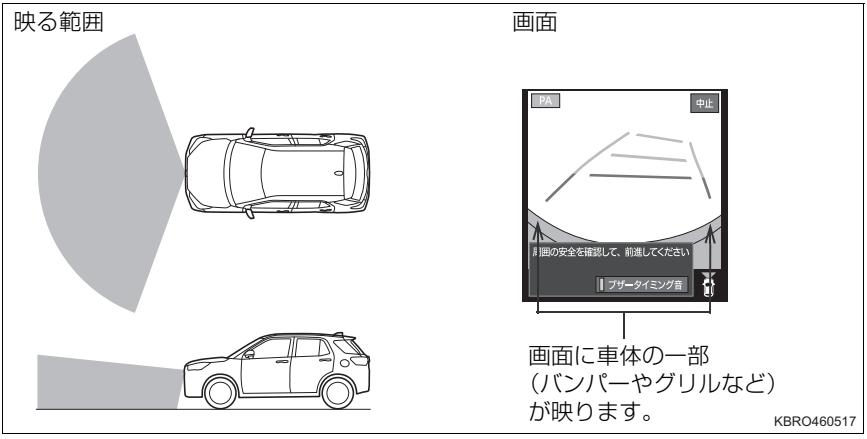
●アシスト中、次のいずれかの状態になると、アシストを中止します。

- 車速が約 6km/h を超えたとき
- 停止位置が大きくずれたとき
- 停止位置の手前での停車、または停止位置を通り過ぎての停車を繰り返したとき
- 前進しているときに、シフトレバーを D・S★・M★・B★以外にして車両が動いたとき
- 後退しているときに、シフトレバーを R 以外にして車両が動いたとき
- ハンドルを操作したとき
- 後退を 9 回以上繰り返したとき
- 画面の［中止］を選択したとき
- カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししたとき
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）、または衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）によってブレーキが作動したとき
- EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使用できなくなったとき
- 急発進、急停止などにより駐車経路を大きく逸脱したとき
- ハンドルを大きく切った状態で急発進・急停車したとき
- 経路の再計算中に車両が動いたとき
- 「シフトを D に切り替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを D・S★・M★・B★にしなかったとき
- 「シフトを R に切り替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを R にしなかったとき
- 「前進してください」、または「後退してください」とメッセージが表示されてから、約 30 秒間車両を動かさなかったとき
- アシスト開始時にブレーキ保持が解除されないとき

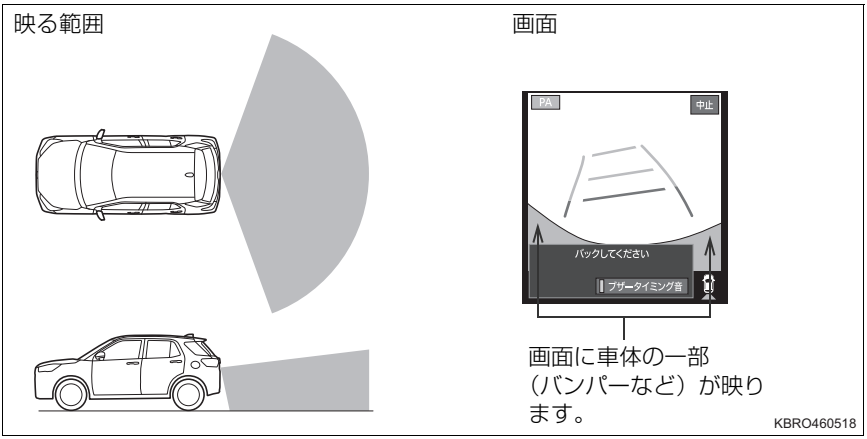
使用上の注意点について

■ 画面に映る範囲について

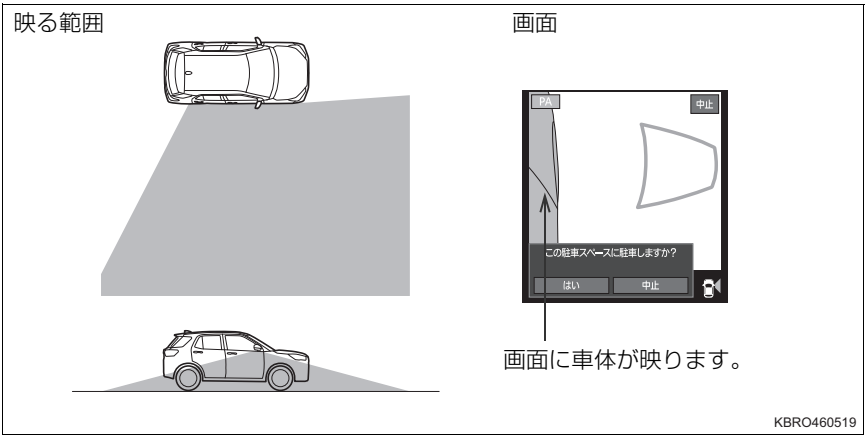
▶フロントビュー



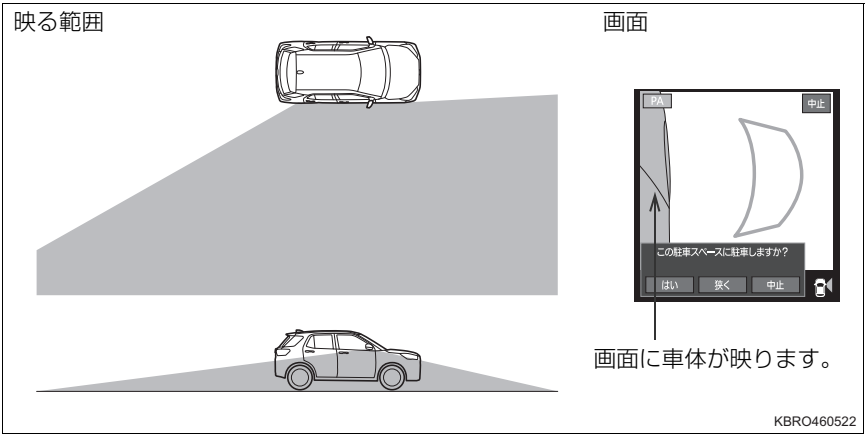
▶リヤビュー



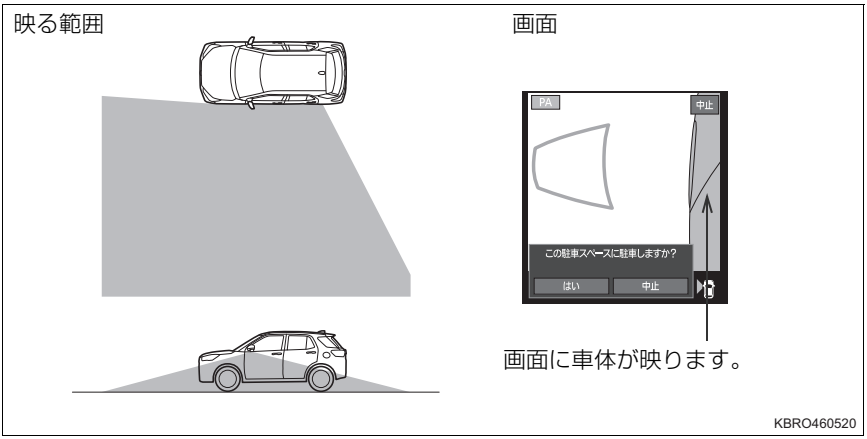
▶ライトサイドビュー（並列駐車時）



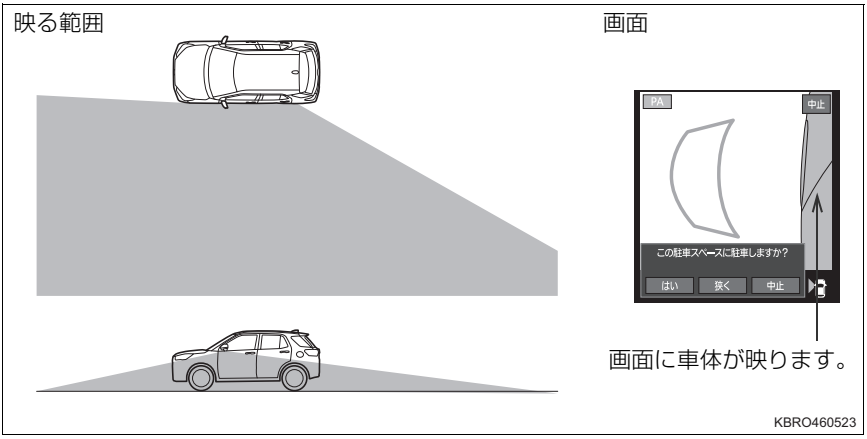
▶ライトサイドビュー（縦列駐車時）



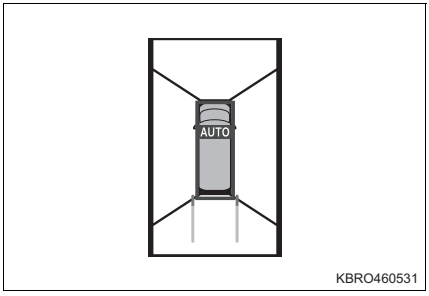
▶レフトサイドビュー（並列駐車時）



▶レフトサイドビュー（縦列駐車時）



▶トップビュー



●トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。

●乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。

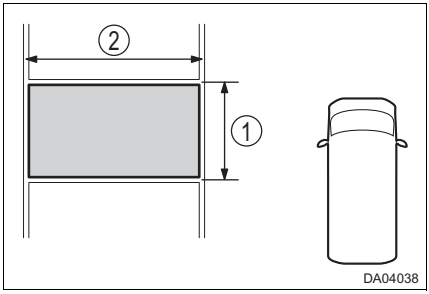
●パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。

●カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
●パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。

■ **並列駐車時の駐車枠について**

次のような駐車枠が標準的な対象駐車枠です。

●間口約 2.3m ～ 3.5m（①）の駐車枠
●奥行き約 5.0m ～ 6.0m（②）の駐車枠

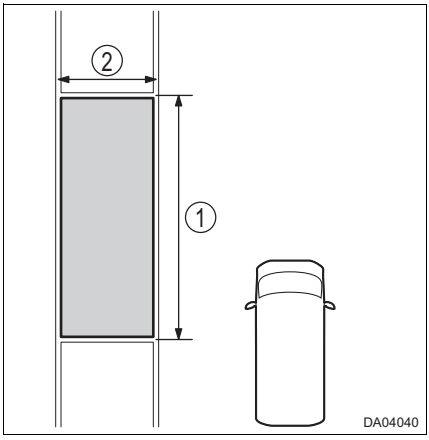


●長方形の駐車枠
●区画線の太さが約 15cm の駐車枠
●区画線が白色の駐車枠

■ **縦列駐車時の駐車枠について**

次のような駐車枠が標準的な対象駐車枠です。

●間口約 5.0m ～ 5.7m（①）の駐車枠
●奥行き約 2.0m（②）の駐車枠



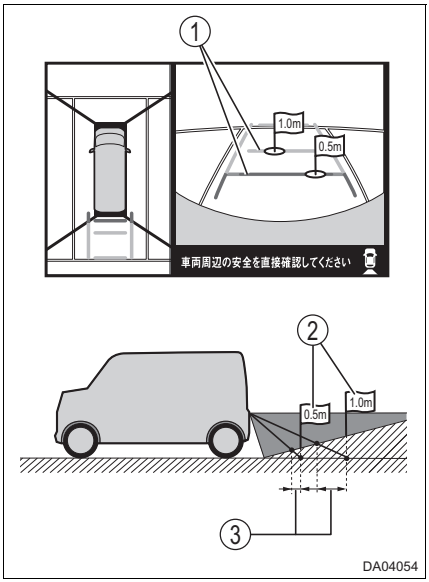
●長方形の駐車枠
●区画線の太さが約 15cm の駐車枠
●区画線が白色の駐車枠

■ **画面と実際の路面との誤差について（リヤビュー、リヤワイドビュー）**

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

●急な上り坂が後方にあるとき

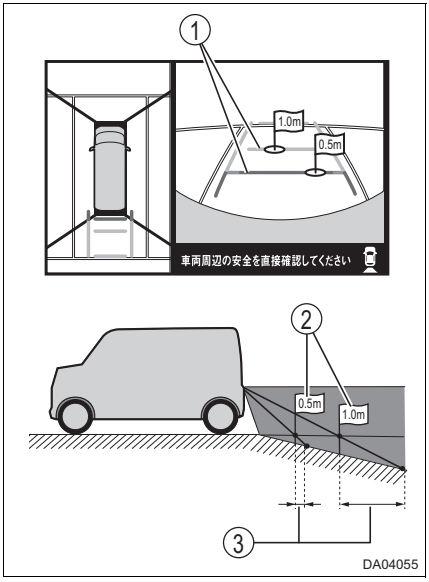
実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線
② 実際の距離
③ 誤差

●急な下り坂が後方にあるとき

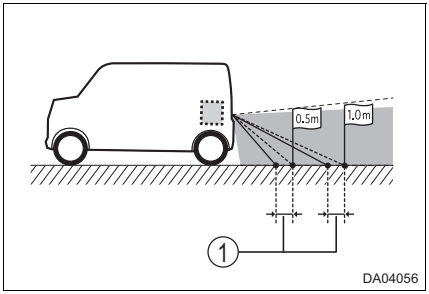
実際の距離より後ろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線
② 実際の距離
③ 誤差

●お車が傾いているとき

乗車人数、積載量などによりお車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。



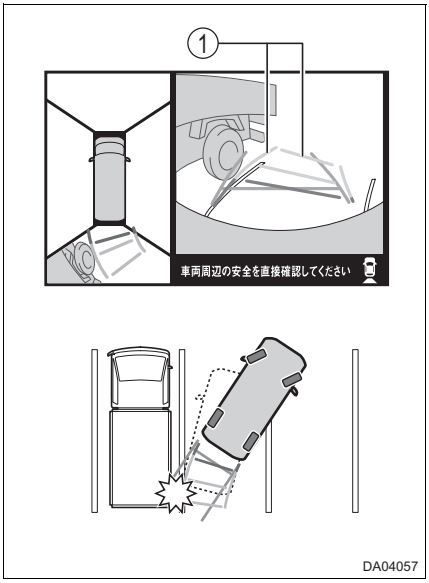
① 誤差

■ **立体物が近くにあるとき（フロントビュー、ワイドフロントビュー、リヤビュー、リヤワイドビュー）**

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことに注意してください。

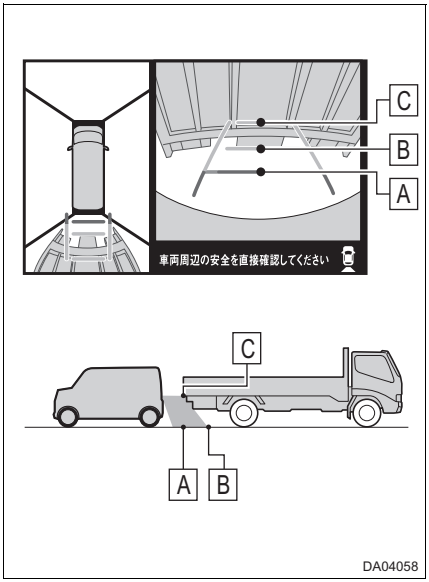
●予想進路線について

周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。



① 予想進路線

●距離目安線について



周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線より B の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には A の位置まで前進、または後退すると、ぶつかります。画面では A、B、C の順に近く見えますが、実際の距離は A と C は同じ距離で、B は A と C より遠い距離にあります。

メッセージについて

スマートパノラマパーキングアシストが起動できないときや、アシストを中止したときは、次のメッセージが表示されます。表示をもとに適切に対処してください。

ただし、同じメッセージが繰り返し表示される場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ **システム起動時**

メッセージ	状況・対処方法
駐車支援機能が使えません	システムが故障している **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
シフトを D に切り替えてください	シフトレバーが D・S★・M★・B★以外にある **→ シフトレバーを D（または S★・M★・B★）にして、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししてください。**
パーキングブレーキを解除してください	パーキングブレーキをかけたままにしている **→ パーキングブレーキを解除して、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒長押ししてください。**
停止してください	カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししているときに車両が動いている **→ 車両を完全に停車し、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししてください。**
ステアリングを真っ直ぐにしてください	ハンドルが大きく傾いている **→ ハンドルをまっすぐにし、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メッセージ	状況・対処方法
ドアを閉じてください	いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉め、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約２秒以上長押ししてください。**
ブレーキを強く踏んでください アシストを中止します	ブレーキペダルを踏んでいない **→ ブレーキペダルをしっかりと踏み、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約２秒以上長押ししてください。**

■ **駐車枠検知時**

メッセージ	状況・対処方法
車速を検知しました アシストを中止します	駐車枠検知中に車両が動いた **→ はじめからやり直してください。**
駐車スペースが見つかりませんでした 別の場所を探してください	駐車枠検知ができなかった **→ はじめからやり直してください。または、場所を変えてはじめからやり直してください。**
ステアリング操作を検知しました アシストを中止します	ハンドルを操作した **→ はじめからやり直してください。**
シフト操作を検知しました アシストを中止します	アシストを開始する前にシフトレバーを操作した **→ はじめからやり直してください。**
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	• カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しした • 画面の［中止］を選択した • “周囲状況確認画面”で［いいえ］を選択した **→ はじめからやり直してください。**

■ **アシスト開始時**

メッセージ	状況・対処方法
自動操舵ができません アシストを中止します	EPS（エレクトリックパワーステアリング）に異常が発生した（パワーステアリング警告灯（赤色）が点灯します） **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使えない状態にある（パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがあります） **→ 約10分ハンドル操作を控えてください。その後、はじめからやり直してください。**
	eco IDLE★によるエンジン停止から再始動できなかった **→ はじめからやり直してください。**
	ハンドルを握り続けている **→ ハンドルから手を離して、はじめからやり直してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メッセージ	状況・対処方法
駐車支援機能が使えません	システムが故障している **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
ブレーキを強く踏んでください アシストを中止します	ブレーキ保持が解除されなかった **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	• カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しした • 画面の［中止］を選択した **→ はじめからやり直してください。**
車速を検知しました アシストを中止します	「前進してください」のガイダンスが行われる前に車両が動いた **→ はじめからやり直してください。**

■ **アシスト中**

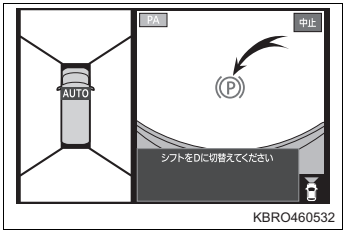
メッセージ	状況・対処方法
ステアリング操作を検知しました アシストを中止します	アシスト中に、ハンドルを操作した **→ はじめからやり直してください。**
駐車支援機能が使えません アシストを中止します	システムが故障している **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
進行方向が誤っています アシストを中止します	• 前進しているときに、シフトレバーを D・S★・M★・B★以外にして車両を動かした • 後退しているときに、シフトレバーを R 以外にして車両を動かした **→ はじめからやり直してください。**
速度超過を検知しました アシストを中止します	車速が約 6km/h を超えた **→ はじめからやり直してください。**
経路が引けませんでした アシストを中止します	経路の再計算ができなかったとき **→ はじめからやり直してください。**
停車位置を通り過ぎました アシストを中止します	停車位置を約 1.5m 以上通り過ぎた **→ はじめからやり直してください。**
車速を検知しました アシストを中止します	経路再計算中に車両が動いた **→ はじめからやり直してください。**
自動操舵ができません アシストを中止します	（急発進・急加速・急停止などにより）アシストによる経路を逸脱した **→ はじめからやり直してください。**

メッセージ	状況・対処方法
自動操舵ができません アシストを中止します	EPS（エレクトリックパワーステアリング）に異常が発生した（パワーステアリング警告灯（赤色）が点灯します） **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使えない状態にある（パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがあります） **→ 約10分ハンドル操作を控えてください。その後、はじめからやり直してください。**
	• ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）、または衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）によってブレーキが作動した • 後退を 9 回以上繰り返した **→ はじめからやり直してください。**
操作が検出されませんでした アシストを中止します	•「シフトを D に切り替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを D・S★・M★・B★にしなかった •「シフトを R に切り替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを R にしなかった •「前進してください」、または「バックしてください」とメッセージが表示されてから、約 30 秒間車両を動かさなかった **→ はじめからやり直してください。**
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	• カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しした • 画面の［中止］を選択した **→ はじめからやり直してください。**

知識

■ パーキングブレーキ未解除表示について

スマートパノラマパーキングアシスト作動中にパーキングブレーキをかけると、画面上にパーキングブレーキ未解除をお知らせする表示が行われます。



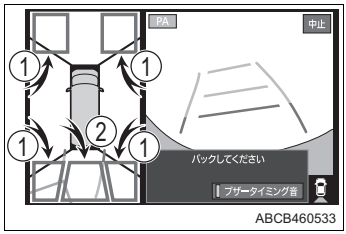
KBRO460532

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■コーナーセンサー表示について

●スマートパノラマパーキングアシスト作動中、コーナーセンサーの作動条件（→ P. 177）を満たしているときに、ソナーが障害物を認識すると、ブザーが鳴り画面上に認識している箇所が枠で表示され、コーナーセンサーの作動をお知らせします。



ABCB460533

・障害物との距離が短くなると、枠の色が次の表の通り変化します。

枠の色	ソナーと障害物の距離	
	①	②
緑色	—	約 150 ～ 60cm
緑色	約 60 ～ 45cm	
黄色	約 45 ～ 30cm	
赤色	約 30cm 以内	

●スマートパノラマパーキングアシスト作動中は、シフトレバーがP以外でリヤコーナーセンサーが作動します。

■ガイダンスについて

システムの作動状態、運転者への操作案内を画面の表示、音声でお知らせします。

●音声の音量は、調整することができます。詳しくは、装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

●状況によっては車両内外の騒音などにより、音声が聞こえない場合があります。

■停止位置接近ブザーについて

前進、または後退中、停止位置に近付くと、ブザーが鳴ります。

●画面の"ブザータイミング音"を選択するごとに、停止位置接近ブザーを ON ／ OFF できます。

■駐車枠の検知ができない駐車場

次のような駐車場では、駐車枠を検知しません。

●区画線が斜めの駐車場

●駐車枠がロープ、ブロックなどで作られている区画線がない駐車場

■駐車枠検知が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、路面の駐車枠を正しく検知することができない場合があります。

●自車が駐車枠に近過ぎる、または遠過ぎるとき

●自車が駐車枠に対して傾いて停車しているとき

●区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき

●路面と区画線のコントラストが低いとき

●区画線が白色以外のとき

・黄色やオレンジ色の区画線は、路面と区画線との色合いの違いにより駐車枠を検知することができないことがあります。

●駐車枠が極端に狭い、または広いとき

●区画線が極端に短いとき

●区画線が極端に細い、または太いとき

●駐車枠が傾斜していたり、途中に段差があるとき

●画面に表示したカメラ画像で区画線が 1 本しか見えないとき（並列駐車時）

知識

- 区画線が斜め線と接続されているなど、枝分かれして見えるとき
- 区画線に車両の影や木陰などがかかっているとき
- 片方の区画線の長さが他方の長さと大きく異なるとき
- 隣の車両や障害物などが区画線上にあるとき
- 駐車区画内に障害物があるとき
- 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）などで区画線がはっきりと映っていないとき
- 周囲に草が生い茂っているとき
- 太陽や電灯の強い光が路面に当たっているとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
- 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
- 画面上で、駐車枠内に模様があるように表示されているとき
- 駐車枠内に文字などが描かれているとき
- 石畳や緑化駐車場
- 路面上に積雪や融雪剤があるとき
- カメラが曇っていたり、雨粒、雪、霜や土ぼこりなどによる汚れが付着しているとき
- カメラが太陽光や対向車のヘッドランプなどの強い光を受けているとき
- カメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
- 区画線に見えるような光、建物などの映り込み、段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
- 区画線に駐車車両のサイドステップや、影が差しかかっているとき
- 路面補修痕や路面表示などがあるとき
- ポールなどの障害物があるとき
- 傾斜や勾配がついている駐車場
- 重い荷物を積んで車両が傾いているとき

■アシストが正常に作動しないおそれのある状況

- 「前進してください」、または「バックしてください」とガイダンスが行われる前にハンドルが自動で動くことがあります。このとき、車両を動かすと、設定した位置にアシストできなかったり、アシストを中止することがあります
- 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
  - 走行中にシフトレバーを切り替えたとき
  - 急発進、急停止、急なシフトレバー操作をしたとき
  - 摩耗しているタイヤを装着しているとき
  - 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
  - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
  - バッテリー＜補機バッテリー＞の放電量が多いとき
  - 強風や突風を受けたとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ CTA（コーナリングトレースアシスト）★

旋回時に、車両が外側にふくらんでいると検知したとき、ブレーキ制御を内輪に行うことで旋回性能を高め、コーナリングをアシストします。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ ダイナミックトルクコントロール 4WD★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などで滑りやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。

前・後輪に回転差が生じると電子制御カップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

◆ スマートアシスト

→ P. 114

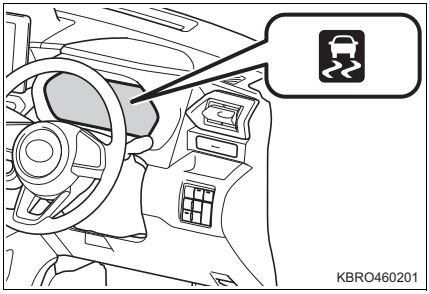
◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



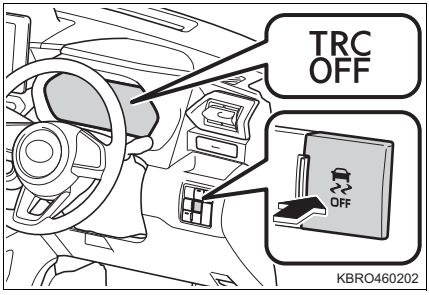
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジン<ハイブリッドシステム>の出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

再度 OFF を押すと、システム作動可能状態に戻ります。



知識

■ VSC と TRC を停止するには

VSC と TRC を停止するには、停車時に OFF を 3 秒以上長押ししてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

再度 OFF を押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ VSC や TRC の自動復帰について

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
  ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離を取ってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■ TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ CTA★の効果を発揮できないとき

CTA を過信しないでください。すべての走行状況に応じて効果を発揮するわけではありません。常に安全運転を心がけてください。

■ ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナル（→ P. 201）が作動しないことがあります。

■ VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ ダイナミックトルクコントロール 4WD について★

- このお車の 4WD（ダイナミックトルクコントロール 4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- 脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

  前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 308）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・ダイナミックトルクコントロール 4WD★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転

⚠ 警告

■ブレーキが凍結したとき

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- ●摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- ●空気圧を指定値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキ（ガソリン車）、または回生ブレーキ（ハイブリッド車）の使用は避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

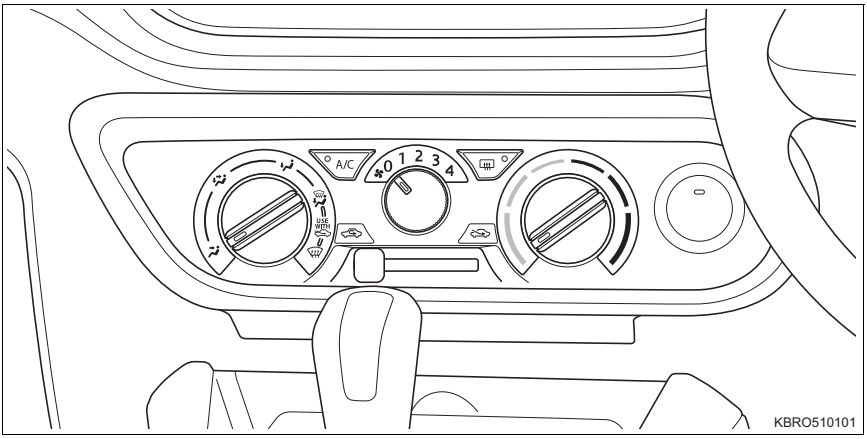
■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方
マニュアルエアコン …… 206
オートエアコン …… 207
シートヒーター …… 208
5-2. オーディオの使い方
ステアリングスイッチ …… 208
5-3. 収納装備
収納装備一覧 …… 209
ラゲージルーム内装備 …… 210
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 211
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）… 212
非常時給電システム …… 216

マニュアルエアコン★



その他の機能

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

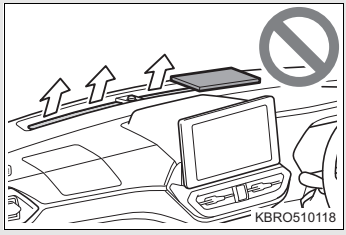
吹き出し口切り替えダイヤルを に回し、内外気切り替えレバーを に操作する

A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを または の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。

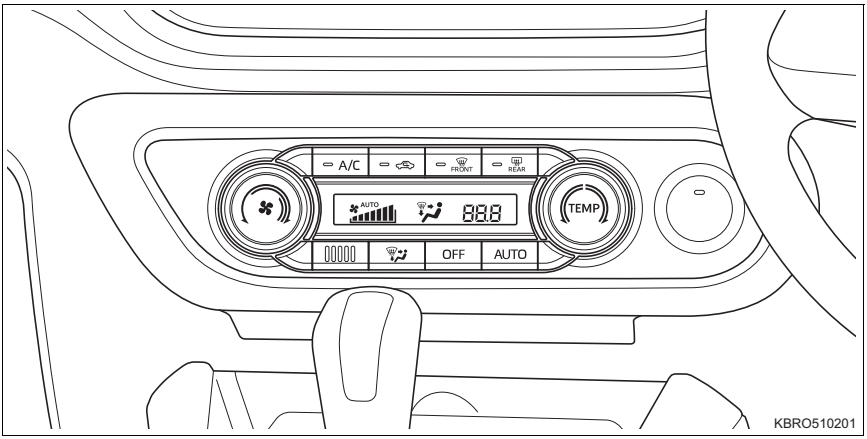


■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★作動中の警告
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

■ウインドシールドデアイサー★作動中の警告
フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン★



その他の機能

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

⬭ FRONT を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度 ⬭ FRONT を押すと、前のモードに戻ります。

知識

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

  その場合は ⬭ A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

- ⬭ A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

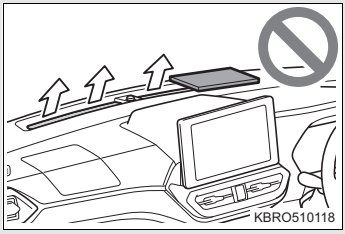
⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、⬭ FRONT を押さないでください。また、吹き出し口を に切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

⚠ 警告

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★作動中の警告
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

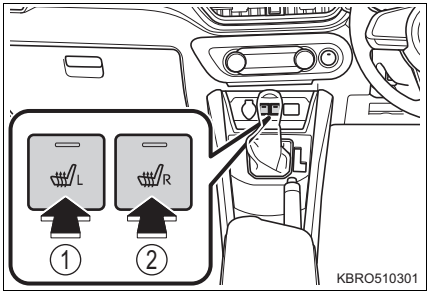
■ウインドシールドデアイサー★作動中の警告
フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

シートヒーター★

スイッチを押すと、シートヒーターが作動します。

①助手席を温める

②運転席を温める
シートヒーター作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。
再度押すと OFF になり、スイッチの作動表示灯が消灯します。



⚠ 警告

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

●異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
- 長時間連続で使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ★

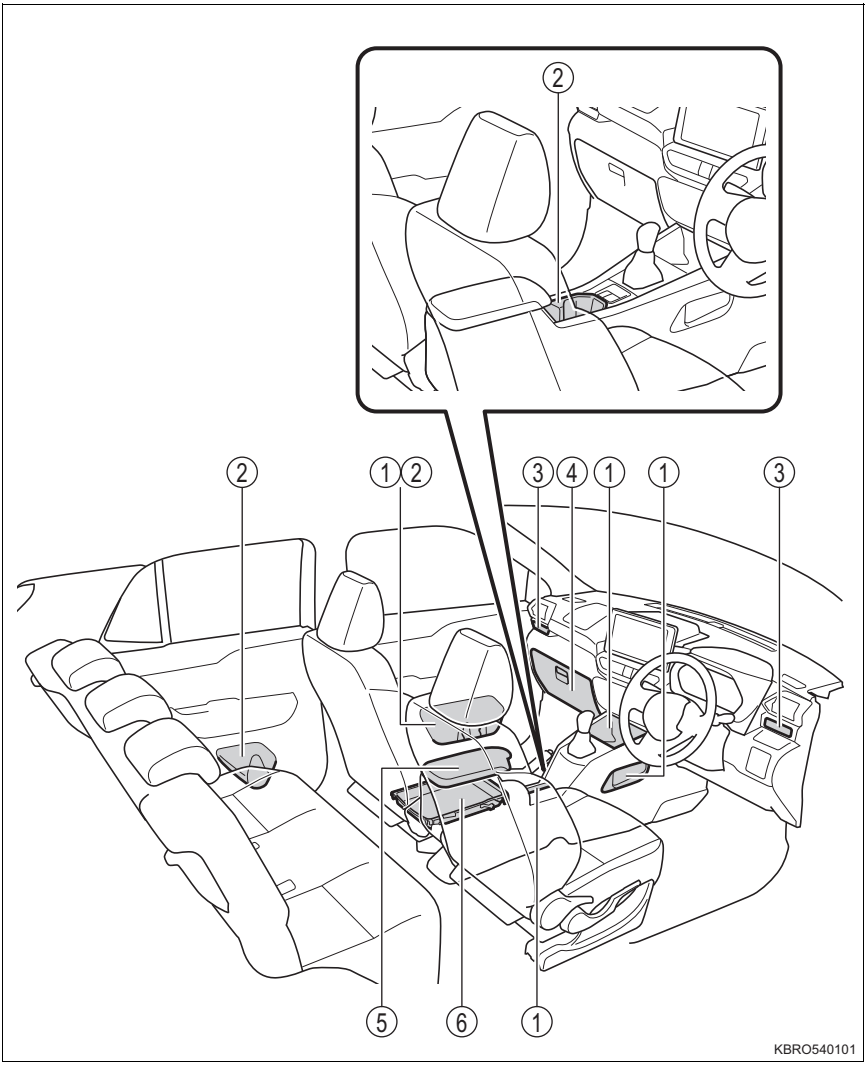
ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。
装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。
詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

■事故を防ぐために
運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



①オープントレイ（→ P. 210）
②ボトルホルダー（→ P. 210）
③カップホルダー（→ P. 210）
④グローブボックス
⑤コンソールボックス
⑥助手席シートアンダートレイ★

⚠ 警告

●メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスが漏れるなどして火災につながる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

●走行中にものを出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
●収納装備を使わないときは、ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

カップホルダー（運転席／助手席）／ボトルホルダー

⚠ 警告

●カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
●ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
●やけどを防ぐために、カップホルダー・ボトルホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。
●運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●カップホルダーを使わないときは、必ずもとに戻しておいてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

オープントレイ

⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

デッキボード

⚠ 警告

■デッキボードを操作するときは
荷物を載せた状態で操作しないでください。
指を挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

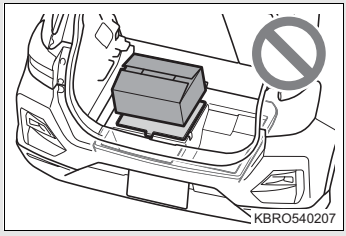
■走行中の警告
デッキボードを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

デッキアンダートレイ（ハイブリッド車）

⚠ 警告

■デッキアンダートレイに物を置くときは

バッテリーカバーの下に補機バッテリーがあるため、バッテリーカバーの上に物を置かないでください。万一、バッテリーカバーおよび補機バッテリーが破損した場合、バッテリー液が漏れて、目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。



デッキフック

⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置に戻してください。

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備

サンバイザー

⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- サンバイザーのチケットホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- 走行中はバニティミラーを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

USB ソケット（充電用）

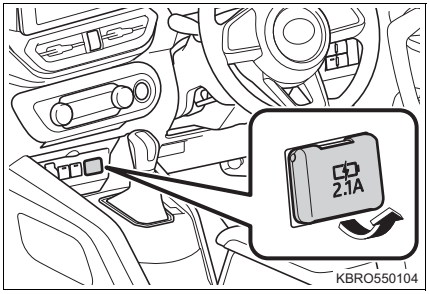
最大消費電力 10.5W（DC5V/2.1A）以下の電源として使用してください。

充電専用でありデータ転送などは行えません。

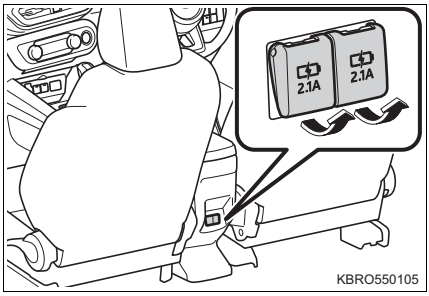
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。お使いになる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

1 ふたを開ける

▶フロント★



▶リヤ



2 ケーブルをソケットの向きに合わせてしっかり奥まで差し込む
機器やケーブルは、運転の妨げにならない場所に固定してください。

3 使用後は必ずケーブルを抜く
ふたが閉まっていることを確認してください。

⚠ 警告

- USB ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

USB ソケット（通信用）★／ HDMI 端子★※

※ “HDMI” は HDMI Licensing Administrator,Inc の登録商標です。

⚠ 警告

- USB ソケット、HDMI 端子に指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

格納式アシストグリップ

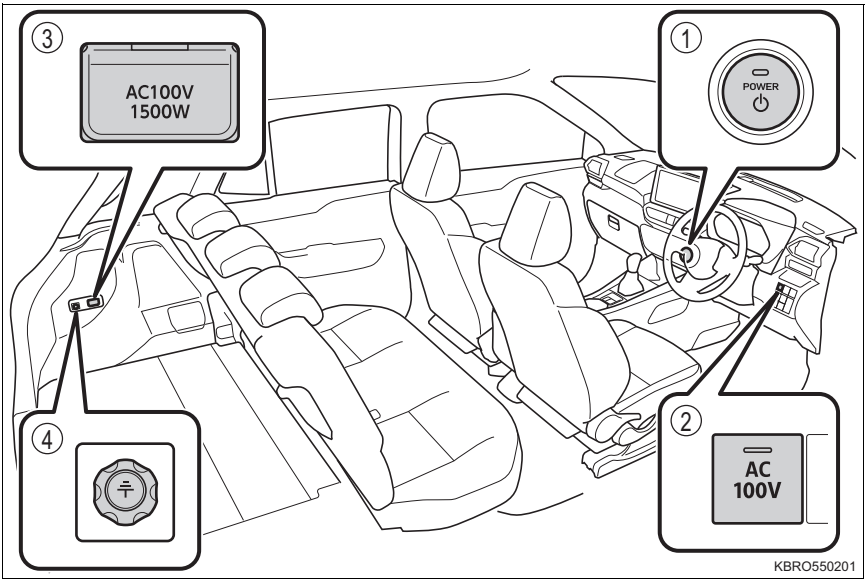
⚠ 警告

格納式アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。
格納式アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）★

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

各部の名称



①パワースイッチ（→ P. 90）
②AC100V スイッチ
③ラゲージルーム内コンセント
④アース端子

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コンセントを使用するとき

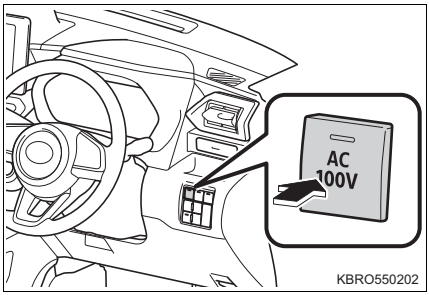
■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→ P. 90）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON ／ OFF が切り替わります。

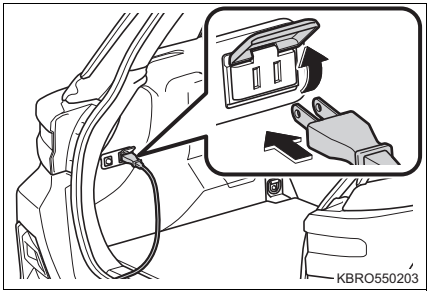


■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

ふたを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してから電源プラグをコンセントに差し込んでください。

電気製品側の電源プラグ形状と電動車側のコンセント形状が一致しない場合は、電気用品安全法で定められた技術基準に適合した市販の変換アダプターを使用してアース線を接続してください。



■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取り外す

4 コンセントのふたを閉める

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。
一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。アクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量を超える電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W を超えるときがあります。
  この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。
- アクセサリーソケットと同時に使用することができます。

知識

- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書やラベルも併せてお読みください。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- コンセントを使用中、リヤ席、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- プログラム機能やタイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品
- 水平に設置しないと正常に作動しない電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、コンセントの使用電力合計が　1500W　以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 駆動用電池の残量を確認してください。（→ P. 57）残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

電気製品によっては、電源周波数の切り替え（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切り替えが必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
  - わき見運転など、安全運転の妨げになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
  - 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下・内容物の飛び出しなどによる事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
  - ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
  - 強い光が目に入り、視界の妨げになるおそれがある場合（照明器具など）

  また、使用しない場合であっても、調理機器などに内容物を入れたまま走行しないでください。

⚠ 警告

- ●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- ●アース端子が正常に使用できない場合、アース線のある電気製品は使用しないでください。
- ●故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- ●水没や浸水した、またそのおそれがある電気製品は使用しないでください。
- ●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。
  また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- ●コンセントを利用して、電気自動車やプラグインハイブリッド車への普通充電は絶対に行わないでください。
  また、家屋内の電力線や配電盤をつなぐことは絶対にしないでください。感電や故障につながるおそれがあります。
- ●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはダイハツサービス工場にご相談ください。
- ●お子さまにコンセントを触れさせないでください。
- ●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- ●コンセントに飲み物などをこぼしたりしないでください。感電、発煙や発火のおそれがあります。
- ●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- ●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーを P にしていることを確認してください。
- ●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- ●ボンネットが閉まっていることを確認してください。状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。
  また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急に回りだすことがあります。ファンの回転部分に触れたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- ●燃えやすいものの近くで停車しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- ●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- ●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。使用中、雷に気付いたときは停止してください。
- ●給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 24）
- ●粉じんの多い場所や直射日光の当たる場所では使用しないでください。
- ●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- ●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- ●雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。雨や水でコンセントがぬれると感電するおそれがあります。
- ●災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→ P. 216）

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- ●医療機器

車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

⚠ 注意

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

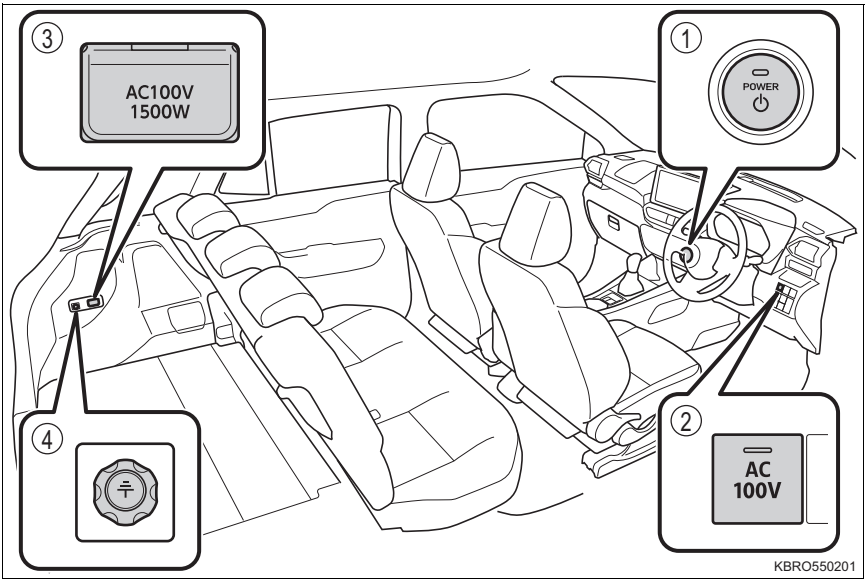
■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- 電気製品の電源プラグを差し込むときは、まっすぐに根本まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱によりコンセントが損傷するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、ふたを閉めてください。
  コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- ドアガラス、ドアやバックドアを閉める際、電源コードを挟まないように注意してください。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。
- 車内温度および屋外温度は極寒地や炎天下などでは、作動不良や故障につながる可能性がありますので、電気製品を車内や屋外に放置しないでください。

非常時給電システム★

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

システムの構成部品



①パワースイッチ（→ P. 90）
②AC100V スイッチ
③ラゲージルーム内コンセント
④アース端子

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- ●パーキングブレーキがかかっていること
- ●ヘッドランプなどが OFF になっていること
- ●パワースイッチが “OFF” になっていること
- ●システム作動中はエンジンがかかるおそれがあるので、車庫内など、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- ●地面が固く平らな場所に駐車すること

  輪止めの使用をおすすめします。輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

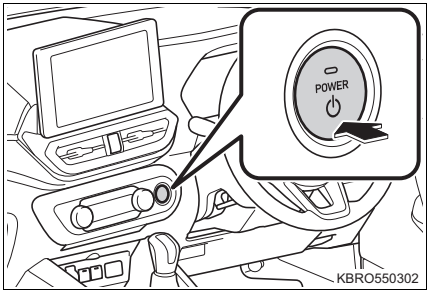
- ●給電中はセキュリティーアラームを設定することができないので、盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと
- ●ボンネットが閉まっていること

給電作業をするには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON にする（→ P. 90）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押すと、非常時給電システムは使用できません。



KBRO550302

2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードのメッセージが表示され、起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、一度パワースイッチを “OFF” にしてから “ON” にし、1 から操作をやり直してください。

KBRO550301

■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

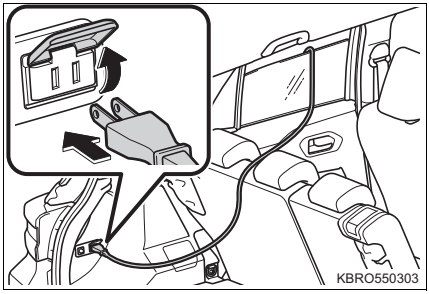
ふたを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

電気製品の接続されていることがわかるように窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してから電源プラグをコンセントに差し込んでください。

電気製品側の電源プラグ形状と電動車側のコンセント形状が一致しない場合は、電気用品安全法で定められた技術基準に適合した市販の変換アダプターを使用してアース線を接続してください。

窓ガラスを上昇させるときはパワーウインドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないようにすき間を確保してください。



■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取り外す
4 コンセントのふたを閉める
5 パワースイッチを “OFF” にする

知識

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■非常時給電システムについて

- AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量を超える電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W を超えるときがあります。この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書やラベルも併せてお読みください。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- コンセントを使用中、リヤシート、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- 長時間給電直後には、動力性能や燃費などが一時的に悪化することがありますが、異常ではありません。

知識

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- ●起動時の電力が大きい電気製品
- ●精密なデータ処理をする計測機器
- ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- ●プログラム機能やタイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品
- ●水平に設置しないと正常に作動しない電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

- ●コンセントが使用できないとき

  AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。この場合、まず次の処置を行ってください。

  - 電気製品の電源プラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
  - 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
  - 駆動用電池の残量を確認してください。(→ P. 57) 残量が少ない場合は、一旦パワースイッチを "OFF" にしてから、ハイブリッドシステムを始動して (→ P. 90)、駆動用電池の残量を回復させてください。駆動用電池の残量が回復したら、パワースイッチを "OFF" にし、再度、非常時給電システムを起動してください。
  - 車内が高温になると、給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。
  - 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
  - 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用して駆動用電池を温めてから使用してください。

- ●TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードのメッセージが表示されていない場合、パワースイッチを "OFF" にし、はじめから操作をやり直してください。
- ●ハイブリッドシステムに異常があるとき
- ●TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されたとき
  - "燃料の残量低下により給電停止しました"
    燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を給油後、再度非常時給電モードを起動することが可能になります。ガソリンスタンドで給油することをおすすめします。
  - "シフトポジション切り替えにより給電停止しました"
    シフトポジションが P から切り替わったため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切り替え (50 ／ 60Hz) 機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切り替えが必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

- ●キーフリーシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- ●ワイヤレス機能でドアの施錠・解錠をすることはできません。エマージェンシーキーのみでドアの施錠・解錠ができます。
- ●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません」と警告メッセージが表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。
  また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に該当する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切り替えないでください。
- 非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、給油や洗車は行わないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- アース端子が正常に使用できない場合、アース線のある電気製品は使用しないでください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- 水没や浸水した、またそのおそれがある電気製品は使用しないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。
  また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはダイハツサービス工場にご相談ください。
- お子さまにコンセントを触れさせないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはダイハツサービス工場にご相談ください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急に回りだすことがあります。ファンの回転部分に触れたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 24）
- 粉じんの多い場所や直射日光の当たる場所では使用しないでください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。雨や水でコンセントがぬれると感電するおそれがあります。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- 医療機器

車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

⚠ 注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ **ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- 電気製品の電源プラグを差し込むときは、まっすぐに根本まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱によりコンセントが損傷するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、ふたを閉めてください。
  コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障や、ショートのおそれがあります。
- ドアガラス、ドアやバックドアを閉める際、電源コードを挟まないように注意してください。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。

■ **非常時給電システムの使用中**

長時間給電をするときは、エンジン回転中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

■ **特に外気温が低いとき**

排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管から臭いを発生する場合があります。その場合は、一旦給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■ **非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき**

非常時給電モードを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装のお手入れ …… 224
内装のお手入れ …… 224
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット …… 225
ガレージジャッキ …… 226
ウォッシャー液の補充 …… 226
タイヤについて …… 227
タイヤ空気圧について …… 228
駆動用電池冷却用吸入口（ハイブリッド車） …… 228
キーの電池交換 …… 232
ヒューズの点検・交換 …… 233
電球（バルブ）の交換 …… 234

6-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ

⚠ 警告

■洗車をするとき

●エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ダイハツサービス工場にご相談ください。

■アルミホイール★にワックスがけをするときは

ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

内装のお手入れ

知識

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口（ハイブリッド車）など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 43）

駆動用電池（ハイブリッド車）や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 20）

電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

⚠ 警告

■ 走行前の確認

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は（ハイブリッド車）

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずダイハツサービス工場にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジン<ハイブリッドシステム>始動前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルーム内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

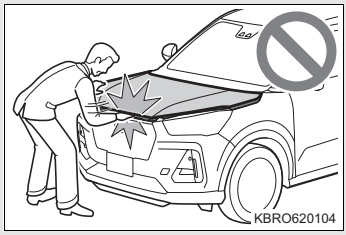
また、走行中にエンジンルーム内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

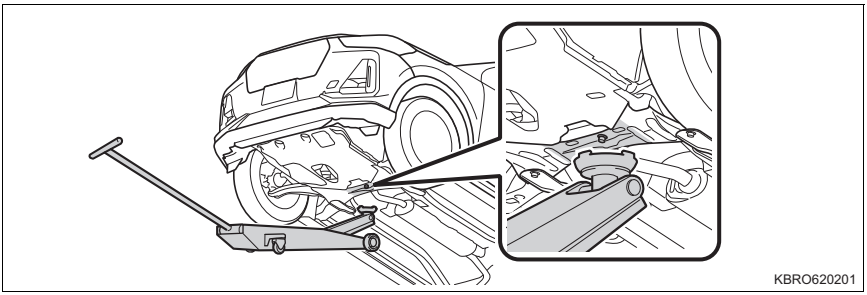
手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



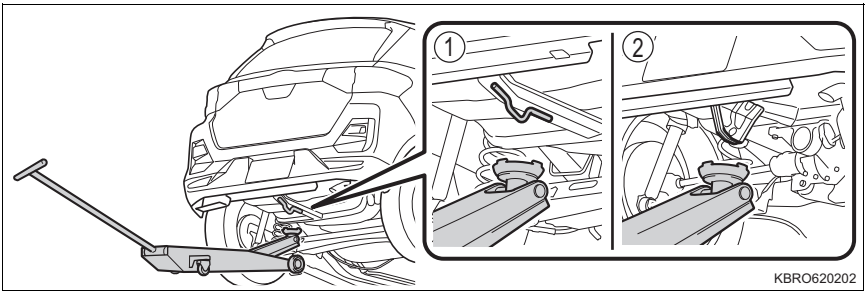
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側



①2WD 車（前輪駆動）
②4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジン<ハイブリッドシステム>が熱いときやエンジンがかかっている<ハイブリッドシステムが作動している>ときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

●タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

●タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの溝の深さ

●タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

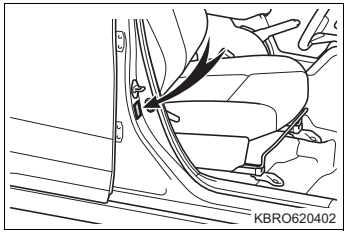
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
195/65R16 92H	240（2.4）	240（2.4）
195/60R17 90H		

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■タイヤ空気圧の点検

●1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。

●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●他車で使用していたタイヤを使用しない

以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

⚠ 警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横滑りする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 290）

  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。

  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1回以上実施してください。（→ P. 308）

⚠ 警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●過度の摩耗
- ●偏摩耗
- ●操縦安定性の低下
- ●タイヤの過熱による破裂
- ●タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ●ホイールの変形、タイヤの損傷
- ●走行時にタイヤが損傷する可能性の増大

  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

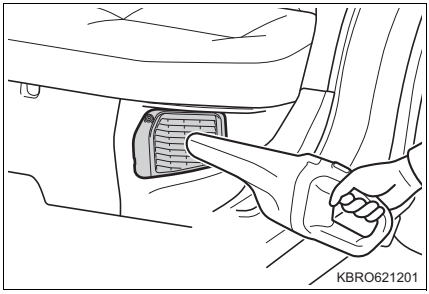
駆動用電池冷却用吸入口（ハイブリッド車）

燃費性能の低下を防ぐために、リヤシート下の駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目詰まりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときや TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。（→ P. 231）

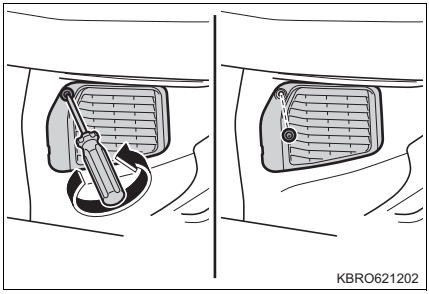

KBRO621201

ほこりを取り除ききれないときは

次の要領で吸入口カバーを取り外して、フィルターを清掃してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 クリップを取り外す

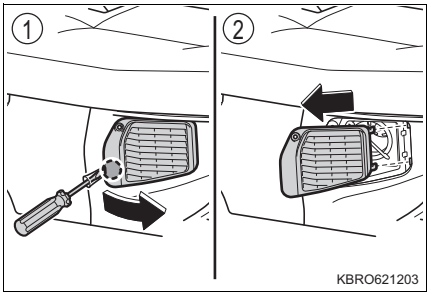

KBRO621202

3 吸入口カバーを取り外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

① 図で示す 1 か所のツメを外す

② 吸入口カバーを取り外す

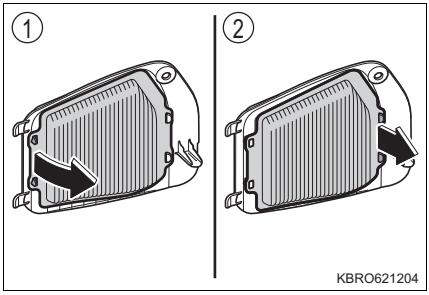


KBRO621203

4 フィルターを取り外す

① 図で示す2か所のツメからフィルターを外す

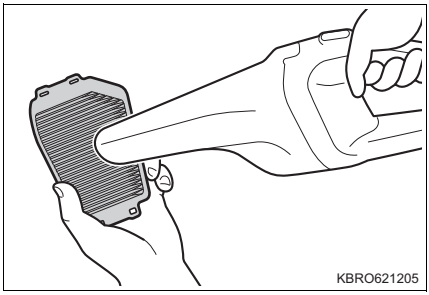
② フィルターを取り外す



KBRO621204

5 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。

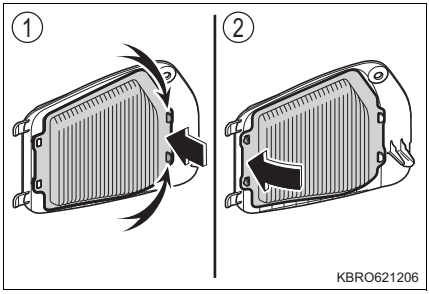


6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

① 図で示す2か所のツメにフィルターを引っかける

② 残り2か所のツメにフィルターを取り付ける

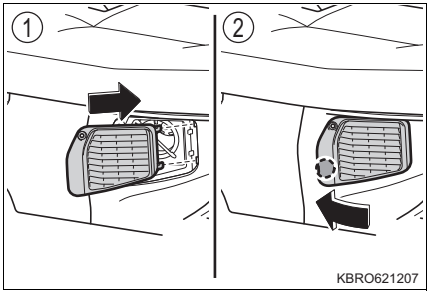
フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。



7 吸入口カバーを取り付ける

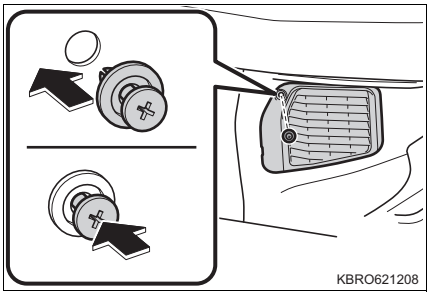
① 吸入口カバーのガイドを差し込む

② 図で示す 1 か所のツメを取り付ける



8 クリップを取り付ける

クリップを差し込み、中心部を押してください。



知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

- 吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目詰まりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、駆動用モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。
- 誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

- 吸入口カバーを取り外して、フィルターを清掃してください。（→ P. 228）
- 清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動して TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。始動後に警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

■吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを “OFF” にしてハイブリッドシステムを停止してください。

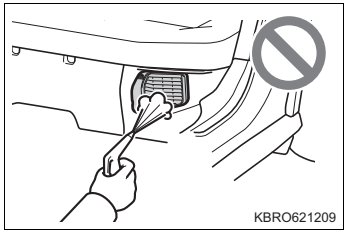
■吸入口カバーを取り外すときは

吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対に触れないでください。（→ P. 42）

⚠ 注意

■吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。
エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因になったりするおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

- 吸入口カバーを取り外したときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取り外したフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱うフィルターが損傷した場合はダイハツサービス工場で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取り外した状態で車を使用したりしない

■TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。
警告メッセージが表示されたときは、ただちに清掃してください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

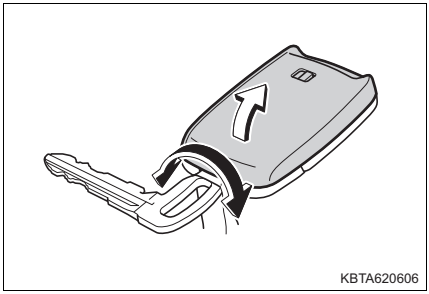
●薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
●エマージェンシーキー
●リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

1 エマージェンシーキーを取り出す（→ P. 66）

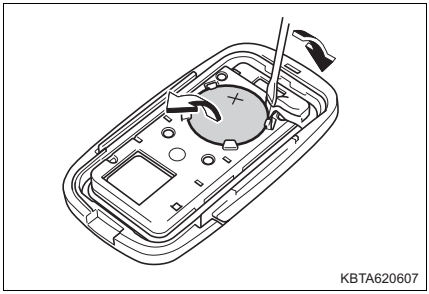
2 カバーを外す

ダイハツマーク側を下にして外してください。
エマージェンシーキーをしっかり奥まで差し込んでください。
傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーに布などを巻いて保護してください。


KBTA620606

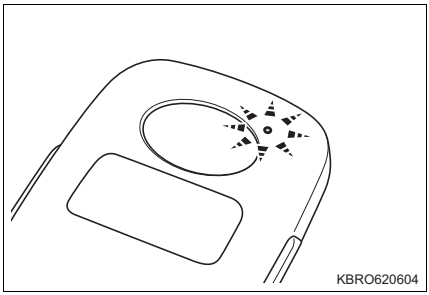
3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。
カバーを外したときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。
新しい電池は＋極を上にして取り付けます。


KBTA620607

4 カバーを取り付ける

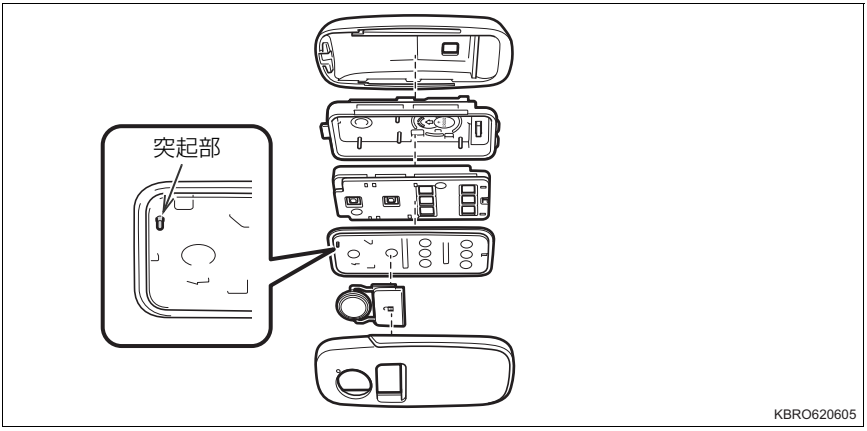
スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する


KBRO620604

知識

■電池の交換について
誤った取り扱いをすると、キーが損傷するおそれがあります。ご自身での電池の交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■電子カードキーの部品がばらばらになったときは
図を参考に組み付けてください。
組み付けるときは、突起部を下に向けてください。



■リチウム電池 CR2032 の入手
電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子カードキーの電池が消耗していると
次のような状態になります。
- キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる
- インジケーターが点滅しない

警告

■取り外した電池と部品について
お子さまに触れさせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ヒューズの点検・交換

警告

■お車の故障や、車両火災を防ぐために
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。
- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

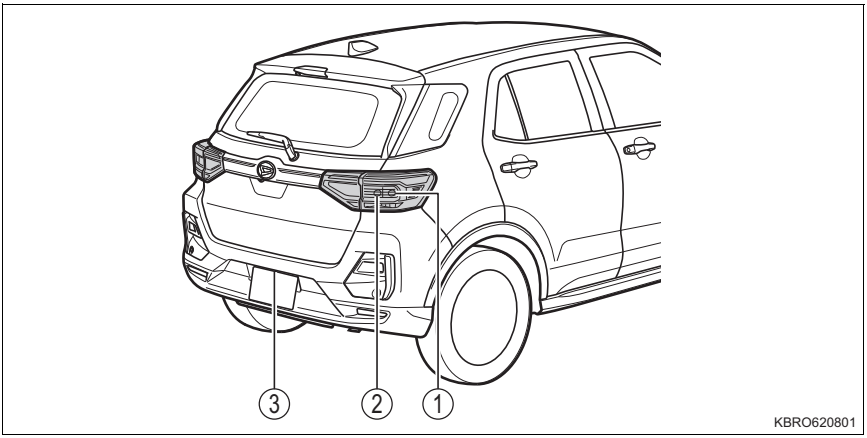
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 308）

バルブ位置

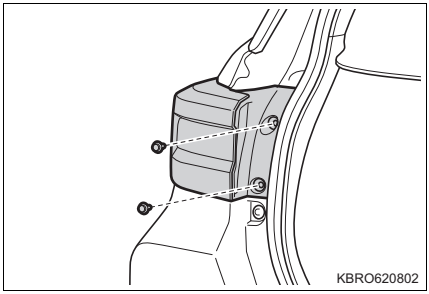


①リヤ方向指示／非常点滅灯
②後退灯
③番号灯

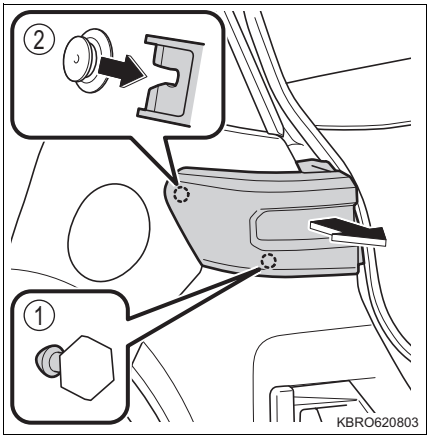
電球交換のしかた

■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

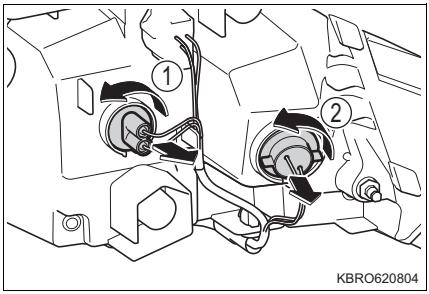
1 バックドアを開けて、ボルト（2 本）を外す



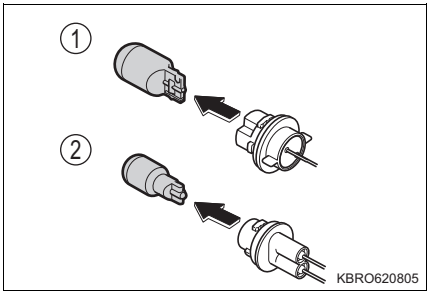
2 ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合を外す
① クリップ
② ガイド



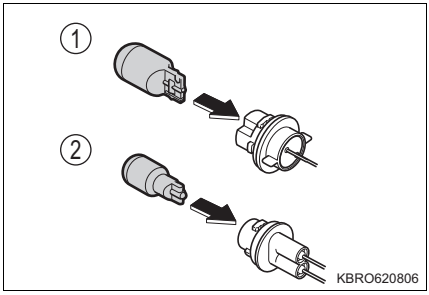
3 ソケットを取り外す
① 後退灯
② リヤ方向指示／非常点滅灯



4 電球を取り外す
① リヤ方向指示／非常点滅灯
② 後退灯



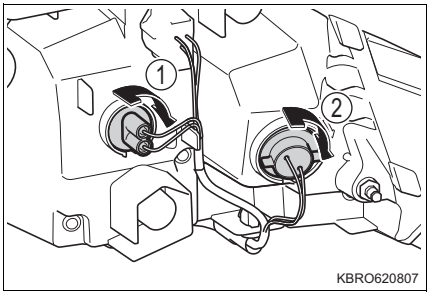
5 電球を交換し取り付ける
① リヤ方向指示／非常点滅灯
② 後退灯



6 ソケットを取り付ける

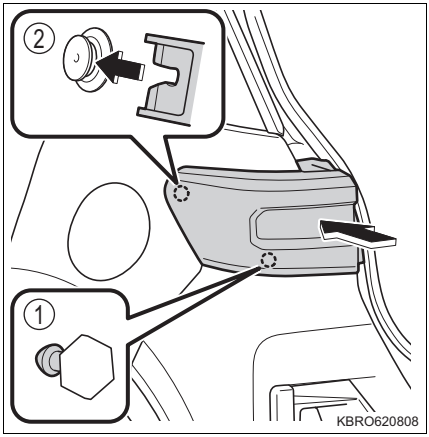
① 後退灯

② リヤ方向指示／非常点滅灯

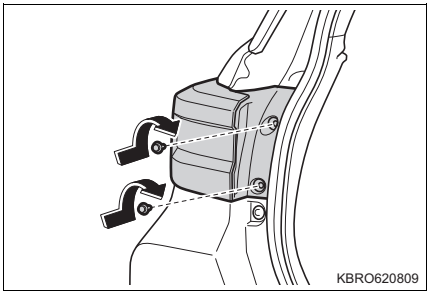


7 ランプ本体を取り付ける

ランプ本体側のクリップ（①）と車両側の穴の位置を合わせ、ガイド（②）がはまるようにランプ本体をまっすぐ押し込んでください。

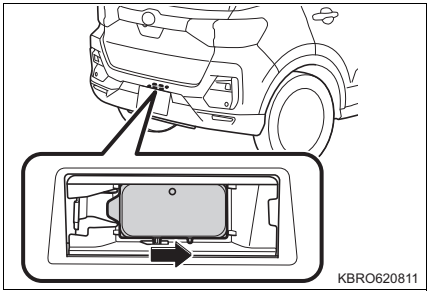


8 ボルト（2 本）を取り付ける

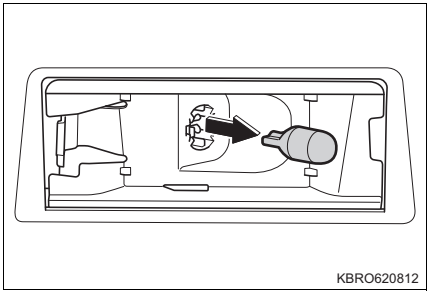


■ **番号灯**

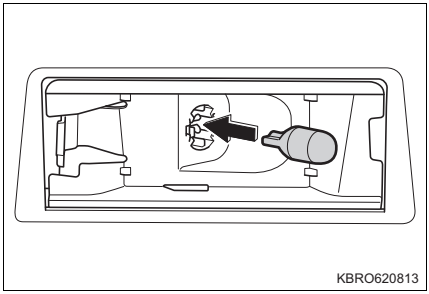
1 レンズをスライドして取り外す


KBRO620811

2 電球を取り外す

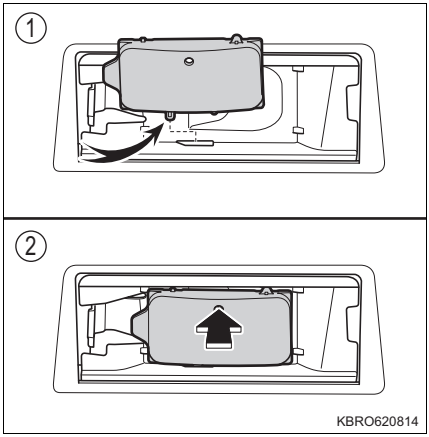

KBRO620812

3 新しい電球を取り付ける


KBRO620813

4 レンズを取り付ける

レンズの突起部をランプ本体の溝に入れ（①）、矢印の方向に押して（②）取り付ける



KBRO620814

■ **その他の電球**

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

●ヘッドランプハイビーム／ロービーム

●LED イルミネーションランプ★

●車幅灯

●フロント方向指示／非常点滅灯

●サイド方向指示／非常点滅灯

●制動灯／尾灯

●ハイマウントストップランプ

●フロントフォグランプ★

●リヤフォグランプ★

●サイドビューランプ★

知識

■**LED ランプについて**

LED ヘッドランプ・LED イルミネーションランプ★・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

⚠ 警告

■**電球を交換するときは**

●ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
やけど・感電をするおそれがあり危険です。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

●電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

発炎筒 …… 240
車両を緊急停止するには … 240
水没・冠水したときは …… 241
車中泊が必要なときは …… 241

7-2. 緊急時の対処法

けん引について …… 242
フューエルポンプ
シャットオフシステム … 243
警告灯がついたときは …… 243
警告メッセージが
表示されたときは …… 249
「スマアシ停止」が
表示されたときは …… 272
パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理セット装着車）…… 276
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車） … 285
エンジンがかからないときは
（ガソリン車） …… 292
ハイブリッドシステムが
始動できないときは
（ハイブリッド車） …… 292
電子カードキーが
正常に働かないときは … 293
バッテリー<補機バッテリー>が
あがったときは …… 294
オーバーヒート
したときは …… 298
スタックしたときは …… 301

発炎筒

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをNに入れる

▶シフトレバーがNに入った場合

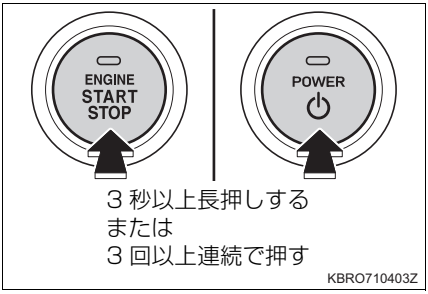
3 減速後、お車を安全な道路脇に停める

4 エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する

▶シフトレバーがNに入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を3秒以上長押しするか、素早く3回以上連続で押してエンジン<ハイブリッドシステム>を停止する



5 お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジン<ハイブリッドシステム>を停止するとき

ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
  車外の水位がドアの高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジン<ハイブリッドシステム>が停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※ の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

⚠ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

けん引について

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

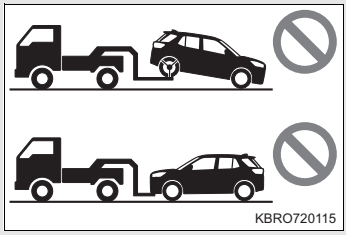
■ レッカー車でけん引するとき

▶ 2WD 車（ガソリン車）

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。

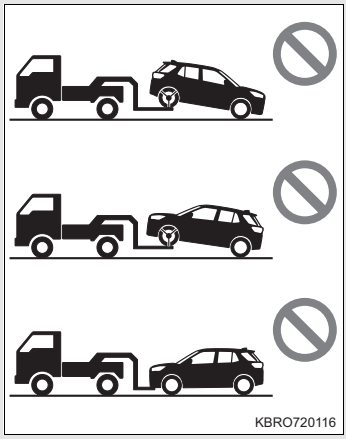
▶ 2WD 車（ハイブリッド車）

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。


KBRO720115

▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したりお車が台車から飛び出したりするおそれがあります。


KBRO720116

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが停止してしまった場合、フューエルポンプシャットオフシステムが作動している可能性があります。フューエルポンプシャットオフシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

システム作動後にエンジン<ハイブリッドシステム>を再始動するには

▶ガソリン車

1 エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする

2 エンジンを再始動する

▶ハイブリッド車

→ P. 44

⚠ 警告

■エンジンを始動する前に（ガソリン車）

車両下をよく確認してください。

地面に燃料漏れを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
（黄色）	**ブレーキ警告灯★** パーキングブレーキの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	充電警告灯★ 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	油圧警告灯★（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （赤色点滅または点灯）	**高水温警告灯** エンジン冷却水温の異常 （水温の上昇に伴い、点滅から点灯に変わります。→ P. 298） **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常（ハイブリッド車） ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	CVT 警告灯★ CVT 電子制御システムの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	ABS 警告灯 ABS の異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （点滅）	**オートブレーキホールド作動表示灯★** オートブレーキホールド機能の異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （赤色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
※2 （黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート **→ ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。**
	キーフリー警告灯★ キーフリーシステムの異常 （キーフリー警告灯が点滅したときは→ P. 248） **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （黄色）	**AHB ／ ADB 警告灯★** ・AHB の異常★ ・ADB の異常★ **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 （点滅） （点滅） ※3 	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **マスターウォーニング** **スマートアシスト故障警告灯★** スマートアシストの一部機能の異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （点灯） （点灯） 	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **スマートアシスト停止警告灯** スマートアシストの機能停止 **→ 表示された各機能停止コードごとに対処してください。（→ P. 272）**
 （黄色）	**ACC 警告灯★** ・全車速追従機能付 ACC の異常 ・全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 （黄色）	**LKC 警告灯★** LKC の異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 	コーナーセンサー表示灯★（警告ブザー） **マスターウォーニング** コーナーセンサーの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	スリップ表示灯 ・ブレーキアシストの異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 （VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 202） ・ヒルホールドシステムの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（点滅）	eco IDLE OFF 表示灯★ ・eco IDLE システムの異常 ・スターターの交換時期 （eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 163） **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
※4 （点滅→消灯）	eco IDLE OFF 表示灯★ バッテリーの交換時期 （eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 163） **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
（点灯）	4WD 警告灯★ ダイナミックトルクコントロール 4WD の異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
（点滅）	4WD 警告灯★ ダイナミックトルクコントロール 4WD システムがオーバーヒート **→ 車速を下げるか、安全な場所に停車してください。**
（高速点滅）	4WD 警告灯★ ダイナミックトルクコントロール 4WD システムがオーバーヒートし、FF（前輪駆動）走行に切り替わった。 **→ 車速を下げるか、安全な場所に停車してください。**
（点滅）	BSM OFF 表示灯★ レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→ P. 170）に雨、雪、氷、汚れなどがある **→ 雨、雪、氷、汚れなどを取り除き、しばらくしても点滅が続く場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
（点滅）	RCTA OFF 表示灯★ レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→ P. 170）に雨、雪、氷、汚れなどがある **→ 雨、雪、氷、汚れなどを取り除き、しばらくしても点滅が続く場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
（点滅）	ブレーキオーバーライドシステム警告灯★ ブレーキオーバーライドシステム異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。** ドライブスタートコントロール警告灯★ ドライブスタートコントロールの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
（点灯）	ブレーキオーバーライドシステム警告灯★ ブレーキオーバーライドシステムの作動時 **→ アクセルペダルから足を離す** ドライブスタートコントロール警告灯★ ドライブスタートコントロールの作動時 **→ ただちにアクセルペダルから足を離す**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	手放し運転警告灯（警告ブザー※5） ハンドルの手放し運転をしている **→ ハンドルをしっかりと握って操作してください。**
	半ドア警告灯※6★（警告ブザー※7） いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない **→ 全ドアまたはボンネットを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 5.0L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯※9（警告ブザー※8） 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
	後席シートベルト締め忘れ警告灯※10、11（警告ブザー※12） 後席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
 （点滅）	**パーキングブレーキ表示灯※13** ・パーキングブレーキのオーバーヒート **→ しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。** ・パーキングブレーキの作動が停止した **→ パーキングブレーキを解除しようとした場合：再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください** **パーキングブレーキをかけようとした場合：再度パーキングブレーキをかけてください**

※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※3 「スマアシ故障」★の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 eco IDLE OFF 表示灯★：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。

※5 手放し運転警告ブザー：
車線逸脱抑制制御機能作動時は、点灯と同時に警告ブザーが鳴ります。
LKC 作動時は、点灯後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。

※6 半ドア警告灯★：
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。

※7 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h を超えたときにブザーが鳴ります。

※8 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※9 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

※10インナーミラー上部に表示されます。

※11後席シートベルト締め忘れ警告灯：
後席シートベルトが非装着の状態で、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ON”にしたとき、または後席シートベルトを外すと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または車速約 20km/h 以上で走行後約 60 秒経過（警告ブザーが鳴っている場合は約 30 秒経過）すると消灯します。
また、約 5km/h 以下で後席シートベルトを外し、リヤドアを開閉すると点灯します。

※12後席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
車速が約 20km/h 以上で乗員が後席シートベルトを外すと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 20km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、または約 5km/h 以下でリヤドアを開閉すると、ブザーが停止します。

※13パーキングブレーキ表示灯：
電動パーキングブレーキ装着車

ただちに処置してください（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリー警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
—	（高速点滅）	**キーフリー警告灯** 電子カードキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした **→ 電子カードキーを携帯する**※1
5 回	（高速点滅）	**キーフリー警告灯** エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた **→ 電子カードキーを携帯して乗車する**
3 回	（点滅）	**キーフリー警告灯** 電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを OFF にした **→ 新しい電池に交換する**※2 **（→ P. 232）**

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。（→ P. 232）

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも点滅します。

ただちに処置してください（ガソリン車）

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた **→ 運転席ドアを閉める**
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した **→ 運転席シートベルトを着用する**
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中にボンネットを開けた **→ ボンネットを閉めたあと、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する**

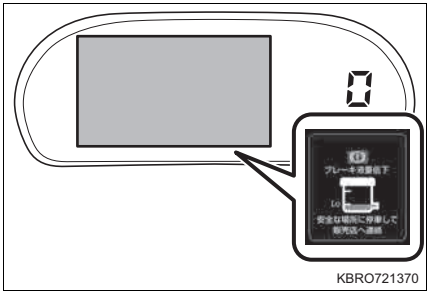
⚠ 警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたとき★

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
   （赤色）	**ブレーキ液の不足** 車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
   （赤色）	**ブレーキ系統の異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
 	充電系統の異常★ **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	補機バッテリー充電系統の異常★ 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	補機バッテリー充電系統の異常★ **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 	エンジンオイルの圧力異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
   （赤色）	**エンジン冷却水高温異常** **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
 	ハイブリッドシステムの異常★ **エンジン電子制御システムの異常** **電子制御スロットルの異常** **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	CVT 電子制御システムの異常★ → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	SRS エアバッグシステムの異常 シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （黄色） （点灯または点滅）	パーキングブレーキ異常のため、作動不可★ → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （黄色）	パーキングブレーキの異常★ → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
   （点滅）	オートブレーキホールド機能★の異常 → ブレーキペダルを踏んで停車し、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （点滅）	オートブレーキホールド機能★の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （赤色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
   （黄色）	電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
 	キーフリーシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	自動光軸調整システムの異常★ → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （黄色）	AHB の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
   （黄色）	ADB の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （点滅） （点滅） 	スマートアシストの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （黄色）	全車速追従機能付 ACC の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
   （黄色）	**全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常★** **→ ブレーキペダルを踏んで停車し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
   （黄色）	**LKC の異常★** **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 	コーナーセンサーの異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 **→ 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。**
	車両接近通報装置の異常★ 警告ブザーが鳴ります。 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	ブレーキアシストの異常 VSC システムの異常 TRC システムの異常 ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （点滅）	eco IDLE システムの異常★ スターターの交換時期 バッテリーの交換時期 　バッテリーの交換時期の場合は、数秒間表示されます。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
   （点滅） （点滅）	BSM の故障★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 BSM OFF（点滅） RCTA OFF（点滅）	**BSM 機能低下★** 極めて高温または低温の環境で使用した場合や、バッテリー<補機バッテリー>の電圧が規定より下がっているまたは上がっている場合に表示します。 **→ 上記の原因が解消されると、表示が消えます。長時間表示している場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
 BSM OFF（点滅） RCTA OFF（点滅）	**BSM レーダー汚れ★** **→ 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのセンサーに付着していないか確認し、取り除いてください。**
 ⚠	**ダイナミックトルクコントロール 4WD システムの異常★** **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ダイナミックトルクコントロール 4WD システムがオーバーヒート★ → 車速を下げるか、安全な場所に停車してください。
	ダイナミックトルクコントロール 4WD システムがオーバーヒート★ FF（前輪駆動）走行に切り替わります。 → 車速を下げるか、安全な場所に停車してください。
	車両通信システムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ドライブスタートコントロールの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルから足を離してください。**
	ドライブスタートコントロールの作動時 **→ ただちにアクセルペダルから足を離す**
	ハイブリッドシステムの出力が制限されている★ 負荷の高い走行をしている（例えば、長い上り坂を走行）ときに表示される場合があります。 アクセルペダルを踏んでも速度が上がりにくくなります。 **→ 安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムの冷却系統に異常がないか点検してください。（→ P. 298）**
	手放し運転をしている 車線逸脱抑制制御機能作動時は、メッセージの表示と同時に警告ブザーが鳴ります。 LKC 作動時は、メッセージの表示後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。 **→ ハンドルをしっかりと握って操作してください。**
	いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない 開いているドアまたはボンネットが表示されます。 各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h を超えたときにはブザーが鳴ります。 **→ 全ドアまたはボンネットを閉める**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	燃料の残量が約 5.0L 以下になった **→ 燃料を補給する**
 	運転席、または助手席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えたときに表示されます。 **→ シートベルトを着用する**
 	後席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えてシートベルトを外したときに表示されます。 **→ シートベルトを着用する**
   （点滅）	**パーキングブレーキのオーバーヒート★** **→ しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	パーキングブレーキが解除されていない★ パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
	パーキングブレーキが解除されていない状態で走行した★ 規定の車速を超えたときに警告ブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
	運転席のドアが開いている状態でパーキングブレーキのオートリリース（→ P. 99）をしようとした★ **→ 運転席のドアを閉めてから操作する**
	運転席シートベルトを締めないでパーキングブレーキのオートリリース（→ P. 99）をしようとした★ **→ 運転席シートベルトを締めてから操作する**
	ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキを解除しようとした★ **→ ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキの作動が停止した★ → パーキングブレーキを解除しようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください パーキングブレーキをかけようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけてください
	急坂で停車した★ → ブレーキペダルを確実に踏んで停車し、周囲の安全を確認し、発進させる
	運転席のドアが開いている状態でオートブレーキホールドスイッチを操作した★ → 運転席のドアを閉めてからスイッチを操作する
	運転席シートベルトを締めないでオートブレーキホールドスイッチを操作した★ → 運転席シートベルトを締めてからスイッチを操作する
	ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを操作した★ → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	オートブレーキホールド機能のオーバーヒート★ → しばらくオートブレーキホールド機能の使用を控えてください。ブレーキの温度が下がると使用できるようになります。
	ブレーキ保持が間もなく終了する★ → ブレーキ保持を継続するには、ブレーキペダルを踏む
	全車速追従機能付 ACC の停車保持が間もなく終了する★ → 停車保持を継続するには、ブレーキペダルを踏む
 ※1 	衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ※2 	**ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
	先行車発進お知らせ機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、車両を発進させる**
   （点滅）	**車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内に戻す**
   （点灯）	**ふらつき警報が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内で適切な運転をする**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	全車速追従機能付 ACC の接近警報が作動★ 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキペダルを踏んで、適切な車間距離を確保してください。**
	コーナーセンサー作動 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
   （点滅）	**VSC が作動** **→ 特に慎重な運転をする**
 	車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車幅灯を消灯する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	停車時、ハンドルが左、または右に操作されている **→ タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる**
	外気温が約 3 ℃以下になった **→ 路面凍結の可能性があるため、路面状況を確認し慎重な運転をする**
	駆動用電池冷却用吸入口、フィルターが目詰まりしている★ **→ 駆動用電池冷却用吸入口、フィルターを清掃してください。(→ P. 228)**

※1 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ・2 次ブレーキが作動したとき点灯します。

※2 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）のエンジン<ハイブリッドシステム>の出力制御・ブレーキ制御が作動したとき点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステム異常のメッセージ（ハイブリッド車）

次のハイブリッドシステム異常のメッセージが表示されたときは、表示内容に従い、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡する、またはダイハツサービス工場で点検を受けるなどの対処をしてください。

警告メッセージ（表示例）	警告内容
	●バッテリー系故障 ●ハイブリッドシステム故障 ●エンジン系故障 ●アクセル系故障 ●ハイブリッドシステム停止 ●エンジン停止 警告ブザーが鳴ります

次のハイブリッドシステム異常のメッセージが表示されたときは、けん引による輸送をしないでください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ けん引による輸送をせず、ただちにダイハツサービス工場へ連絡してください。**

次の駆動用電池のメッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。そのまま放置しておくと、ハイブリッドシステムが始動できなくなる場合があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	駆動用電池の機能低下 **→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。ハイブリッドシステムが始動できなくなる場合があります。**

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		電子カードキーを携帯していない状態でエンジン<ハイブリッドシステム>を始動しようとした **→ 電子カードキーを携帯する※1**
5回	3回		エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 電子カードキーを携帯して乗車する**
—	1回		車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する**
—	1回		エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた **→ 電子カードキーを携帯して施錠する**
—	1回		エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		電子カードキーを携帯していない状態で2回エンジン<ハイブリッドシステム>を始動しようとした **→ 電子カードキーを携帯する※1**
—	—		自動でエンジンスイッチ<パワースイッチ>が“OFF”になった • エンジンスイッチ<パワースイッチ>が“ACC”のときは1時間以上、“ON”のときは20分以上経過すると表示されます。 **→ ガソリン車は、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持しバッテリーを充電する** **→ ハイブリッド車は、次回ハイブリッドシステム始動時に、約5分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電する**
3回	—		電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にした※2 • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 新しい電池に交換する（→ P. 232）**
—	—		エンジンスイッチ<パワースイッチ>を押してハンドルロックが解除できなかった **→ ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチ<パワースイッチ>を押す**
—	—		シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチ<パワースイッチ>を“OFF”にしようとした **→ シフトレバーをPにする**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	1 回		エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした **→ エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“OFF”にして施錠する**

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジン＜ハイブリッドシステム＞が始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。（→ P. 232）

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“ACC”または“ON”にしたときも表示されます。

ただちに処置してください（ガソリン車）

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE の警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	 **（高速点滅）**	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 運転席シートベルトを着用する**
連続音（約 5 秒間）	 **（高速点滅）**	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 運転席ドアを閉める**

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。
また、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、機能停止のメッセージを表示することができます。

機能停止コード一覧

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止 2E		ブレーキパッドが高温になった → **原因状態が解消され、再度エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“ON”にすると復帰**
スマアシ 停止 5E		雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している → **ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止 6E		フロントワイパーを“高速”で作動させている → **原因状態が解消されると復帰**

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止:0E	 	ACC★・LKC★が視界不良により作動条件を満たさなくなった → **原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止:11E	 	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → **原因状態が解消されると復帰**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止:12E	 	ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった **→ 原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止:14E	 	スマートアシスト初期学習中 **→ しばらく走行すると復帰**

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止:15E		雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー部に付着している **→ ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
スマアシ 停止:16E		フロントワイパーを“高速”で作動させている **→ 原因状態が解消されると復帰**

※ グレード、オプションなどにより、ディスプレイに表示される文字の配列が異なります。

知識

■機能停止コードについて

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。通常の走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「5E」「6E」はシフトレバーがP・R・N以外のときに表示します。
- 「10E」「11E」はシフトレバーがR以外のときに表示します。
- 「15E」「16E」はシフトレバーがRのときに表示します。
- 「2E」「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- 「5E」が表示されていても、スマートアシストOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が表示されないことがあります。
- 「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しないことがあります。
- シフトレバーがD・S★・M★・B★のときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」、警告メッセージが表示されないことがあります。
- グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理セット装着車）

タイヤパンク応急修理セット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。
タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 276）
タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

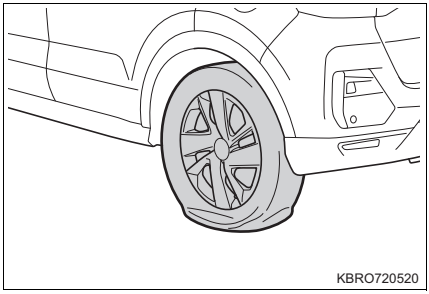
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

●地面が固く平らで安全な場所に移動する
●パーキングブレーキをかける
●シフトレバーを P に入れる
●エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する
●非常点滅灯を点滅させる
●タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。


KBRO720520

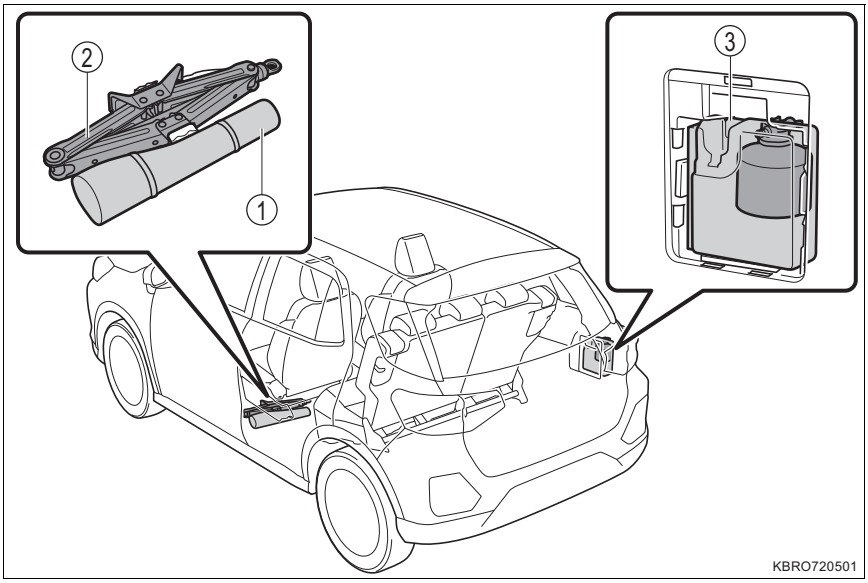
知識

■タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
●タイヤがホイールから明らかに外れているとき
●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
●ホイールが破損しているとき
●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
●1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき
●パンク修理剤の有効期限が切れているとき

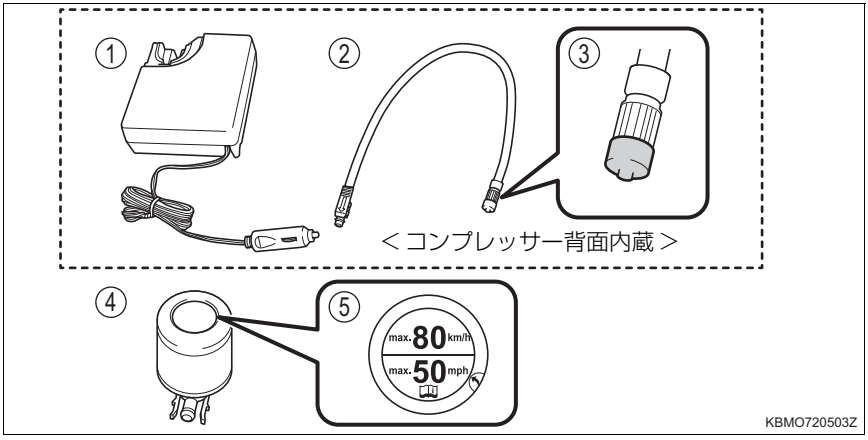
タイヤパンク応急修理セット・工具の搭載位置



① 工具袋※
② ジャッキ
③ タイヤパンク応急修理セット

※ ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ・けん引フック

タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



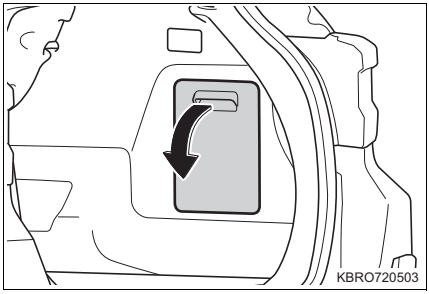
① コンプレッサー
② ホース
③ ホース栓
④ パンク修理剤ボトル
⑤ 速度制限シール

ジャッキと工具の取り出し方

→ P. 286

タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

1 収納ふたを手前に引いて取り外す



2 タイヤパンク応急修理セットを取り出す（→ P. 277）

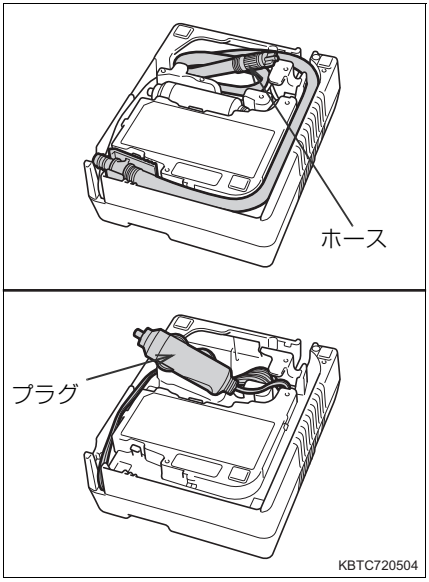
応急修理するとき

1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

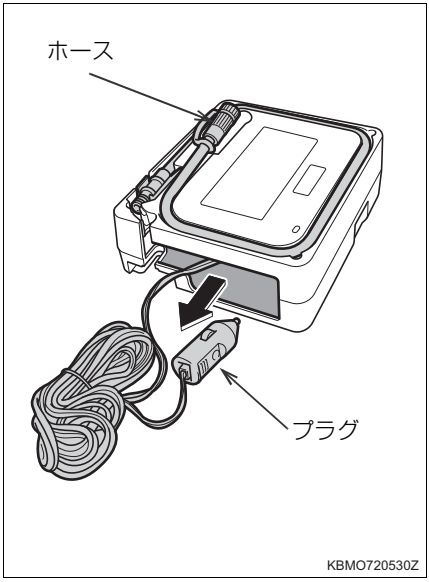
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません）

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

▶タイプ A



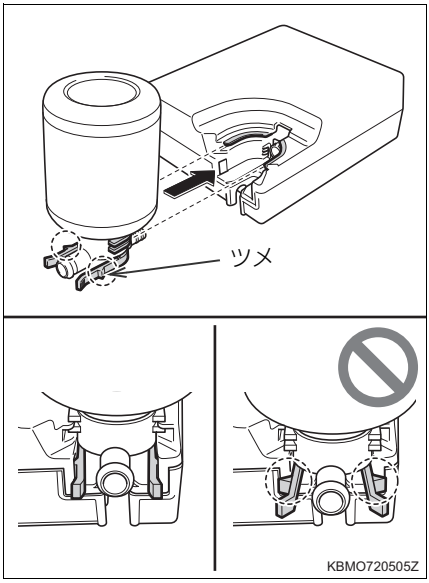
▶タイプ B



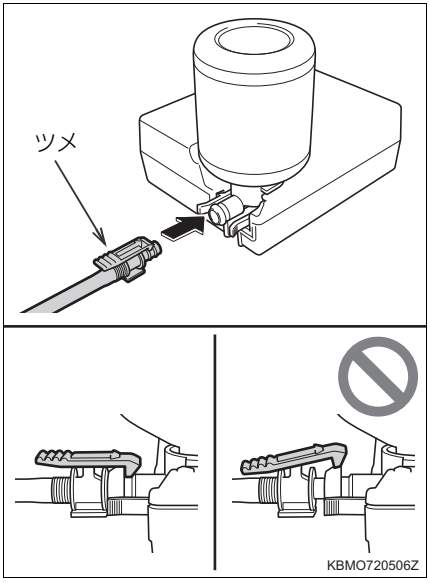
3 パンク修理剤ボトルをよく振る

パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

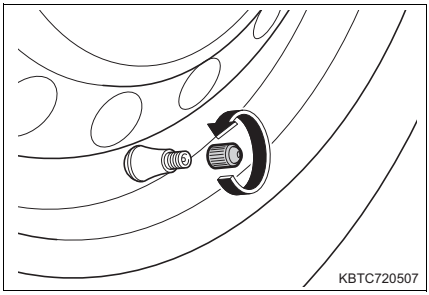
4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



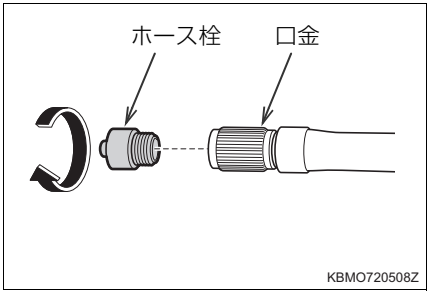
5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



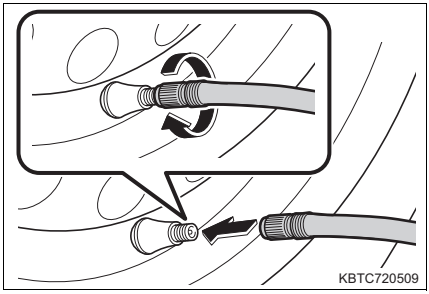
6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す



7 ホースの口金からホース栓を取り外す

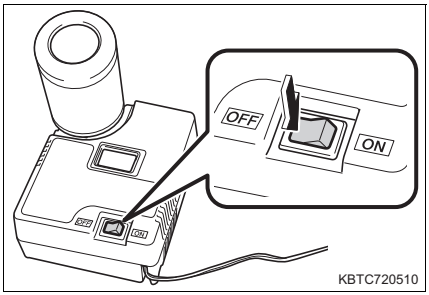


8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。

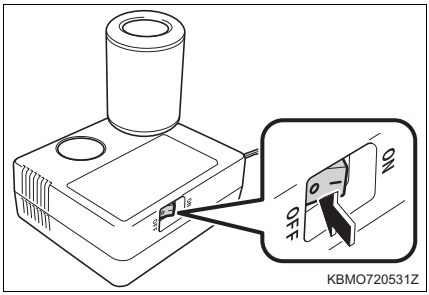


9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

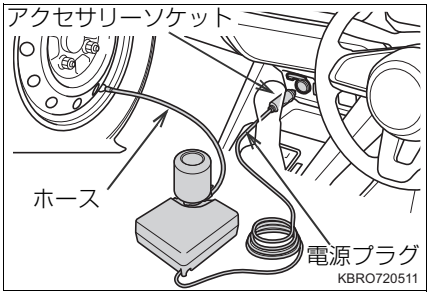
▶タイプ A



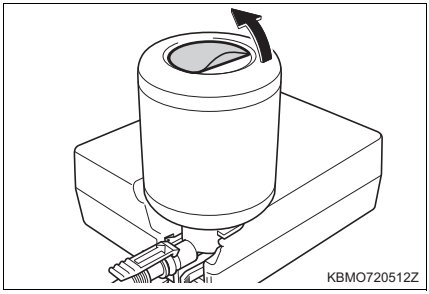
▶タイプ B



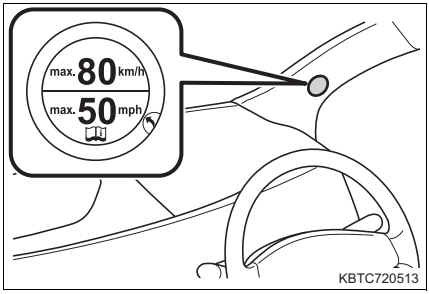
10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込む
手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリーソケットに差し込んでください。



11 パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



13 タイヤの指定空気圧を確認する
タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

14 エンジン<ハイブリッドシステム>を始動する

15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

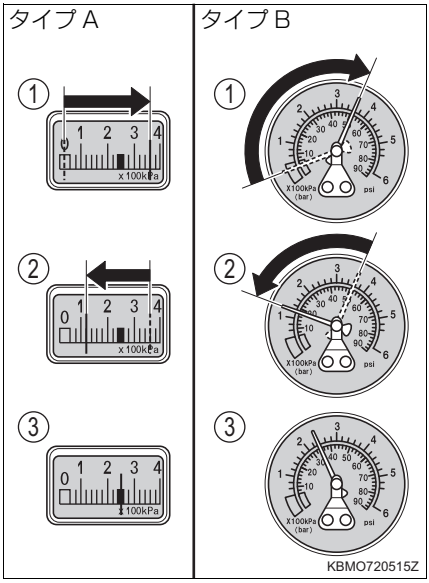
① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300 ～ 400kPa まで上がります。

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になります。

③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- パンク修理剤が 5 分以内に充填できない
- 25 分以内に指定空気圧まで上がらない



17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を “OFF” にする

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

21 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。

22 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する

急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を “OFF” にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動する
- コンプレッサーの電源を “ON” にして作動させたあと、電源を “OFF” にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合

手順 6 ～ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合

タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、ただちにダイハツサービス工場まで走行する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

知識

■応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■タイヤパンク応急修理セットの点検について

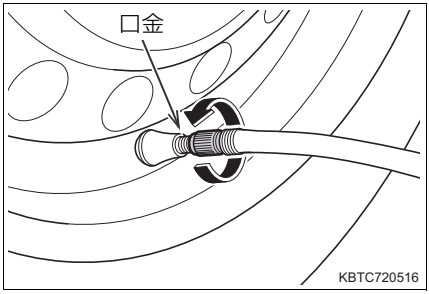
- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
  有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を“ACC”にして、作動の確認をしてください。

■タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温度が− 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しいパンク修理剤ボトルは、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 警告

■タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
  急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■パンク修理剤について

- ●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- ●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- ●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- ●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ●コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- ●コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置してください。
- ●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウインドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- ●お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

- ●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- ●タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- ●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■タイヤパンク応急修理セットについて

- ●タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- ●タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- ●タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- ●タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- ●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 227 を参照してください）

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

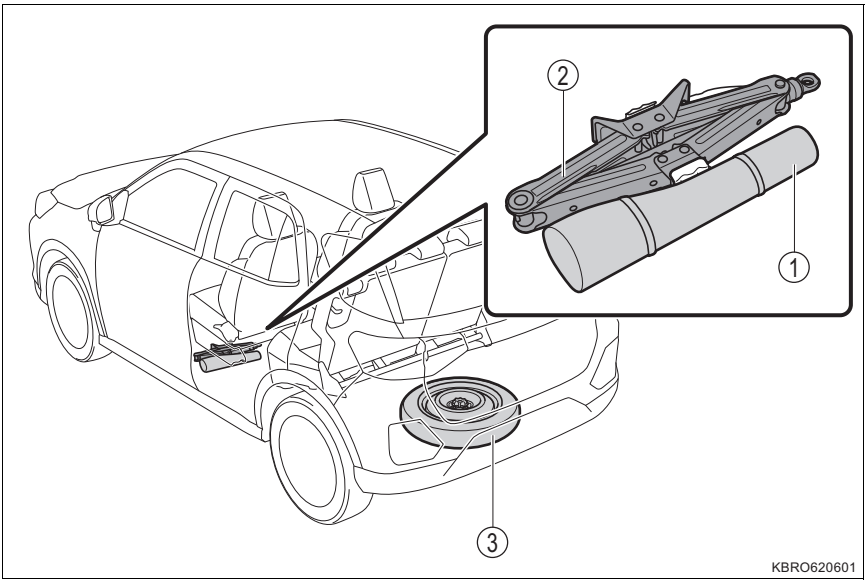
パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- ●地面が固く平らで安全な場所に移動する
- ●パーキングブレーキをかける
- ●シフトレバーを P に入れる
- ●エンジンを停止する
- ●非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



①工具袋※

②ジャッキ

③応急用タイヤ

※ ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ・けん引フック

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

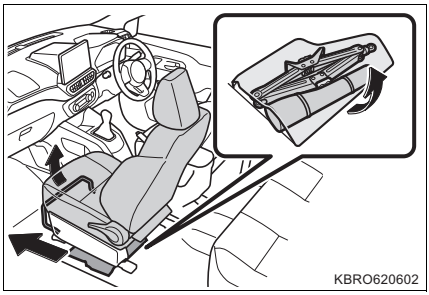
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他車に使ったり他車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- お車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

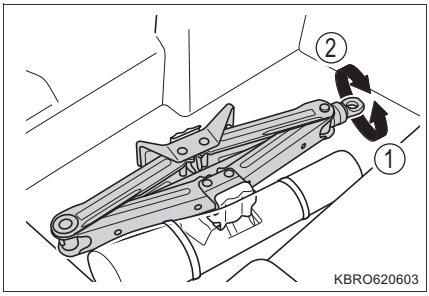
ジャッキと工具の取り出し方

1 助手席シートをいちばん前にスライドし、カバーをめくる


KBRO620602

2 ジャッキをゆるめて取り外す

① 締まる
② ゆるむ



KBRO620603

3 工具袋を取り出す

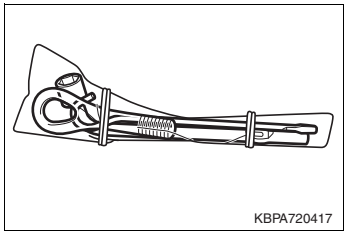
知識

■ジャッキを収納するには

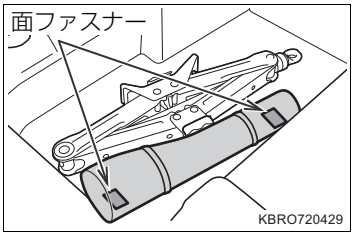
使用後はもとの位置に戻し、確実に固定してください。

■工具を収納するときは

1 図のようにホイールナットレンチ、ジャッキハンドル、けん引フックを工具袋に収納し、ゴムバンドで固定する



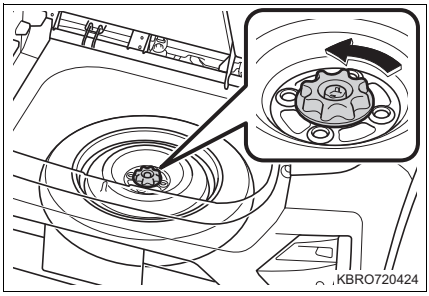
2 図のように工具袋の面ファスナーを床面に貼り合わせ、もとの位置に戻す



応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを取り外す

2 留め具を取り外し、応急用タイヤを取り外す



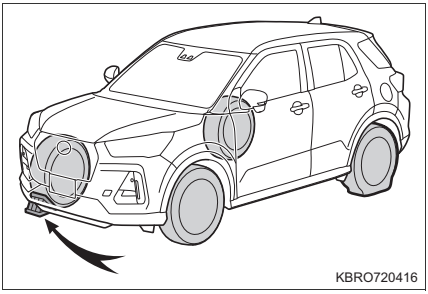
⚠ 警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとの間に、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※ をする



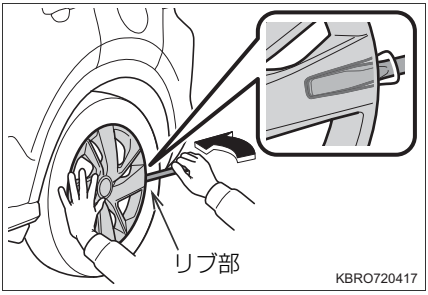
※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

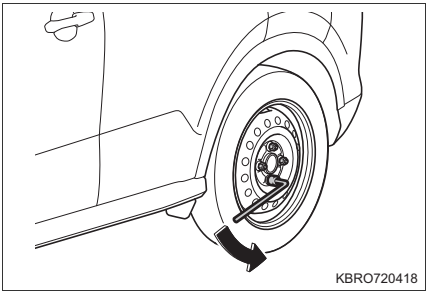
2 ホイールキャップを外す※

※ スチールホイールのみ

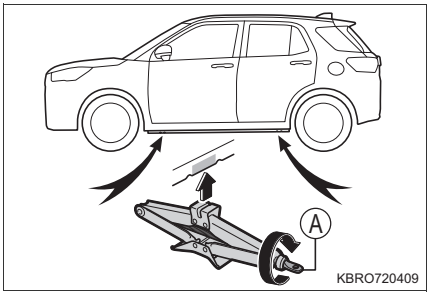
- 傷が付くのを防ぐため、ジャッキハンドルの先端に布などを巻いて保護してください。
- ジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んで外します。
- 勢いよく外れることを防ぐため、片手でホイールキャップを支えてください。



3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

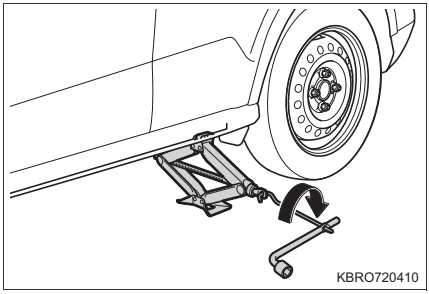


4 ジャッキのA部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にしっかりかける



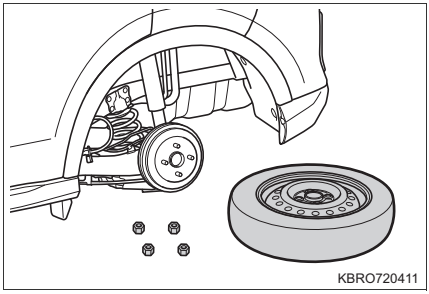
5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



6 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

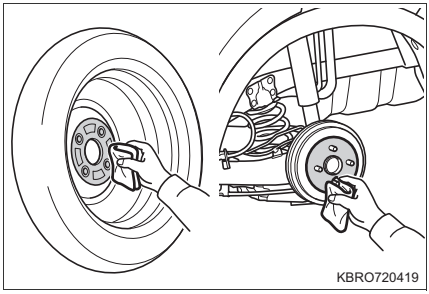
■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ネジ部やナットのテーパー部にオイルやグリースをぬらない
    ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
  - タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
    締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）
  - タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
  - ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
  - ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

応急用タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

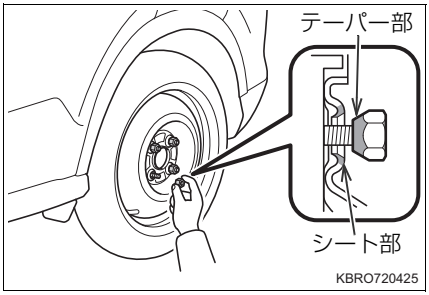
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。



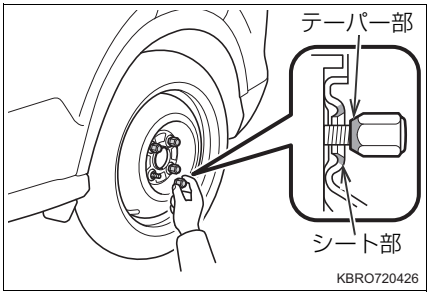
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す

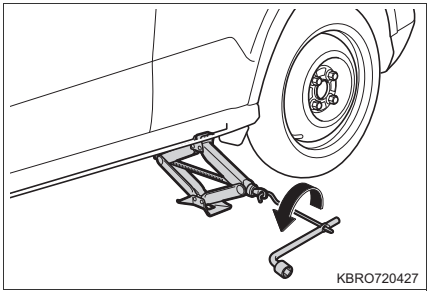
▶スチールホイール装着車



▶アルミホイール装着車

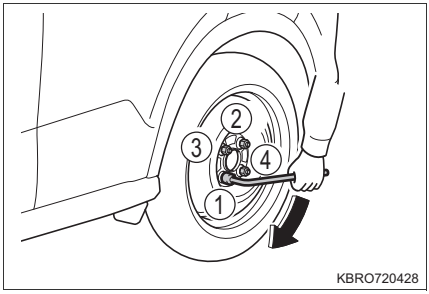


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ、パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 308）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する
2 パンクした前輪を外した後輪に交換する

⚠ 警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとの間に、指などを挟まないように注意してください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- CTA★
- EPS
- VSC
- TRC
- スマートアシスト

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ダイナミックトルクコントロール 4WD システム★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗り越えるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体に当たり、お車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

エンジンがかからないときは（ガソリン車）

正しいエンジンのかけ方（→ P. 88）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

●燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

●燃料を吸い込み過ぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 88）に従って、エンジンをかけてください。

●エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 44）

スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 294）

●バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターが回らない場合

●電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 293）

●ハンドルロックに異常がある可能性があります。

スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。

●バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 294）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

ハイブリッドシステムが始動できないときは（ハイブリッド車）

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 90）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

●電子カードキーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 293）

●燃料が入っていない可能性があります。給油してください。

●イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 44）

●ハンドルロックに異常がある可能性があります。

●電子カードキーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 293）

●外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（→ P. 41）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 294）

●補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

●補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 294）

●補機バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

電子カードキーが正常に働かないときは

電子カードキーと車両間の通信が妨げられたり（→ P. 69）、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動したりすることができます。

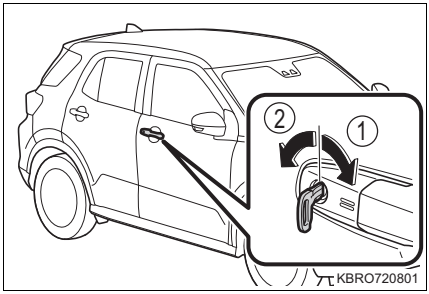
ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキー（→ P. 66）を使って次の操作ができます。

①全ドア施錠

②全ドア解錠

セキュリティアラームがセットされている場合は、セキュリティアラームが作動します。（→ P. 45）

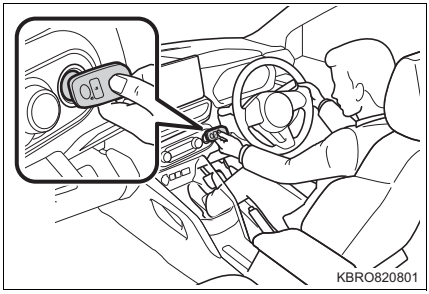


エンジン<ハイブリッドシステム>始動の方法

1 シフトレバーがPの状態でブレーキペダルを踏む

2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチ<パワースイッチ>に接触させる

- エンジンスイッチ<パワースイッチ>の表示灯が緑色に点灯します。
- セキュリティアラームの作動が停止します。（→ P. 45）



3 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

■エンジン<ハイブリッドシステム>の停止方法

通常のエンジン<ハイブリッドシステム>停止のしかたと同様、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチ<パワースイッチ>を押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジン<ハイブリッドシステム>の始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 232)

■エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモードの切り替え

エンジン<ハイブリッドシステム>始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチ<パワースイッチ>を押すと、エンジン<ハイブリッドシステム>が始動せず、スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→ P. 89, 91)

■電子カードキーが正常に働かない場合

電子カードキーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください(→ P. 69)

バッテリー<補機バッテリー>があがったときは

バッテリー<補機バッテリー>があがった場合、次の手順でエンジン<ハイブリッドシステム>を始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動させることができます。

ガソリン車

1 バッテリーの + 端子のカバーを開ける

ツメを押しながら開けます。

2 ブースターケーブルを次の順につなぐ

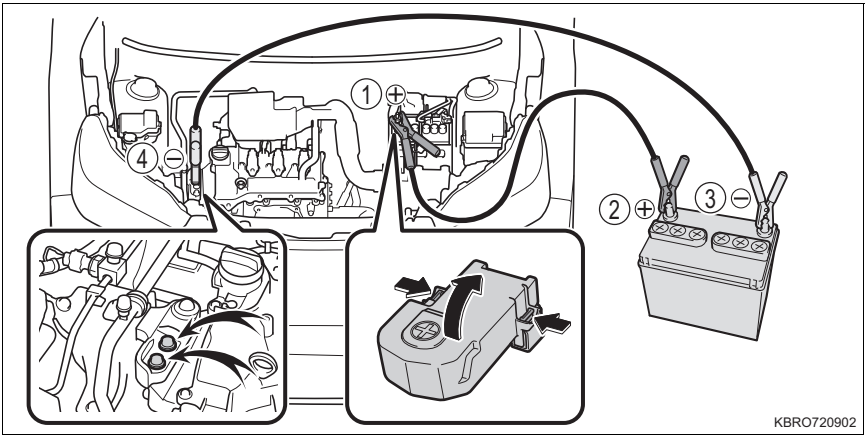
① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ

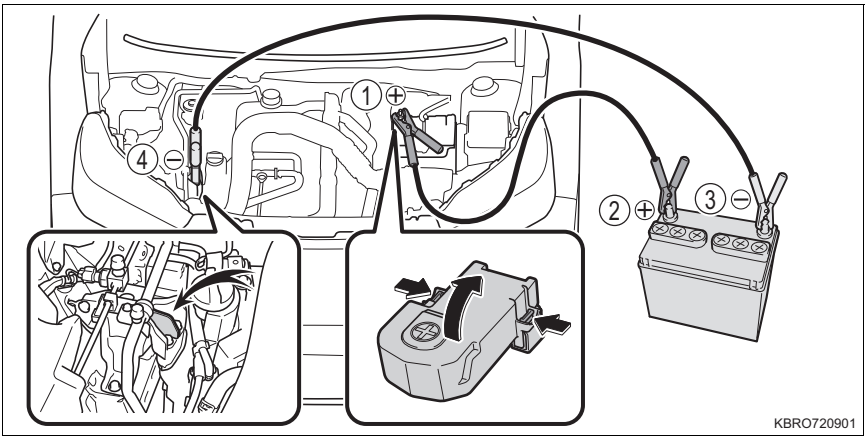
③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの−端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ

▶WA-VE エンジン



▶1KR-VET エンジン



3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチを一旦“ON”にしてから自車のエンジンをかける

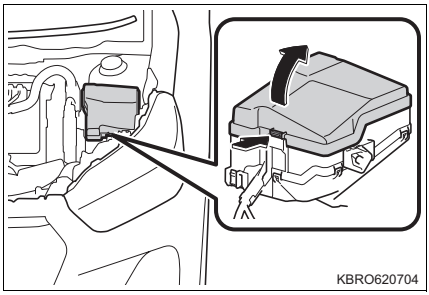
5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す

6 +端子のカバーを閉める

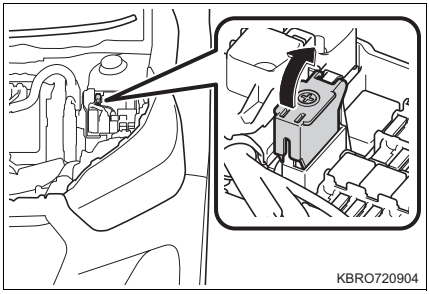
エンジンがかかっても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ハイブリッド車

1 ヒューズボックスのカバーを外す



2 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



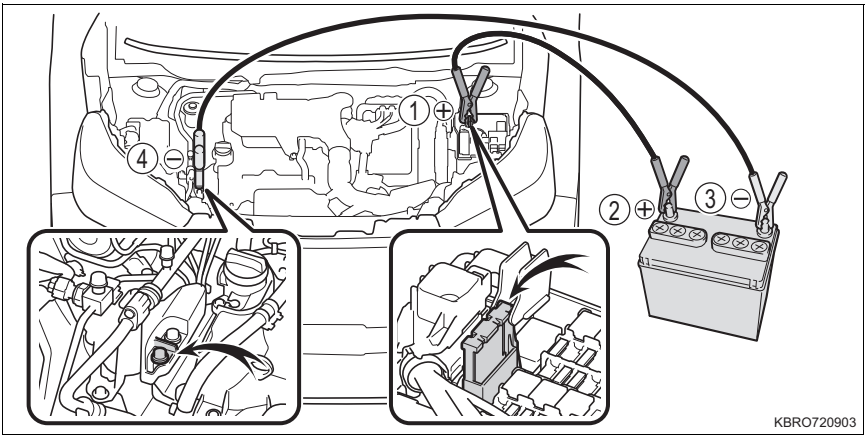
3 ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ



4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチを一旦 “ON” にしてからハイブリッドシステムを始動する

6 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はダイハツサービス工場にご連絡ください。

7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す

8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり＜補機バッテリーあがり＞のときの始動について
この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリー＜補機バッテリー＞があがったときは
コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー＜補機バッテリー＞があがったときはダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■バッテリー＜補機バッテリー＞の充電について
バッテリー＜補機バッテリー＞の電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリー＜補機バッテリー＞があがってエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動できなくなるおそれがあります。（バッテリー＜補機バッテリー＞は走行中に自動で充電されます）

■バッテリーあがり＜補機バッテリーあがり＞のときや取り外し時など

- バッテリー＜補機バッテリー＞脱着後、最初の始動操作ではエンジン＜ハイブリッドシステム＞が始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞の状態を記憶しています。バッテリーあがり＜補機バッテリーあがり＞のとき、バッテリー＜補機バッテリー＞の脱着後は、バッテリーを外す前の状態に復帰します。バッテリー＜補機バッテリー＞を脱着する際は、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を “OFF” にしてから行ってください。
  バッテリー＜補機バッテリー＞があがる前の状態が不明の場合、接続時は特に注意してください。

⚠ 警告

■引火または爆発を防ぐために

バッテリー<補機バッテリー>から発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー<補機バッテリー>付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- ●バッテリー<補機バッテリー>の液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■バッテリー<補機バッテリー>の取り扱いについて

バッテリー<補機バッテリー>内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリー<補機バッテリー>を取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリー<補機バッテリー>に近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●バッテリー<補機バッテリー>や周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリー<補機バッテリー>に近付けない

■バッテリー<補機バッテリー>を固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと（ハイブリッド車）

早めにダイハツサービス工場で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

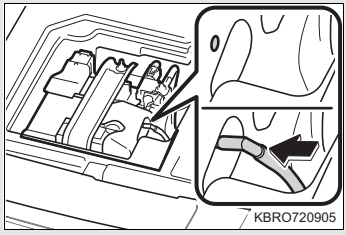
■お車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。

触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

■補機バッテリーを交換するとき（ハイブリッド車）

- ●ハイブリッド車は、専用の補機バッテリーを搭載しています。
  補機バッテリーは車内に搭載のため、排気ホースを取り付ける必要がありますので、補機バッテリーを交換するときは、このお車専用のダイハツ純正品をおすすめします。
  詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。
- ●交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースを確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入し、引火して爆発するおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ バッテリーあがり＜補機バッテリーあがり＞を防止するために

● エンジン＜ハイブリッドシステム＞が始動していないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

● 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーを交換するとき（ガソリン車）

ガソリン車に装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ バッテリーの取り扱いについて（ガソリン車）

バッテリーの端子から直接電装品の電源を取らないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ 救援用端子について（ハイブリッド車）

ハイブリッド車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 244）が赤色に点滅または点灯した
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車：「エンジン冷却水高温」または「ハイブリッドシステム出力制限中」の警告メッセージ（→ P. 251, 260）が表示された
- エンジン＜ハイブリッドシステム＞の出力が低下した（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したり、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」の警告メッセージが表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止する

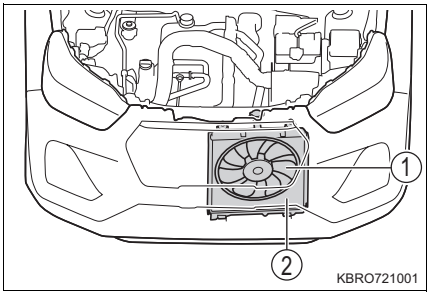
2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する

① ファン

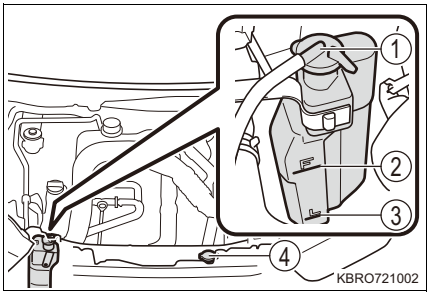
② ラジエーター

多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



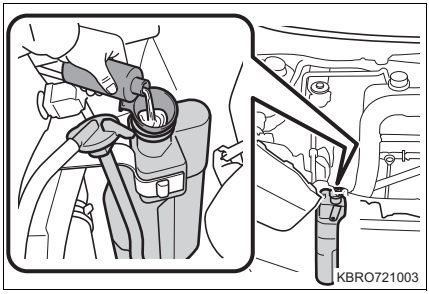
4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク
② “F”（上限）
③ “L”（下限）
④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水漏れがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止し、ダイハツサービス工場に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

■ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム出力制限中です」の警告メッセージが表示されたとき（ハイブリッド車）

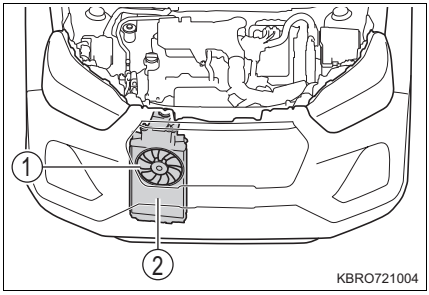
1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

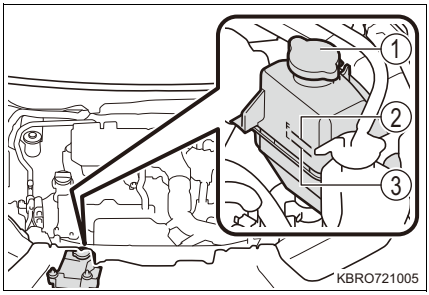
3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する

① ファン
② ラジエーター

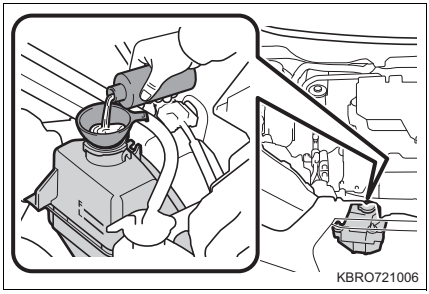
多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する
① リザーバータンク
② “F”（上限）
③ “L”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する
表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してダイハツサービス工場に連絡する
表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です
ただし、そのあとも頻繁に表示される場合は、ダイハツサービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

■処置を行う前に
水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ガソリン車は、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は、ハイブリッドシステムの停止後、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急に回り出すことがあります。ファンなどの回転部分に触れたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジン<ハイブリッドシステム>およびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジン<ハイブリッドシステム>が十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジン<ハイブリッドシステム>が熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジン<ハイブリッドシステム>が損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する

2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

3 タイヤの下に木や石などをあてがう

4 エンジン<ハイブリッドシステム>を再始動する

5 シフトレバーを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

VSC・TRCの作動で脱出しにくいときは、TRCまたはVSC・TRCを停止してください。（→ P. 202）

⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）…… 304
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 309

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）	
	ガソリン車	ハイブリッド車
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	36	33

エンジンオイル（WA-VE、WA-VEX エンジン搭載車）

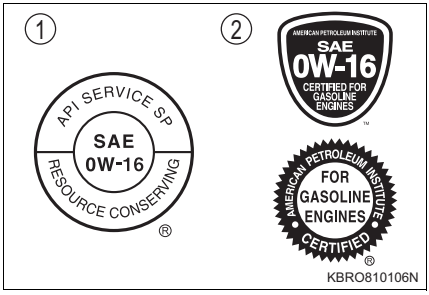
指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-16	3.2	3.4

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ **指定エンジンオイル**

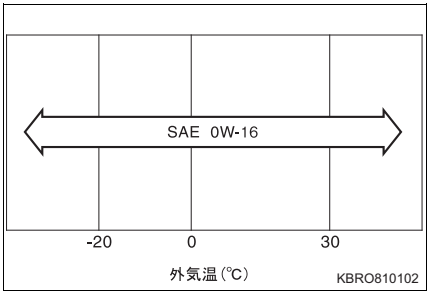
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

①API マーク
②ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものを使用してください。



オイル粘度について：

●0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

●0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。

粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

エンジンオイル（1KR-VET エンジン搭載車）

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-20	2.9	3.1

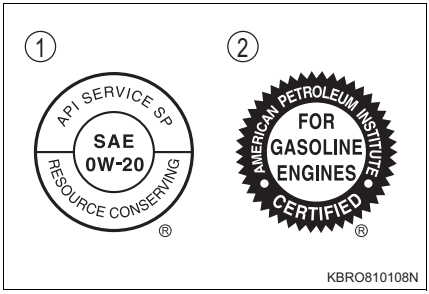
※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

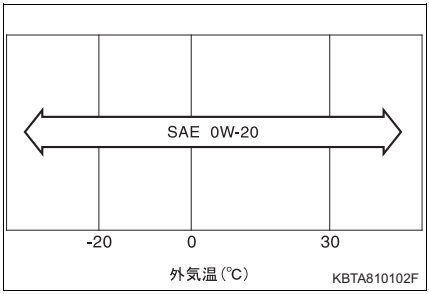
①API マーク

②ILSAC CERTIFICATION マーク



■ **エンジンオイル推奨粘度**

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものを使用してください。



オイル粘度について：

●0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

●0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

▶ガソリン車

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
アミックスロングライフクーラント （高防錆力タイプ） 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	WA-VE エンジン	4.2
	1KR-VET エンジン	4.7

▶ハイブリッド車

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
アミックスロングライフクーラント （高防錆力タイプ） 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	ガソリンエンジン	4.1
	パワーコントロールユニット	2.1

トランスミッション

▶CVT

指定銘柄	容量［L］ （参考値※）
アミックス CVT フルード -DFE	6.0

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

▶ハイブリッドトランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
オートフルードタイプ WS	3.78

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル （API GL-5 SAE 80W-90）	0.3

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル （API GL-5 SAE 80W-90）	0.36

ファンベルト

自動調整式のため点検不要です。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード（DOT3 相当）

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	0.5 ～ 3
踏み込んだときの床板とのすき間※	89

※ エンジン回転時に 294 N（30 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ（電動パーキングブレーキ非装着車）

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 196N（20kgf）のときのノッチ※ 数	5 ～ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

バッテリー

型式		
ガソリン車	電動パーキングブレーキ非装着車	M-42
	電動パーキングブレーキ装着車	N-55
ハイブリッド車		LN0

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
2.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	195/65R16 92H	16×6J	240（2.4）	240（2.4）
	195/60R17 90H	17×6J		
応急用タイヤ★	T135/80D16 101M	16×4T	420（4.2）	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
A201S	WA-VE（ガソリン）	FF（前輪駆動）
A202S	WA-VEX（ガソリン）	FF（前輪駆動）
A210S	1KR-VET（ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてダイハツサービス工場で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ キーフリーシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 66）

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
作動の合図（音量）	レベル 5	OFF
		レベル 1 ～ 7

■ キーフリーシステム（→ P. 66）

機能の内容	初期設定	変更後
キーフリーシステムの作動	あり	なし
電子カードキーの室外自動検知機能の作動	あり	なし

■ ドアロック

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応オートドアロック	あり	なし
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 （シフト操作連動ドアロック）	なし	あり
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 （シフト操作連動アンロック）	あり	なし
エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を“ACC”または“OFF”にしたときの全ドア解錠 （エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞“OFF”連動オートドアアンロック）	なし	あり
電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ったときの全ドア解錠 （ウェルカムドアロック解除）	なし	あり
ウェルカムドアロック解除が作動してから 15 秒後に自動再ロック	あり	なし

■ バックドア（→ P. 75）

機能の内容	初期設定	変更後
バックドアの右側スイッチ操作による作動	施錠のみ	施錠・解錠

■ 衝突警報機能（→ P. 126）

機能の内容	初期設定	変更後
衝突警報機能の警報タイミング	標準	早い
		遅い

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能（→ P. 138）

機能の内容	初期設定	変更後
車線逸脱警報機能の警報タイミング	標準	早い
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の警報ブザー（音量） （TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）	大きい	小さい

■ ステアリングアシスト（車線逸脱抑制制御機能、LKC★）（→ P. 138, 158）

機能の内容	初期設定	変更後
ステアリングアシストの作動	あり	なし

■ ふらつき警報（→ P. 142）

機能の内容	初期設定	変更後
ふらつき警報の作動	あり	なし

■ 先行車発進お知らせ機能（→ P. 143）

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の作動	あり	なし
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	遅い	標準
		早い
先行車発進お知らせ機能の警報ブザー（音量） （TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）	大きい	小さい

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★（→ P. 145）

機能の内容	初期設定	変更後
標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動	あり	なし
標識認識機能（進入禁止）作動のブザー	なし	あり

■ 全車速追従機能付 ACC★（→ P. 147）

機能の内容	初期設定	変更後
全車速追従機能付 ACC の先行車認識ブザー	あり	なし

■ BSM★、RCTA★（→ P. 168）

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い

■ オートエアコン★（→ P. 207）

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない
オートエアコン使用時の eco IDLE によるアイドリングストップの設定（ガソリン車）	標準	空調※

※ エアコンの作動が優先され、eco IDLE によるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。（→ P. 162）

■ ランプ（→ P. 102）

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞と連動	運転席ドアと連動
電子カードキーで全ドア解錠時に車幅灯、番号灯、尾灯が自動点灯（ウェルカムランプ設定（テールランプ連動））	しない	する

■ ヘッドランプ点灯延長機能（→ P. 103）

機能の内容	初期設定	変更後
ヘッドランプが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒
		90 秒
		120 秒

■ メーター

機能の内容	初期設定	変更後
メーター照明が夜照度になる感度	0	− 2 ～ 2

■ イルミネーション

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯する時間	15 秒	OFF
		7.5 秒
		30 秒
室内灯が自動で消灯する	する	しない
エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞“OFF” 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし
電子カードキーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯（ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動））	する	しない

■ ドアミラー（→ P. 80）

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラースイッチの操作によるドアミラーの格納・復帰	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が “ACC” または “ON” で格納・復帰できる	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が “ON” で格納・復帰できる
オート作動によるドアミラーの復帰	キーフリーシステムによるドアの解錠と連動して復帰する	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞の操作と連動して復帰する
エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞の操作によるドアミラーの復帰※	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を “ACC” または “ON” にすると復帰する	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を “ON” にすると復帰する

※ オート作動によるドアミラーの復帰の設定をエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞の操作と連動に変更した場合

■ フロントワイパー（→ P. 111）

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能★	する	しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤワイパー&ウォッシャー（→ P. 112）

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い
		遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

■ 方向指示レバー（→ P. 97）

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの 3回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の 3 回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ～ 4
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 9

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。

お問い合わせには、あらかじめ次の事項について確認の上、ご連絡願います。

⑴車名および型式、登録番号
⑵ご購入年月日
⑶走行距離
⑷お客様のご住所、お名前、電話番号

●印刷＝2024年10月4日　●発行＝2024年10月11日

241011-1

01999-B1252

ダイハツ工業株式会社

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール　0800-500-0182
受付時間　9：00～17：00
〒563-8651　大阪府池田市ダイハツ町1番1号

取扱説明書（抜粋版）は従来に比べ、大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴うCO2排出量の低減が見込まれます。
ダイハツは持続可能でより良い社会の実現にこれからも貢献していきます。

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html）

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。